秋田県文化財調査報告書第291集

遺跡詳細分布調査報告書

1999・3

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

1999・3

秋田県教育委員会

序

秋田県内には4,000カ所を超える遺跡の存在が知られておりますが、それらは私たちの祖先の生活の痕跡であり、埋蔵文化財として今日まで受け継がれてきたものです。こうした大地に刻まれた歴史は、損なうことなく未来へと引き継いでいかなければなりません。

近年、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となってきております。遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査はそのための基礎となるものであります。

本報告書は、平成10年度に国庫補助事業として実施した県営ほ場整備事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業などの遺跡分布調査と、森吉山ダム建設事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業・県営ほ場整備事業などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。

報告書をまとめるにあたり、調査にご協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご理解くださいますようお願い申し上げます。

平成11年3月

秋田県教育委員会

教育長　小野寺　清

例　言

1　本報告書は平成10年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の報告書である。ただし、遺跡分布調査については、平成10年4月から平成10年12月までに実施した調査結果である。このほか、平成10年2月から3月までに実施した遺跡分布調査結果を平成9年度分の補足として掲載した。

2　本報告書に記載の遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査は主に秋田県教育庁文化課・秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は遺跡分布調査については秋田県教育庁文化課、遺跡範囲確認調査については各調査担当者がそれぞれ作成したものを、秋田県埋蔵文化財センターが編集した。

3　本報告書に使用した地図は、国土地理院発行の50,000分の1および25,000分の1地形図と、日本道路公団・建設省・秋田県農政部・秋田県土木部が作製した1,000分の1地形図である。

目　　次

序
例言
目次

第1章　はじめに …… 1
第2章　平成10年度遺跡分布調査・
　　遺跡範囲確認調査実施要項 …… 1
　第1節　遺跡分布調査 …… 1
　第2節　遺跡範囲確認調査 …… 3
第3章　調査の記録 …… 5
　第1節　遺跡分布調査 …… 5
　　1　平成10年2月～3月補足分 …… 5
　　（1）日本海沿岸東北自動車道建設事業
　　昭和・琴丘間 …… 5
　　（2）琴丘能代道路建設事業 …… 7
　　（3）大館西街路整備事業 …… 7
　　（4）秋田空港アクセス道路整備事業 …… 8
　　（5）国道285号南沢バイパス建設事業 …… 8
　　（6）国道107号改築事業 …… 9
　　（7）県営ほ場整備事業鷹巣地区・
　　前山地区 …… 9
　　（8）県営ほ場整備事業金岡地区 …… 10
　　（9）県営ほ場整備事業内越地区 …… 11
　　2　平成10年度分 …… 12
　　（1）日本海沿岸東北自動車道建設事業
　　昭和・琴丘間 …… 12
　　（2）森吉山ダム建設事業 …… 12
　　（3）国道282号湯瀬バイパス建設事業 …… 12
　　（4）国道285号南沢バイパス建設事業 …… 14
　　（5）県道十二所花輪大湯線整備事業 …… 14
　　（6）県道大館鷹巣線整備事業 …… 15
　　（7）県道能代五城目線整備事業 …… 15
　　（8）県道秋田八郎潟線整備事業 …… 16
　　（9）県道雄和岩城線整備事業 …… 16
　　（10）緊急地方道路整備事業象潟矢島線 …… 17
　　（11）県道神岡南外東由利線整備事業 …… 17
　　（12）県道二井山大森線整備事業 …… 18
　　（13）県営ほ場整備事業花輪地区 …… 18
　　（14）県営ほ場整備事業道目木地区 …… 19
　　（15）県営ほ場整備事業摩当地区 …… 19
　　（16）県営ほ場整備事業小渕地区 …… 20
　　（17）県営ほ場整備事業上仏社地区 …… 21
　　（18）県営ほ場整備事業新荘地区 …… 21
　　（19）県営ほ場整備事業角間川地区 …… 22
　　（20）県営ほ場整備事業大杉地区 …… 22
　　（21）県営ほ場整備事業横堀第2地区 …… 23
　　（22）県営ほ場整備事業十五野地区 …… 23
　　（23）県営ほ場整備事業田根森地区 …… 24
　　（24）農免農道整備事業金岡西部地区 …… 25
　　（25）新水族館建設事業 …… 26
　第2節　遺跡範囲確認調査 …… 27
　　1　森吉山ダム建設事業 …… 27
　　（1）鷲ノ瀬遺跡 …… 28
　　（2）向様田地区 …… 34
　　2　日本海沿岸東北自動車道
　　秋田琴丘線建設事業 …… 37
　　（1）西野遺跡 …… 38
　　（2）縄手内遺跡 …… 46
　　（3）越雄遺跡 …… 48
　　（4）中谷地遺跡 …… 55
　　（5）北遺跡 …… 65
　　（6）小林遺跡 …… 71
　　（7）堂の下遺跡 …… 78
　　（8）狐森遺跡 …… 85
　　3　日本海沿岸東北自動車道
　　象潟秋田線建設事業 …… 92
　　（1）岱Ⅰ・岱Ⅱ・岱Ⅲ遺跡 …… 92
　　4　県営ほ場整備事業中房地区 …… 102
　　（1）観音寺廃寺跡 …… 102
　　（2）寺内遺跡 …… 109
　　5　県営ほ場整備事業大砂川地区 …… 114
　　（1）ヲフキ遺跡 …… 114
　　6　県営ほ場整備事業寺沢地区 …… 124
　　（1）館堀城跡 …… 124
　　7　秋田空港アクセス道路整備事業 …… 131
　　（1）奥椿岱遺跡 …… 131
　　8　緊急地方道路整備事業象潟矢島線 …… 139
　　（1）御嶽公園館跡 …… 139

第1章　はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成9年度の補足分は、県営ほ場整備事業内越地区・同鷹巣地区・同前山地区・同金岡地区・国道285号南沢バイパス建設事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業(昭和・琴丘間)・秋田空港アクセス道路整備事業・大館西街路整備事業・琴丘能代道路建設事業・国道107号改築事業、平成10年度分は、県営ほ場整備事業摩当地区・同角間川地区・同十五野地区・同大杉地区・同田根森地区・同小渕地区・同道目木地区・同横堀第2地区・同上仏社地区・同花輪地区・同新荘地区・森吉山ダム建設事業・県道雄和岩城線整備事業・県道秋田八郎潟線整備事業・県道神岡南外東由利線整備事業・緊急地方道路整備事業象潟矢島線・国道285号南沢バイパス建設事業・県道能代五城目線整備事業・県道二井山大森線整備事業・農免農道整備事業金岡西部地区・新水族館建設事業・県道十二所花輪大湯線整備事業・国道282号湯瀬バイパス建設事業・県道大館鷹巣線整備事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業(昭和・琴丘間)の遺跡分布調査と、森吉山ダム建設事業・日本海沿岸東北自動車道秋田琴丘線建設事業・同象潟秋田線建設事業・県営ほ場整備事業中房地区・同大砂川地区・同寺沢地区・秋田空港アクセス道路整備事業・緊急地方道路整備事業象潟矢島線に係る遺跡範囲確認調査である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センター職員、本荘市、琴丘町、鷹巣町の専門職員、それに各地元教育委員会職員の協力を得て、平成10年2月から平成10年12月にかけて実施したものである。

第2章　平成10年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項

第1節　遺跡分布調査

1　調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

2　調査の方法

(1)計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。

(2)確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。

(3)遺跡の現況、遠景を写真記録し、遺跡の概要も記録する。

3　事業主体者

秋田県教育委員会

4　調査担当者

秋田県　教育庁	文化課	学芸主事	小徳　晶・武藤祐浩・石井啓之
本荘市教育委員会	社会教育課	主任	長谷川潤一
鷹巣町教育委員会	生涯学習課	主事	岩越宏典

＊平成10年２月～３月分については

秋田県　教育庁　　文化課　　学芸主事　　小徳　晶・武藤祐浩

本荘市教育委員会　社会教育課　主任　　長谷川潤一

琴丘町教育委員会　生涯学習課　主事　　木村将来

５　調査対象地域及び事業名

（平成10年２月～３月補足分）

No.	事　業　名	調査期間	調査内容	調査結果等
1	県営ほ場整備事業内越地区	平成10年２月16・17日 平成10年３月19・20日	踏査・試掘	事業地内に新発見の遺跡１カ所を確認。
2	国道285号南沢バイパス建設事業	平成10年３月３・６日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
3	日本海沿岸東北自動車道建設事業 昭和・琴丘間	平成10年３月４～６日	試掘	事業地内に新発見の遺跡４カ所を確認。
4	県営ほ場整備事業鷹巣地区・前山地区	平成10年３月11・12日	試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
5	秋田空港アクセス道路整備事業	平成10年３月13・25・27・30日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
6	大館西街路整備事業	平成10年３月16・17日	踏査	試掘必要箇所の有無を検討。要再調査。
7	琴丘能代道路建設事業	平成10年３月18・19日	試掘	事業地内に新発見の遺跡１カ所を確認。
8	県営ほ場整備事業金岡地区	平成10年３月26・27日	試掘	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
9	国道107号改築事業	平成10年３月31日	踏査	試掘必要箇所の有無を検討。要再調査。

（平成10年度分）

No.	事　業　名	調査期間	調査内容	調査結果等
1	県営ほ場整備事業摩当地区	平成10年４月13・15日 平成10年10月30日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
2	森吉山ダム建設事業	平成10年４月20・21日	試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
3	県営ほ場整備事業角間川地区	平成10年６月２日 平成10年12月２日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
4	県営ほ場整備事業十五野地区	平成10年６月５日 平成10年７月７日	試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
5	県営ほ場整備事業大杉地区	平成10年６月12日	踏査・試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
6	県道雄和岩城線整備事業	平成10年６月18日	試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
7	県道秋田八郎潟線整備事業	平成10年６月24日 平成10年９月８日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
8	県営ほ場整備事業田根森地区	平成10年７月２日 平成10年９月９日	踏査・試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
9	県道神岡南外東由利線整備事業	平成10年７月17日 平成10年12月11日	踏査・試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
10	緊急地方道路整備事業象潟矢島線	平成10年７月21日 平成10年11月６日	踏査	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
11	国道285号南沢バイパス建設事業	平成10年７月31日 平成10年11月20日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
12	県道能代五城目線整備事業	平成10年７月31日 平成10年11月20日	踏査	試掘必要箇所の有無を検討。要再調査。
13	県営ほ場整備事業小渕地区	平成10年８月20日 平成10年10月23日 平成10年11月17・18日	踏査・試掘	事業地内に新発見の遺跡１カ所を確認。
14	県道二井山大森線整備事業	平成10年９月２日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
15	県営ほ場整備事業道目木地区	平成10年９月３日	踏査	試掘必要箇所の有無を検討。要再調査。
16	農免農道整備事業金岡西部地区	平成10年９月18日 平成10年11月20日 平成10年12月８日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡２カ所を確認。
17	新水族館建設事業	平成10年９月24日	踏査・試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
18	県営ほ場整備事業横堀第２地区	平成10年10月12日	踏査	事業隣接地に周知の遺跡２カ所を確認。
19	県道十二所花輪大湯線整備事業	平成10年10月22・23日	踏査	周知の遺跡１カ所を確認。また、試掘必要箇所の有無を検討。
20	国道282号湯瀬バイパス建設事業	平成10年10月22・23日	踏査・試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
21	県営ほ場整備事業上仏社地区	平成10年10月27日	踏査・試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
22	県営ほ場整備事業花輪地区	平成10年10月29日	踏査	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。また、試掘必要箇所の有無を検討。
23	県営ほ場整備事業新荘地区	平成10年11月16日 平成10年12月11日	踏査・試掘	事業地内に周知の遺跡１カ所を確認。
24	県道大館鷹巣線整備事業	平成10年12月３日	踏査・試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。
25	日本海沿岸東北自動車道建設事業 昭和・琴丘間	平成10年11月12日 平成10年12月３日	試掘	事業地内に遺跡は発見されなかった。

第２節　遺跡範囲確認調査

１　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して、埋蔵文化財の保護と保存を図る。

２　調査の方法

（１）遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために、当該地域での遺物の表面採集および小規模の発掘調査(遺構確認面までの掘り下げ)を行う。

（２）地形等を考慮し、できるかぎり面的に調査地域を広げて遺構の確認に努める。

（３）現場で確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録を行う。その際、遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは写真撮影をする。

（４）使用する地形図は開発部局で作製した一番大きな縮尺図面とする。

（５）遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

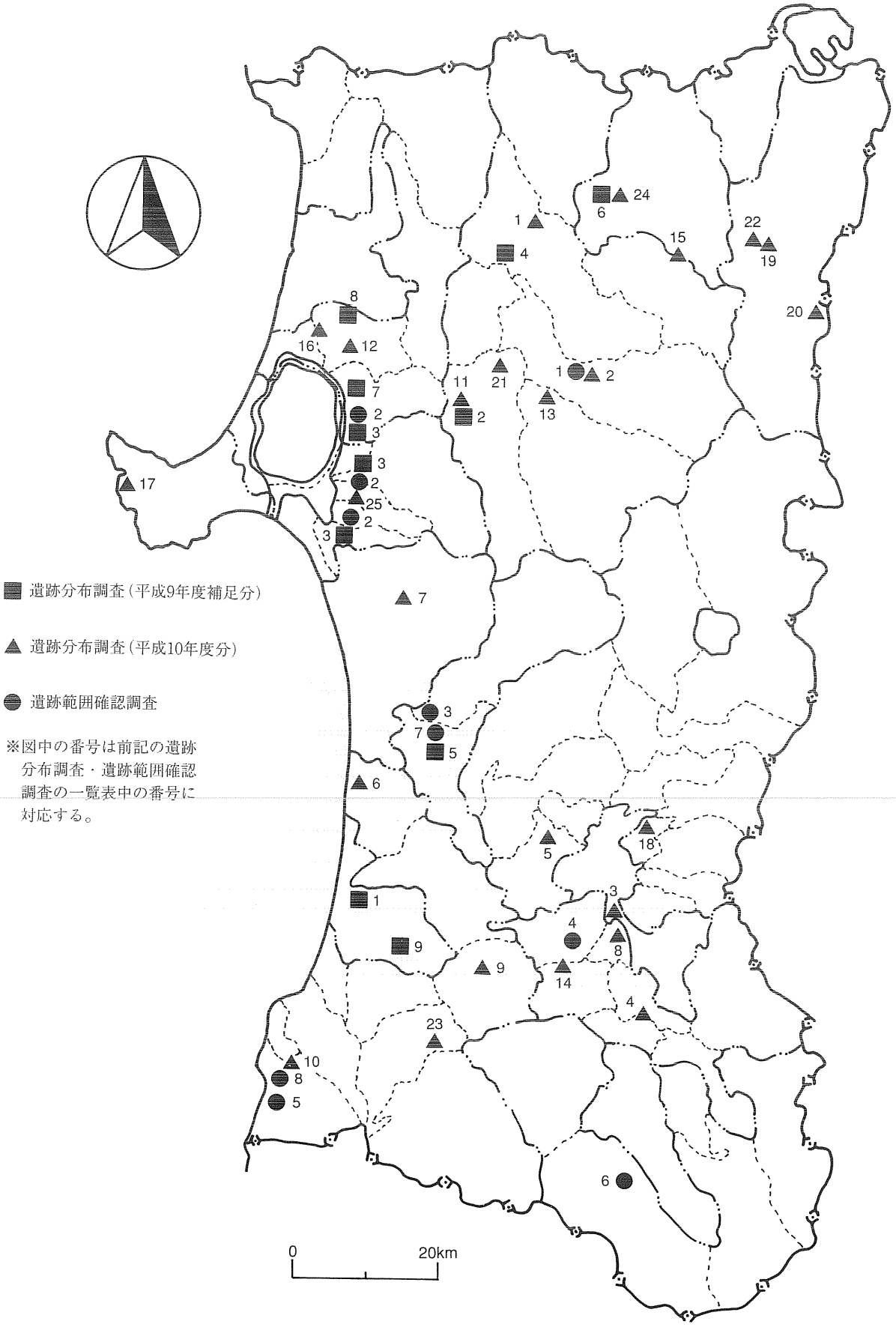
４　調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター調査第一科長　高橋忠彦　同調査第二科長　柴田陽一郎

同学芸主事　榮　一郎・高橋　学・三嶋隆儀・松本昌樹・藤原　司・小林芳行・吉川　孝・五十嵐一治・泉田　健・石澤宏基・渡邊慎一　同主事　高橋　保　同文化財主事　村上義直・小山有希・加藤　竜　同非常勤職員　伊藤　攻・伊藤一彦・亀井崇晃・菊地誠重・熊谷　誠・栗原　拓・黒澤幸子・小西秀平・佐々木政任・高橋俊幸・高橋雅典・高平信也・田口康平・千葉史宏・戸嶋正明・播摩芳紀・平田有宏・藤田賢哉・安原　誠・山崎真理子・山中　徹・山根勇人

５　事業名・調査対象遺跡・調査期間・調査担当者

No.	事　業　名	遺跡名・所在地	調　査　期　間	調　査　担　当　者
1	森吉山ダム建設事業	鷲ノ瀬遺跡（森吉町） 向様田地区（森吉町）	平成10年５月12日～22日 平成10年８月17日～９月18日	三嶋隆儀・高橋俊幸
2	日本海沿岸東北自動車道 秋田琴丘線建設事業	西野遺跡（昭和町） 縄手内遺跡（井川町） 越雄遺跡（井川町） 中谷地遺跡（五城目町） 北遺跡（五城目町） 小林遺跡（琴丘町） 堂の下遺跡（琴丘町） 狐森遺跡（琴丘町）	平成10年５月11日～６月23日 平成10年８月４日～22日 平成10年10月19日～11月６日	高橋忠彦・吉川孝・泉田健 石澤宏基・高橋保・村上義直 加藤竜・伊藤一彦・亀井崇晃 菊地誠重・熊谷誠・栗原拓 黒澤幸子・小西秀平・佐々木政任 高橋雅典・高平信也・千葉史宏 戸嶋正明・播摩芳紀・平田有宏 藤田賢哉・安原誠・山崎真理子 山中徹
3	日本海沿岸東北自動車道 象潟秋田線建設事業	岱Ⅰ遺跡（河辺町） 岱Ⅱ遺跡（河辺町） 岱Ⅲ遺跡（河辺町）	平成10年４月27日～５月29日	柴田陽一郎・藤原司・栗原拓 小西秀平・山崎真理子
4	県営ほ場整備事業 中房地区	観音寺廃寺跡（大森町） 寺内遺跡（大森町）	平成10年11月16日～12月18日	榮一郎・五十嵐一治・小山有希 亀井崇晃・佐々木政任・田口康平 山中徹
5	県営ほ場整備事業 大砂川地区	ヲフキ遺跡（象潟町）	平成10年11月13日～12月18日	柴田陽一郎・高橋学・松本昌樹 吉川孝・石澤宏基・村上義直 加藤竜・伊藤攻・小西秀平 安原誠・山根勇人
6	県営ほ場整備事業 寺沢地区	館堀城跡（雄勝町）	平成10年11月12日～27日	高橋学・藤原司・渡邊慎一 菊地誠重
7	秋田空港アクセス道路 整備事業	奥椿岱遺跡（雄和町）	平成10年４月21日～24日	柴田陽一郎・藤原司・栗原拓 小西秀平・山崎真理子
8	緊急地方道路整備事業 象潟矢島線	御嶽公園館跡（象潟町）	平成10年11年16日～30日	小林芳行・栗原拓



第１図　遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査位置図

第３章　調査の記録

第１節　遺跡分布調査

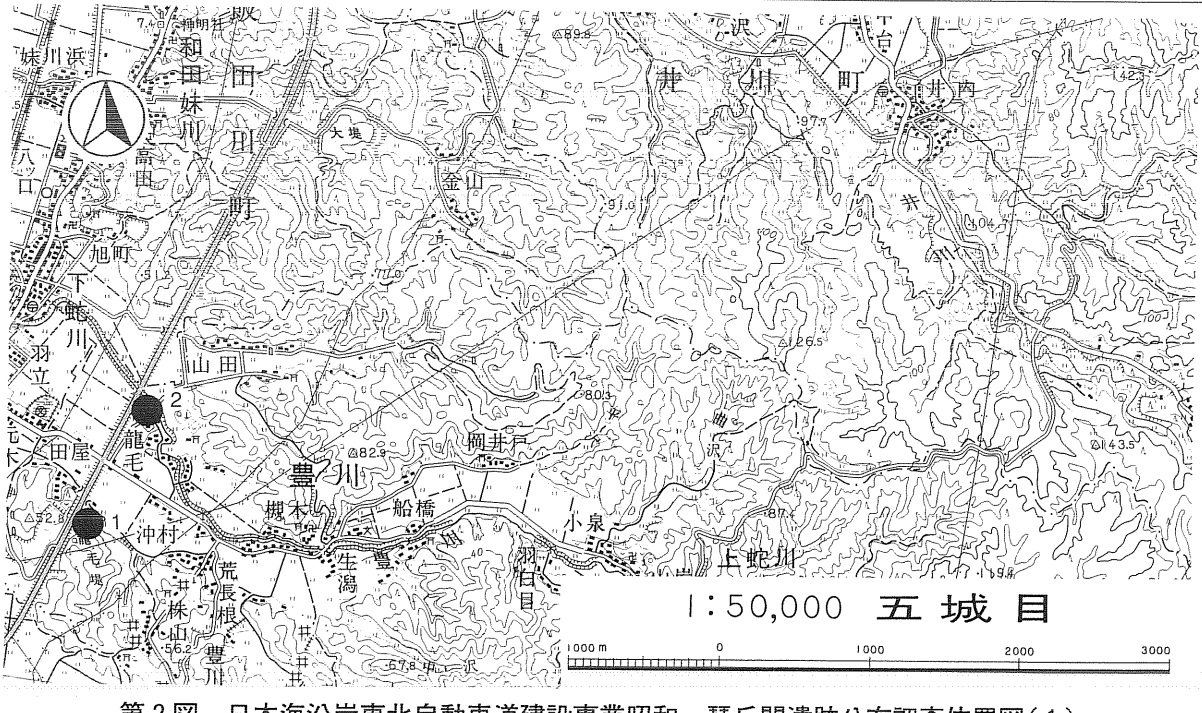
１　平成10年２月～３月補足分

（１）日本海沿岸東北自動車道建設事業昭和・琴丘間

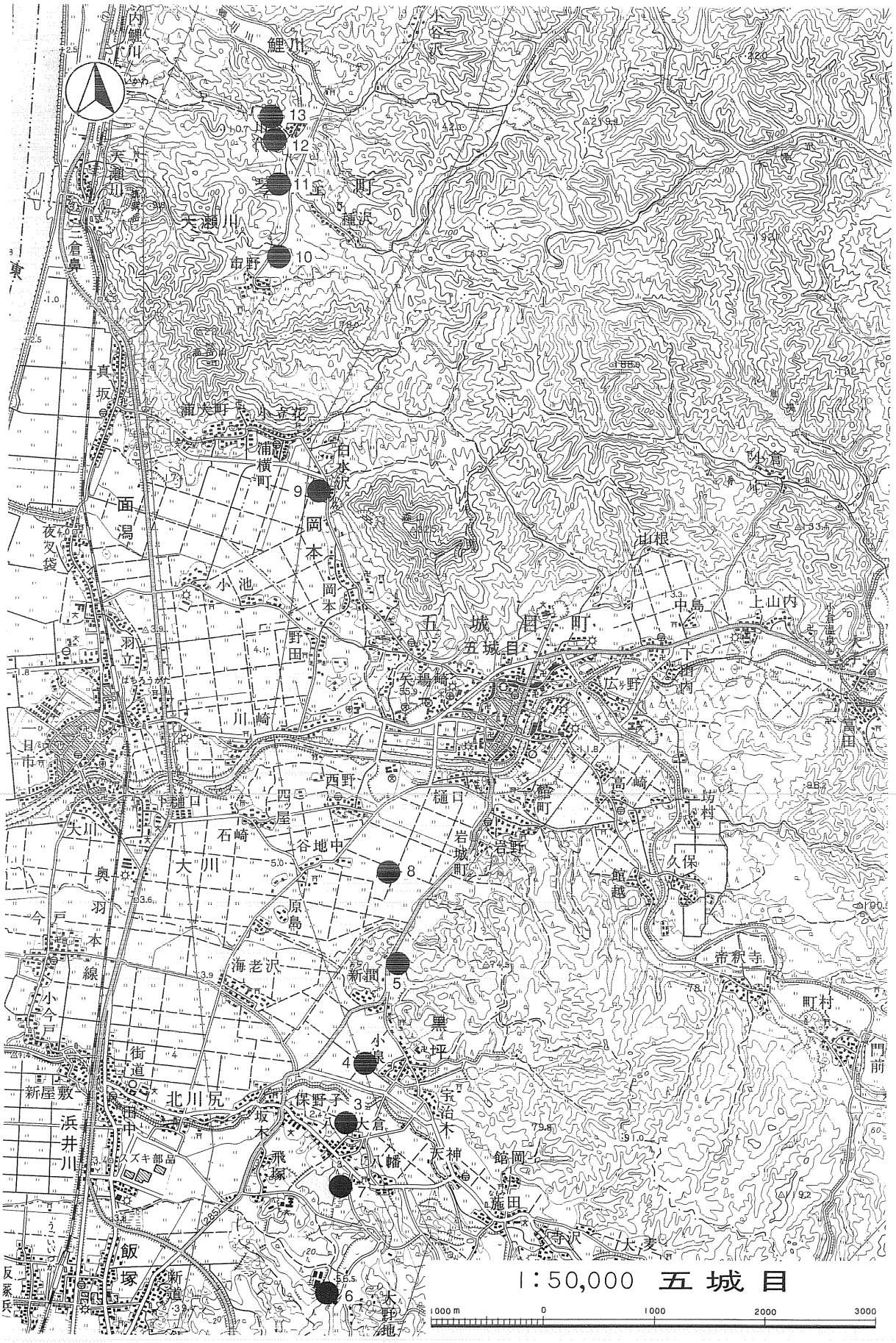
昭和町の昭和男鹿半島インターから、琴丘町鹿渡に計画中の琴丘インターまでの延長20.7kmのうち、11カ所について再試掘を行った。

調査の結果、４カ所に新発見の遺跡を確認した。新発見の遺跡については、今後範囲確認調査が必要である。なお、予定路線の中には若干の試掘必要箇所を残している。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時　代	現況	遺構・遺物	備　　考
1	・・・・	昭和町豊川龍毛字山ノ下	・・・	山林	なし	
2	毘沙門遺跡	昭和町豊川龍毛字毘沙門	古代	畑地	土師器片	新発見の遺跡
3	縄手内遺跡	井川町八田大倉字縄手内	縄文・古代	水田	土器片	新発見の遺跡
4	・・・・	井川町黒坪字越雄	・・・	水田	なし	
5	・・・・	井川町黒坪字下国道	・・・	水田	なし	
8	中谷地遺跡	五城目町大川西野字中谷地	古代	水田	須恵器片	新発見の遺跡
9	山際道ノ下遺跡	五城目町浦横町字山際道ノ下	縄文	水田	石匙	新発見の遺跡
10	・・・・	琴丘町天瀬川字市野	・・・	水田	なし	
11	・・・・	琴丘町天瀬川字市野	・・・	山林	なし	
12	・・・・	琴丘町天瀬川字市野	・・・	山林	なし	
13	・・・・	琴丘町鯉川字川岱	・・・	山林	なし	



第２図　日本海沿岸東北自動車道建設事業昭和・琴丘間遺跡分布調査位置図（１）



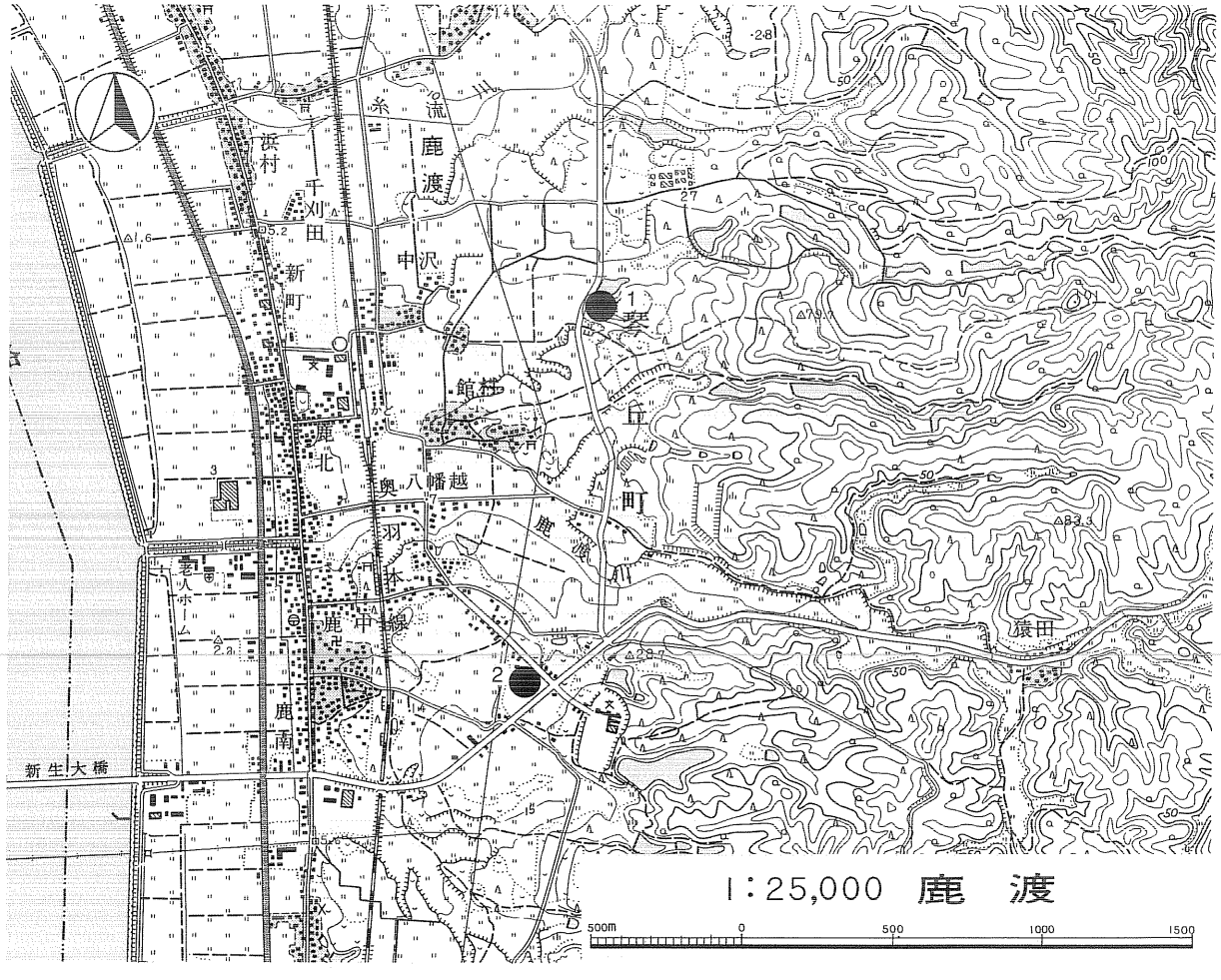
第３図　日本海沿岸東北自動車道建設事業昭和・琴丘間遺跡分布調査位置図（２）

（２）琴丘能代道路建設事業

八竜町八幡台を起点に琴丘町鹿渡を終点とする延長12.9kmのうち、琴丘町を通過する計画路線について部分的に試掘を実施した。

調査の結果、新発見の遺跡１カ所が事業に係わることを確認した。この遺跡については今後範囲確認調査が必要である。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時　代	現況	遺構・遺物	備　　考
1	諏訪長根遺跡	琴丘町鹿渡字諏訪長根	・・・	山林	なし	周知の遺跡
2	盤若台遺跡	琴丘町鹿渡字盤若台	縄文・古代	水田	土器・溝	新発見の遺跡



第４図　琴丘能代道路建設事業遺跡分布調査位置図

（３）大館西街路整備事業（位置図は第14図）

大館市根下戸新町で、大館西道路から県道大館鷹巣線に接続する予定路線について踏査を実施した。

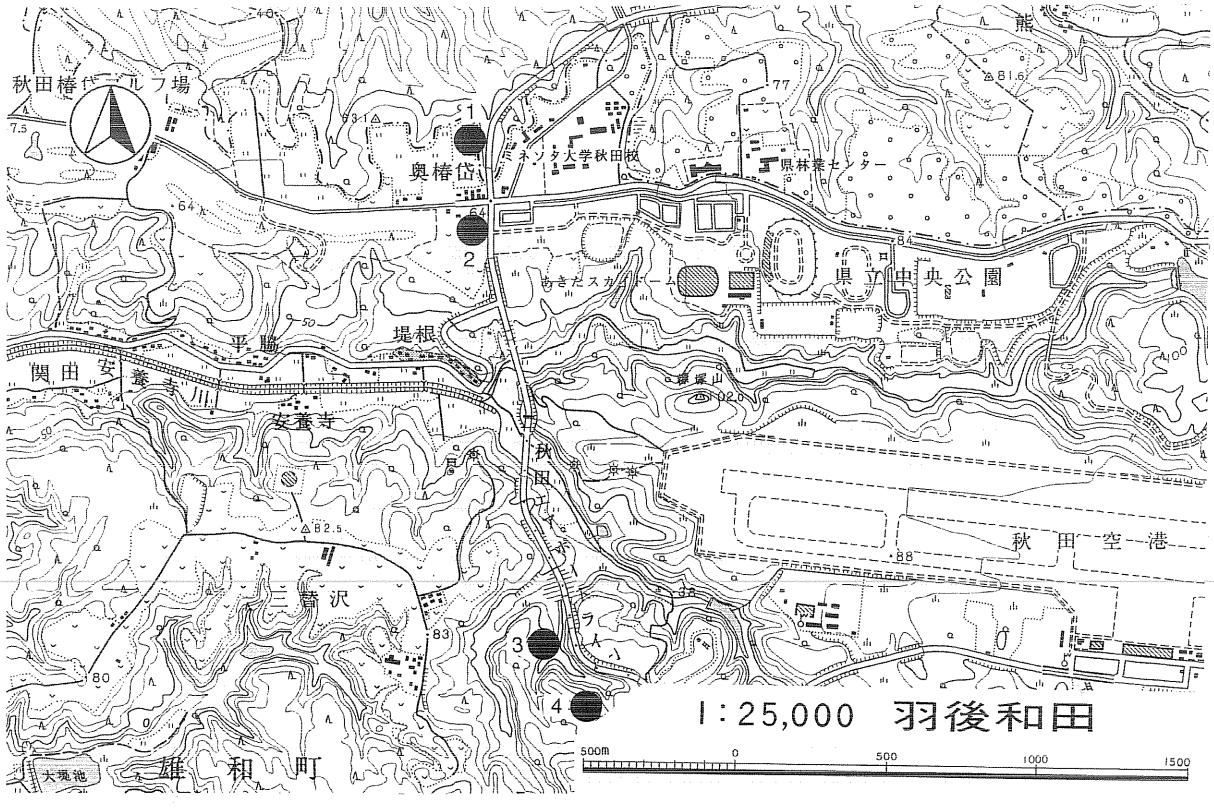
先に発掘調査の実施された根下戸道下遺跡から連続する台地上にあたっており、試掘地点の選定を行った。今後の試掘調査が必要である。

（４）秋田空港アクセス道路整備事業

秋田市上北手から秋田空港に向かう延長8.28kmの予定路線のうち、雄和町部分について試掘調査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡１カ所が事業に係ることを確認した。この遺跡については平成10年度に範囲確認調査が必要である。また、予定路線の中には一部試掘必要箇所を残しており、今後の調査が必要である。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時　代	現況	遺構・遺物	備　考
1	奥椿岱遺跡	雄和町椿川字奥椿岱	縄文	牧草地	土坑・土器片	周知の遺跡
2	・・・・	雄和町椿川字奥椿岱	・・・	畑地	なし	
3	・・・・	雄和町椿川字小友沢	・・・	山林	なし	
4	・・・・	雄和町椿川字小友沢	・・・	山林	なし	



第５図　秋田空港アクセス道路整備事業遺跡分布調査位置図

（５）国道285号南沢バイパス建設事業（位置図は第12図、下表の番号は図中の番号に対応）

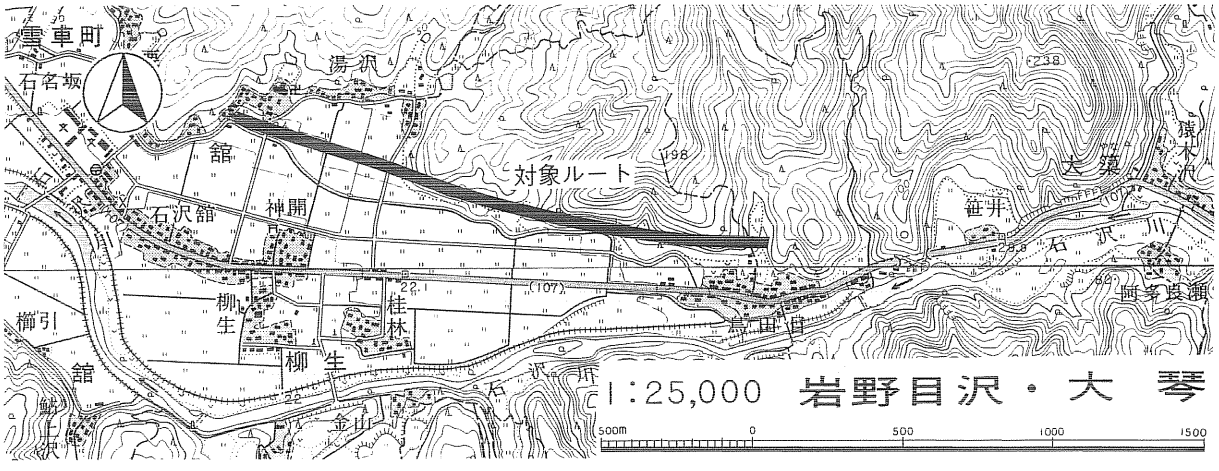
上小阿仁村南沢字餌刺岱を起点に、上小阿仁村字大林を終点とする3.9kmの予定路線の内、周知の餌刺岱遺跡とその周辺について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、餌刺岱遺跡の範囲が事業地に広がることを確認したが、遺物の分布も希薄であり工事立会の対応とすることとした。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時　代	現況	遺構・遺物	備　考
2	餌刺岱遺跡	上小阿仁村南沢字餌刺岱	縄文	水田・山林	縄文土器片	周知の遺跡
3	・・・・	上小阿仁村南沢字餌刺岱	・・・	荒地	なし	
4	・・・・	上小阿仁村南沢字餌刺岱	・・・	山林	なし	

（６）国道 107 号改築事業

本荘市雪車町から本荘市大梁に、延長 4.08㎞で計画されているバイパスの予定路線について踏査し、試掘必要箇所の選定を行った。今後の試掘調査が必要である。

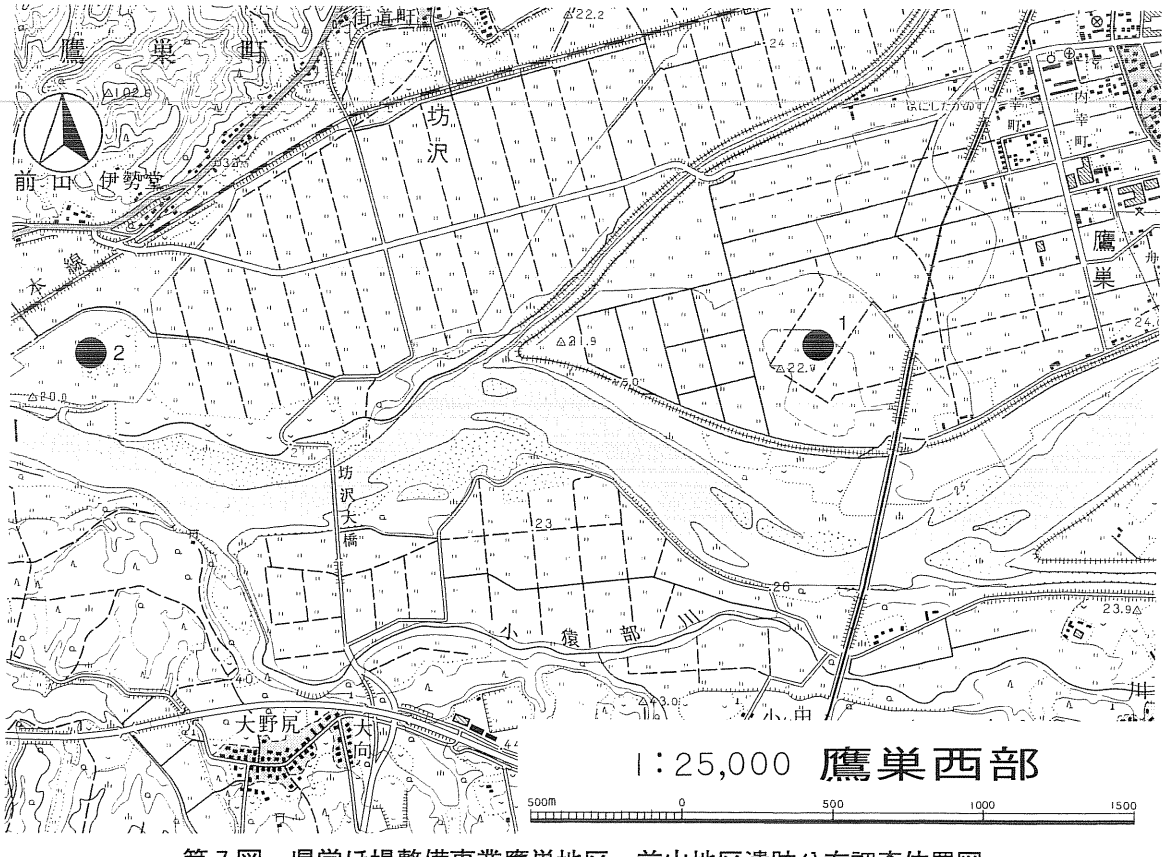


第６図　国道 107 号改築事業遺跡分布調査位置図

（７）県営ほ場整備事業鷹巣地区・前山地区

鷹巣町鷹巣地区・前山地区に計画されていた平成 10～11 年度工事予定地区について試掘を実施した。調査の結果、遺構・遺物は検出されず、新たな遺跡の発見はなかった。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現況	遺構･遺物	備　考
1	・・・・	鷹巣町鷹巣字中島	・・・	水田	なし	
2	・・・・	鷹巣町前山字村向	・・・	水田	なし	



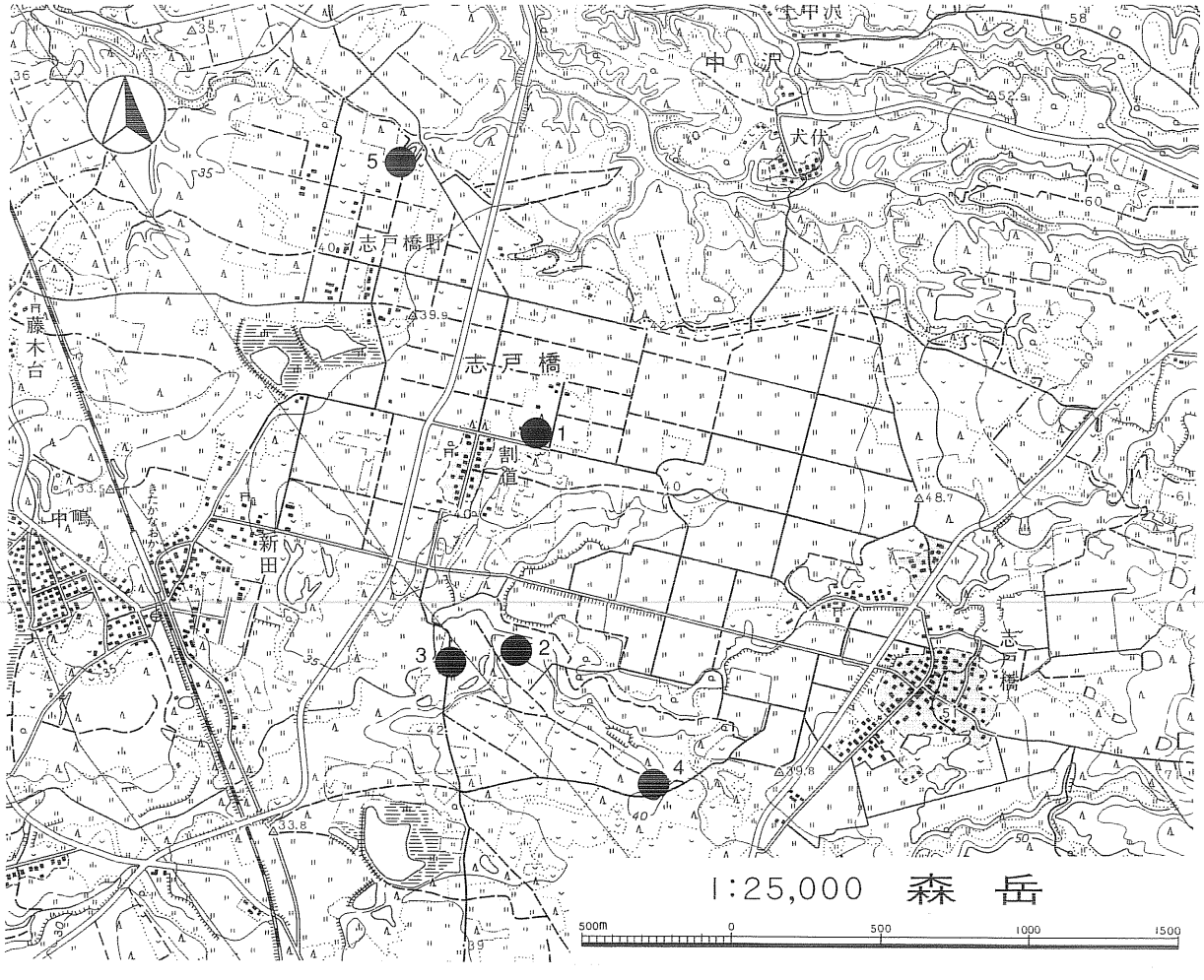
第７図　県営ほ場整備事業鷹巣地区・前山地区遺跡分布調査位置図

（８）県営ほ場整備事業金岡地区

山本町金岡地区に計画されていた平成10～11年度工事予定地区について試掘を実施した。

調査の結果、周知の遺跡１カ所が事業に係わることを確認した。この遺跡の取り扱いについては今後協議する予定である。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時　代	現況	遺構・遺物	備　考
1	大下Ⅰ遺跡	山本町志戸橋字大下	縄文・古代	水田	なし	周知の遺跡
2	大下Ⅱ遺跡	山本町志戸橋字大下	縄文	畑・山林	なし	周知の遺跡
3	霜谷地遺跡	山本町志戸橋字霜谷地	縄文	畑	なし	周知の遺跡
4	高田遺跡	山本町志戸橋字高田	縄文	畑・原野	Ｔピット	周知の遺跡
5	割道遺跡	山本町志戸橋字割道	縄文	畑・原野	なし	周知の遺跡



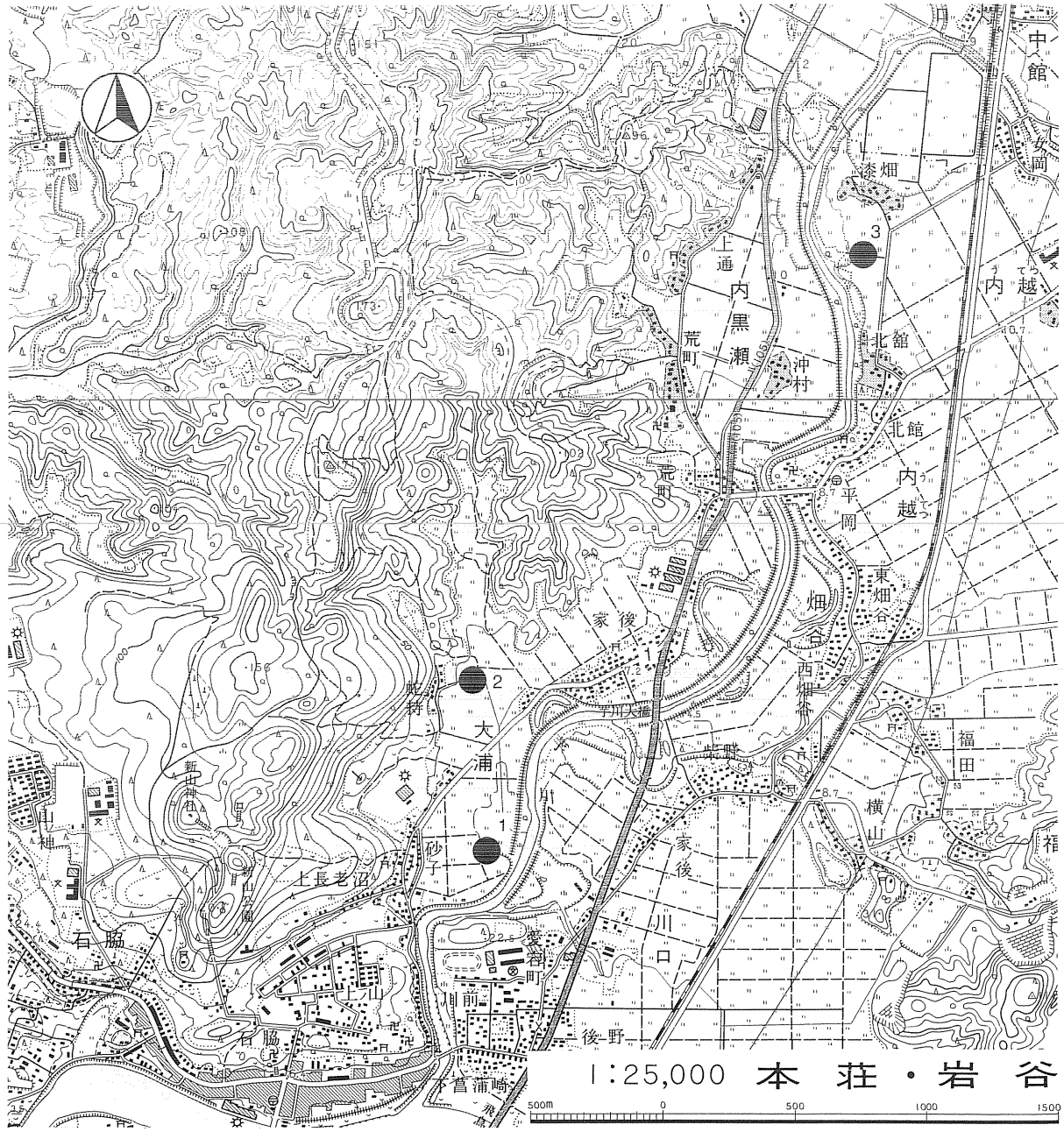
第８図　県営ほ場整備事業金岡地区遺跡分布調査位置図

（９）県営ほ場整備事業内越地区

本荘市内越地区のほ場整備事業で、計画面積 350ha、平成 13 年度まで５カ年計画の事業である。このうち平成 10 年度予定地区について踏査及び試掘を行った。

踏査では、周知の遺跡である大浦遺跡が予定地内にあることを確認したが、試掘によっても遺構を検出できず大浦遺跡については工事立会の対応とした。また、試掘により事業予定地区内に新発見の遺跡１カ所を確認した。なお、事業予定地区内には今後踏査の必要な地区を残している。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現況	遺構・遺物	備　考
1	大浦遺跡	本荘市大浦字八走	縄文時代・古代	水田	土師器片	周知の遺跡
2	・・・・	本荘市大浦字蛇持	・・・	水田	なし	
3	新漆畑遺跡	本荘市内越字新漆畑	古代	水田	土坑・ピット	新発見の遺跡



第９図　県営ほ場整備事業内越地区遺跡分布調査位置図

2　平成10年度分

（1）日本海沿岸東北自動車道建設事業昭和・琴丘間（位置図は第3図、下表の番号は図に対応）

昭和町の昭和男鹿半島インターから、琴丘町鹿渡に計画中の琴丘インターまでの延長20.7kmのうち、2カ所について再試掘を行った。

調査の結果、遺構・遺物は検出されず、新たな遺跡の発見はなかった。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　考
6	・・・・	井川町浜井川字二階	・・・	水田	なし	
7	・・・・	井川町坂本字三嶽下	・・・	果樹園	なし	

（2）森吉山ダム建設事業（第11図）

森吉町において進められている森吉山ダム建設事業に関連する付け替え県道部分のうち、根森田地区、惣瀬地区、栩岱地区について試掘を実施した。

調査の結果、遺構・遺物は検出されず、新たな遺跡の発見はなかった。

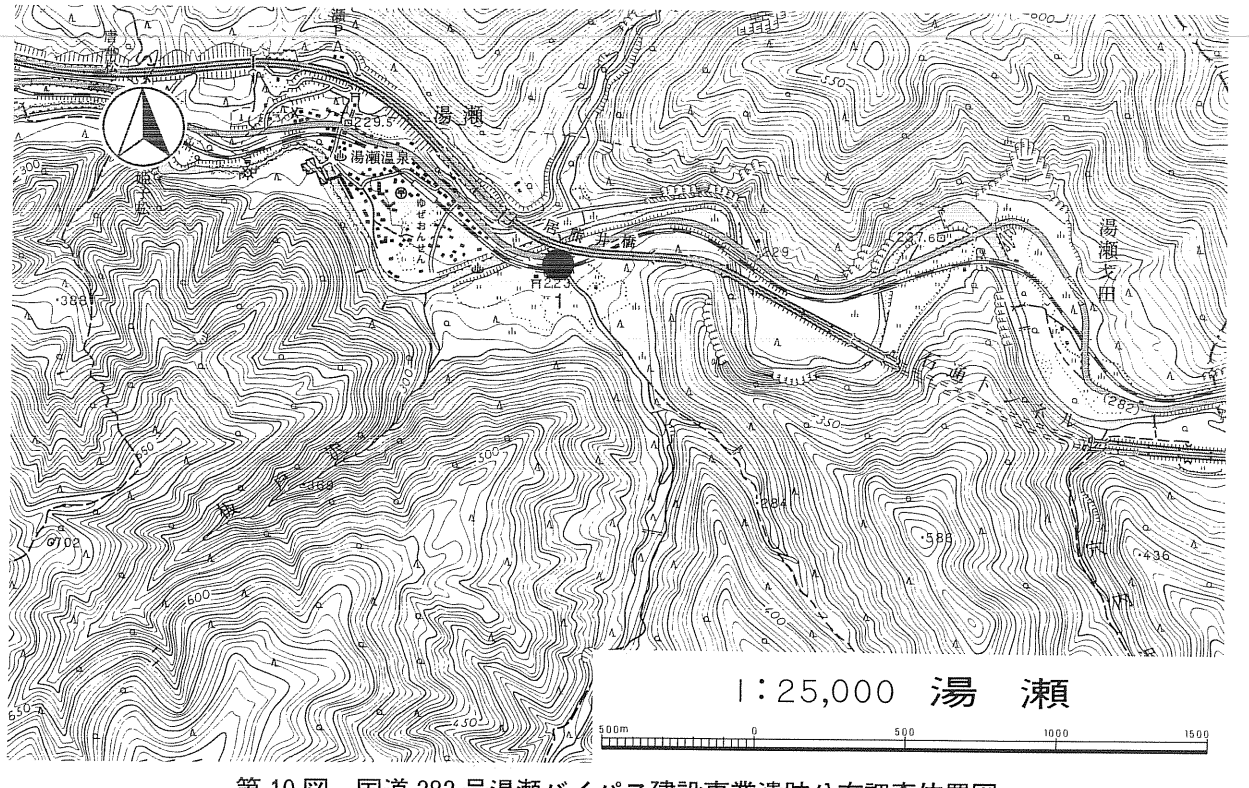
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　考
1	・・・・	森吉町根森田字巻渕	・・・	山林	なし	
2	・・・・	森吉町森吉字惣瀬	・・・	山林	なし	
3	・・・・	森吉町森吉字鷲ノ瀬栩岱	・・・	水田	なし	

（3）国道282号湯瀬バイパス建設事業

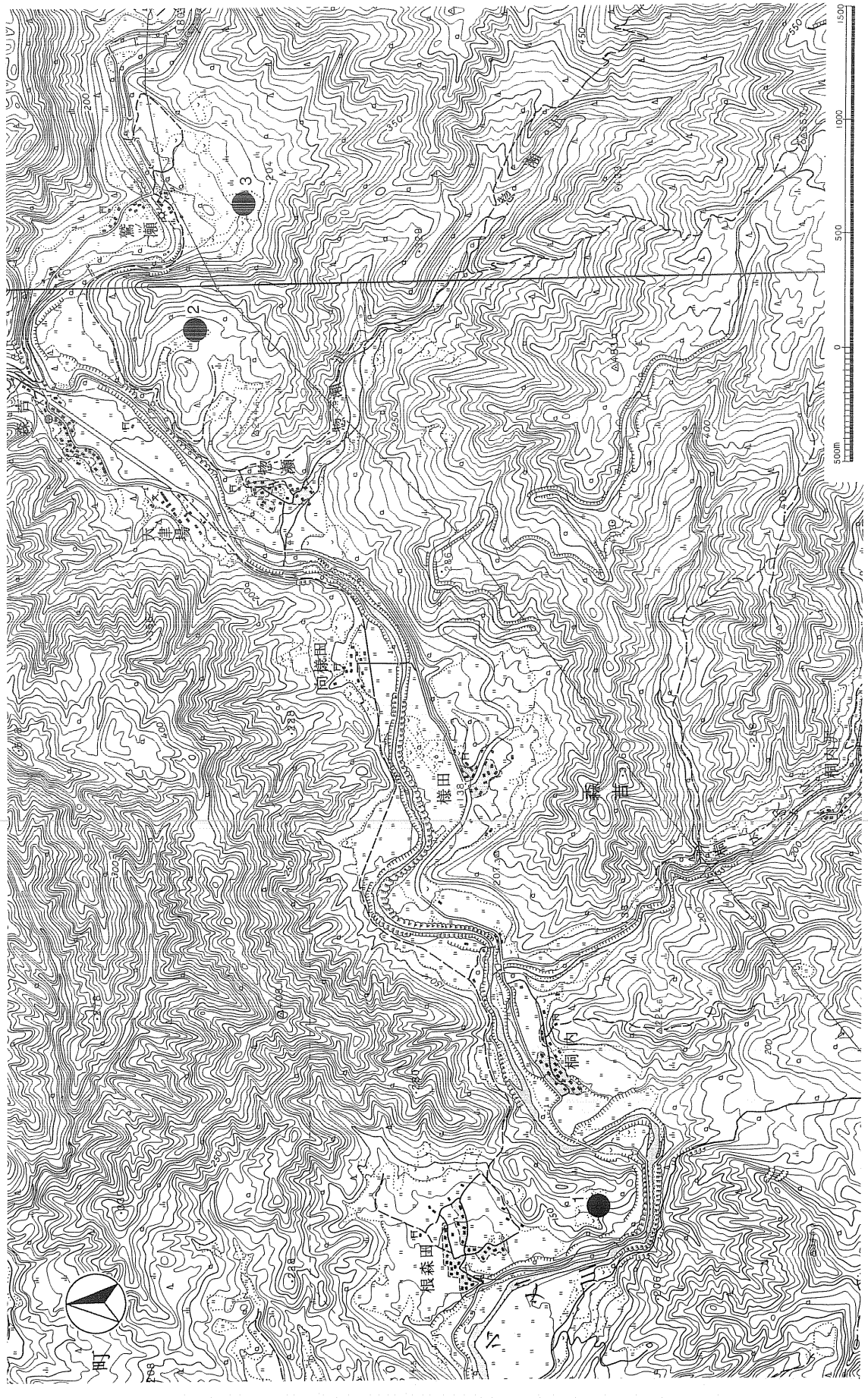
鹿角市八幡平湯瀬地内の予定路線1.3kmについて踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、遺構・遺物の発見はなく、隣接する周知の遺跡への影響もないと判断した。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　考
1	居熊井遺跡	鹿角市八幡平湯瀬字居熊井	縄文	水田	なし	周知の遺跡



第10図　国道282号湯瀬バイパス建設事業遺跡分布調査位置図



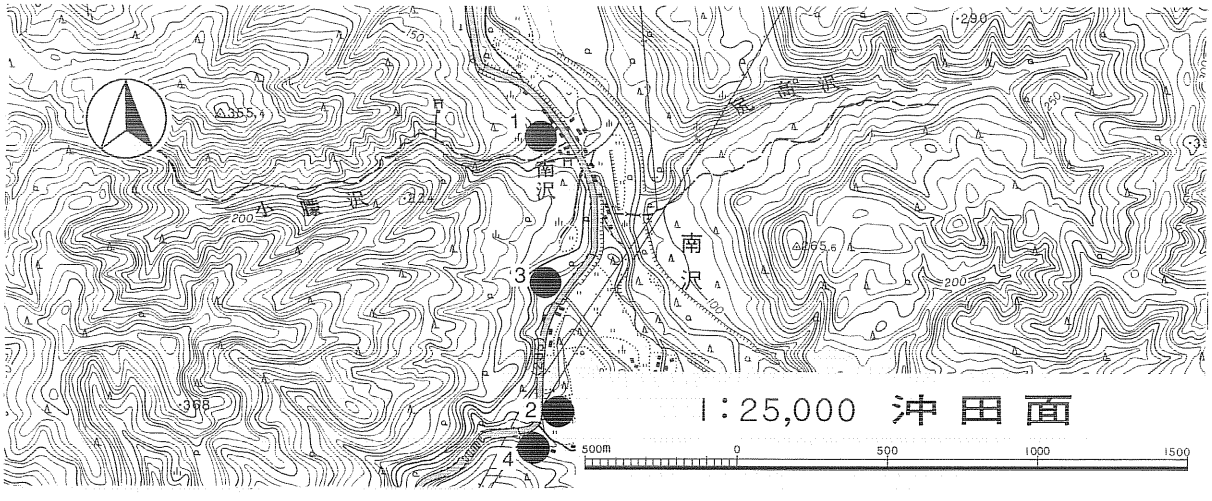
第11図　森吉山ダム建設事業遺跡分布調査位置図

（4）国道285号南沢バイパス建設事業

上小阿仁村南沢字餌刺岱を起点に、上小阿仁村字大林を終点とする3.9kmの予定路線の内、周知の南沢館跡およびその周辺について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、南沢館跡の範囲が事業地に及ばないことを確認した。また、館跡の下の狭小な平坦部から少量の縄文土器片が出土したが、遺構は検出されなかった。この部分については工事立会の対応とする。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	南沢館跡	上小阿仁村南沢字南沢	縄文・中世	山林	縄文土器片	周知の遺跡



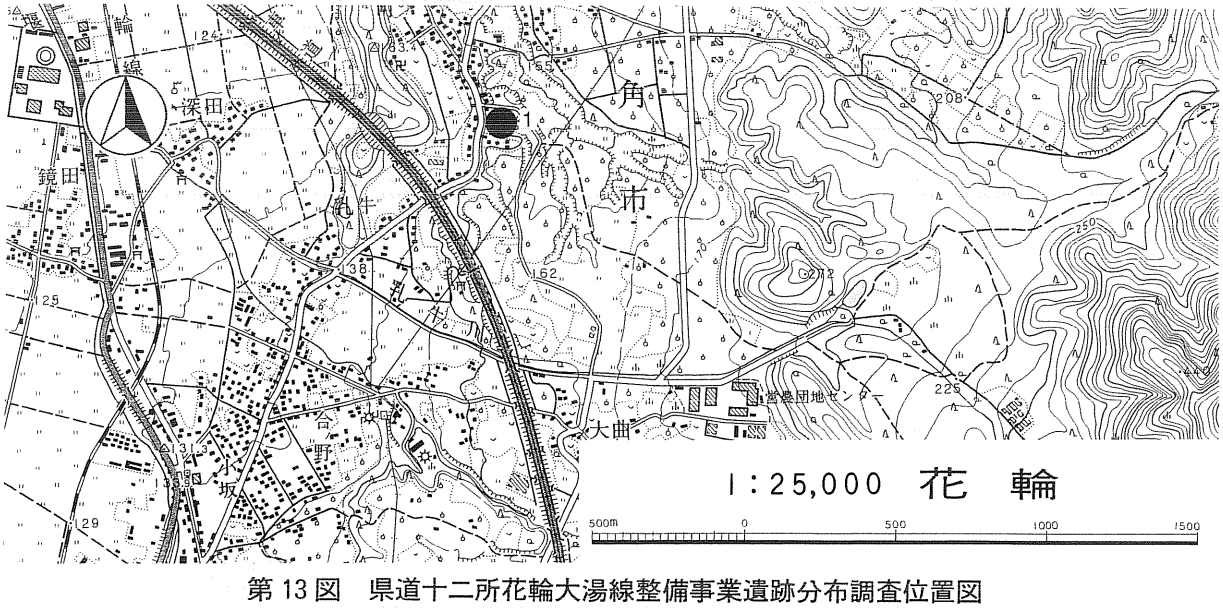
第12図　国道285号南沢バイパス建設事業遺跡分布調査位置図

（5）県道十二所花輪大湯線整備事業

鹿角市花輪地内の予定路線1.7kmについて踏査を実施した。

踏査の結果、周知の遺跡1カ所が事業に係わることを確認し、試掘必要箇所を23カ所選定した。試掘必要箇所については今後の試掘を予定している。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	柴内館	鹿角市花輪字西町	中世	山林・畑地	郭状地形、空堀	周知の遺跡



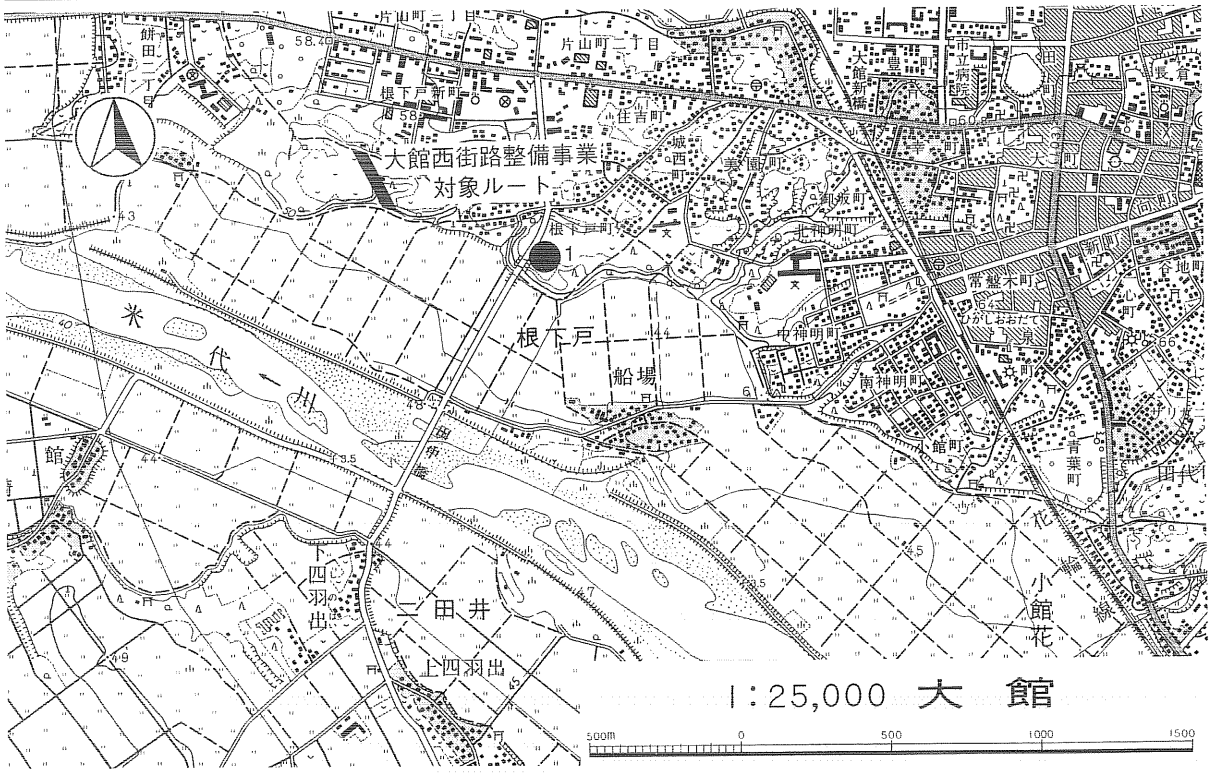
第13図　県道十二所花輪大湯線整備事業遺跡分布調査位置図

（６）県道大館鷹巣線整備事業

大館西道路根下戸ランプと接続する大館市根下戸地内の予定路線 620mについて踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、遺構・遺物の検出はなく、新たな遺跡の発見はなかった。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　考
1	・・・・	大館市根下戸町	・・・	水田・畑地	なし	



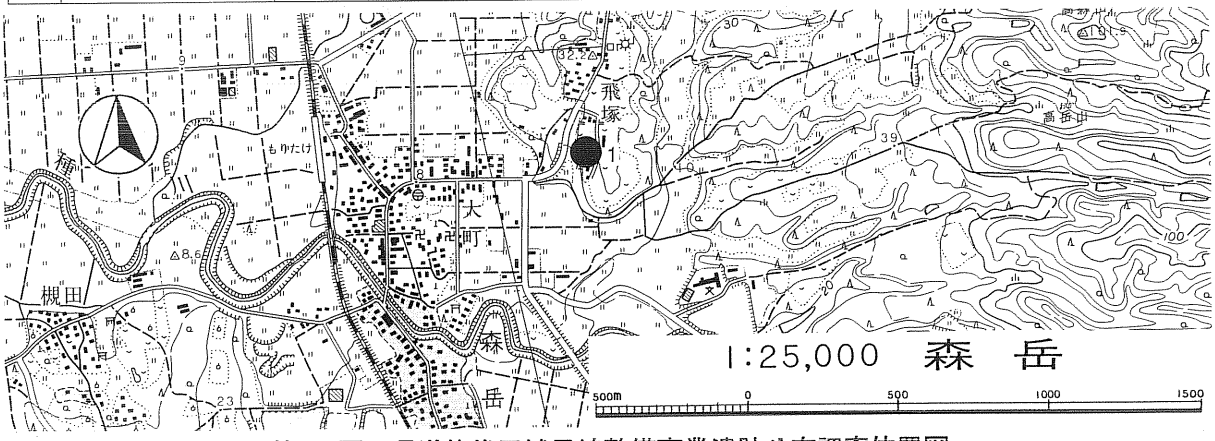
第 14 図　県道大館鷹巣線整備事業遺跡分布調査位置図

（７）県道能代五城目線整備事業

山本町森岳地内の豊岡バイパス予定路線 750mについて踏査を実施した。

踏査の結果、周知の遺跡１カ所が事業に係わることを確認し、試掘必要箇所を９カ所選定した。試掘必要箇所については今後の試掘を予定している。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　考
1	東飛塚館跡	山本町森岳字東飛塚	中世	山林・畑地	・・・	周知の遺跡



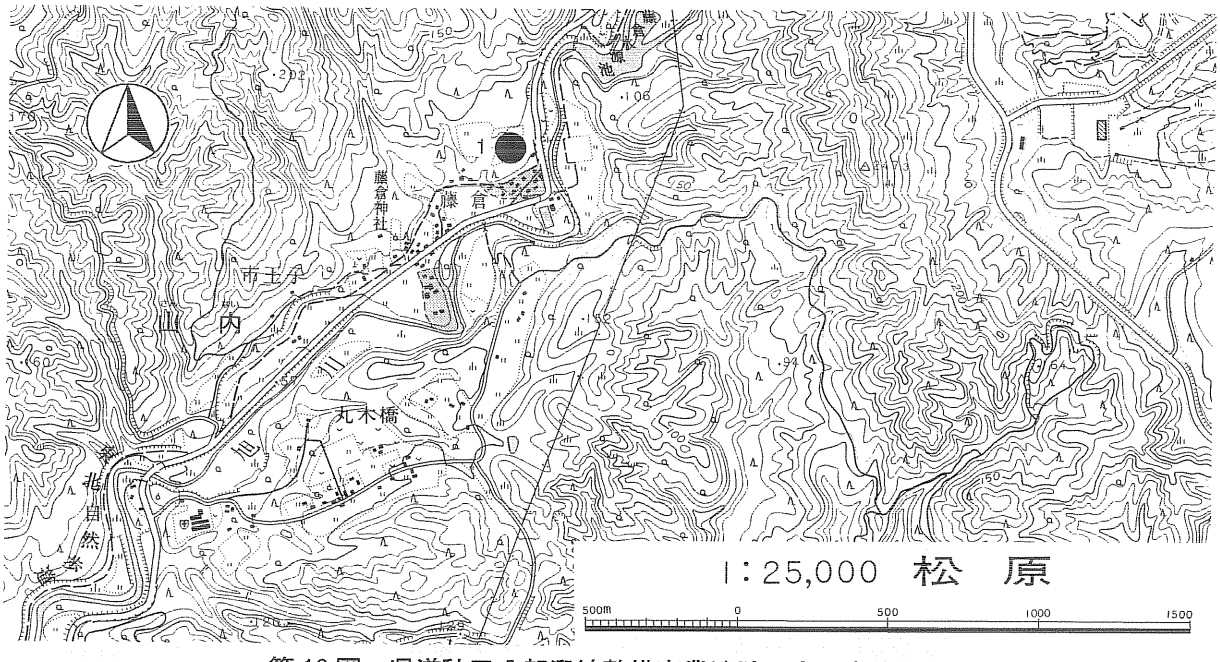
第 15 図　県道能代五城目線整備事業遺跡分布調査位置図

（８）県道秋田八郎潟線整備事業

秋田市仁別地内の予定路線 2.3kmについて踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、遺構・遺物の発見はなく、隣接する周知の遺跡への影響もないと判断した。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	小田遺跡	秋田市仁別字小田	縄文	山林	なし	周知の遺跡



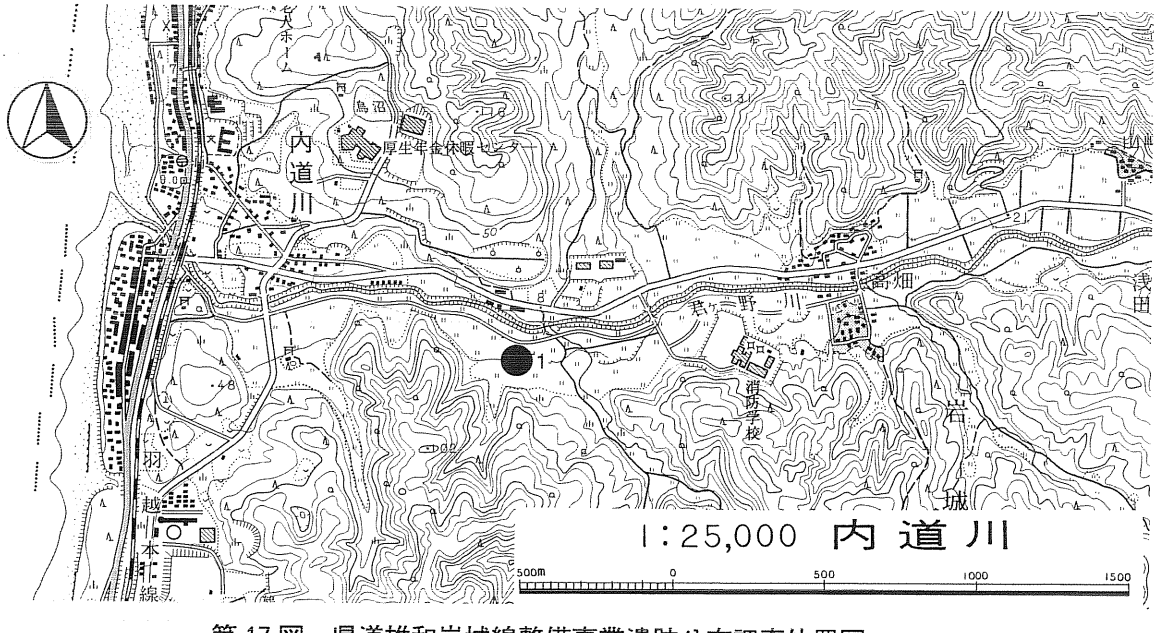
第 16 図　県道秋田八郎潟線整備事業遺跡分布調査位置図

（９）県道雄和岩城線整備事業

岩城町内道川地内で日沿道岩城インターに接続する予定路線 463mについて試掘を実施した。

調査の結果、遺構・遺物の検出はなく、新たな遺跡の発見はなかった。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	・・・・	岩城町内道川字中道	・・・	水田	なし	



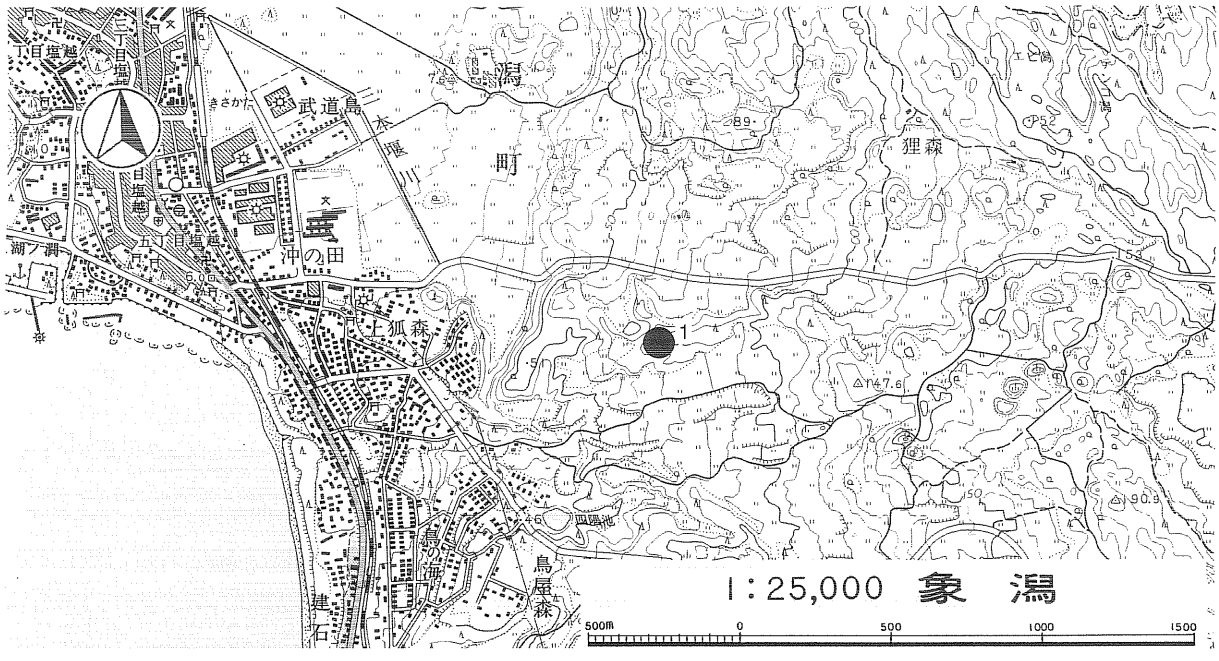
第 17 図　県道雄和岩城線整備事業遺跡分布調査位置図

（10）緊急地方道路整備事業象潟矢島線

象潟町字狐森を起点とし、象潟町字長坂を終点とする予定路線 2.2kmについて踏査を実施した。

調査の結果、周知の遺跡１カ所が事業に係わることを確認した。この遺跡については範囲確認調査が必要である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	御嶽公園館跡	象潟町字女郎清水　外	中世	山林	郭状地形・陶器	周知の遺跡



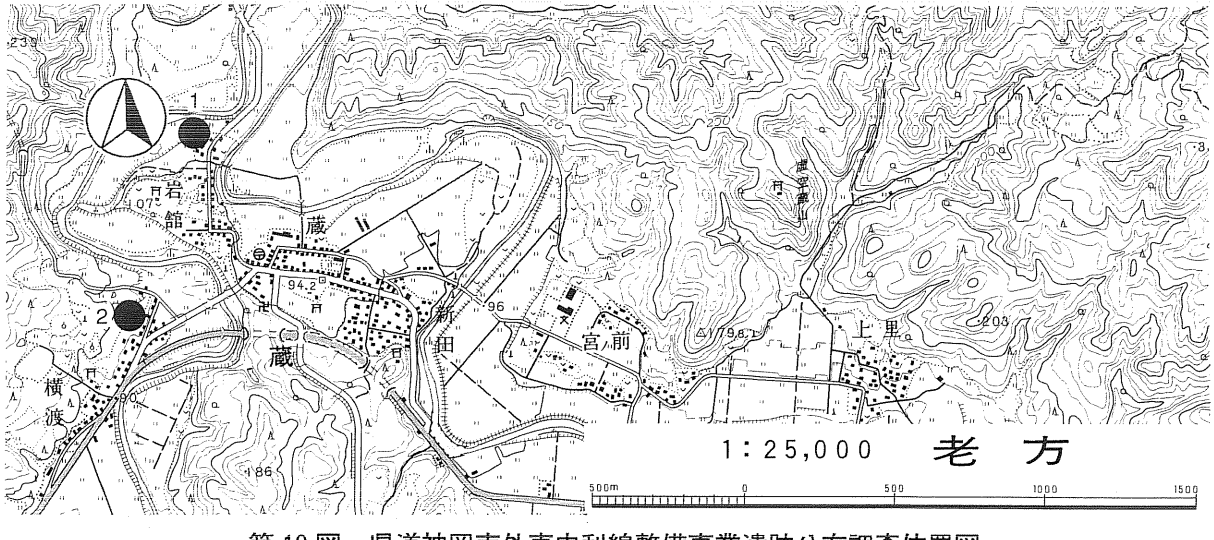
第 18 図　緊急地方道路整備事業象潟矢島線遺跡分布調査位置図

（11）県道神岡南外東由利線整備事業

東由利町蔵地内の予定路線 1.1kmについて踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、遺構・遺物の発見はなく、隣接する周知の遺跡への影響もないと判断した。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	岩館	東由利町蔵字岩館	中世	山林・畑地	なし	周知の遺跡
2	坊主ヶ沢遺跡	東由利町蔵字坊主ヶ沢	縄文	山林・畑地	なし	周知の遺跡



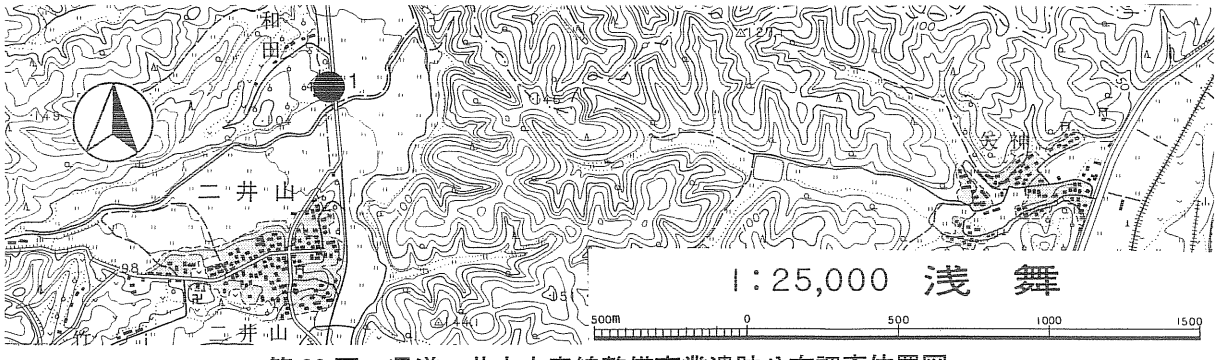
第 19 図　県道神岡南外東由利線整備事業遺跡分布調査位置図

（12）県道二井山大森線整備事業

雄物川町二井山地内の予定路線 1.7㎞について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、周知の遺跡１カ所が事業に係わることを確認した。この遺跡については、影響を受ける範囲が狭小で、内容も希薄であることから、工事立会の対応とした。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	二井山Ⅲ遺跡	雄物川町二井山字和田	縄文	山林	縄文土器片	周知の遺跡



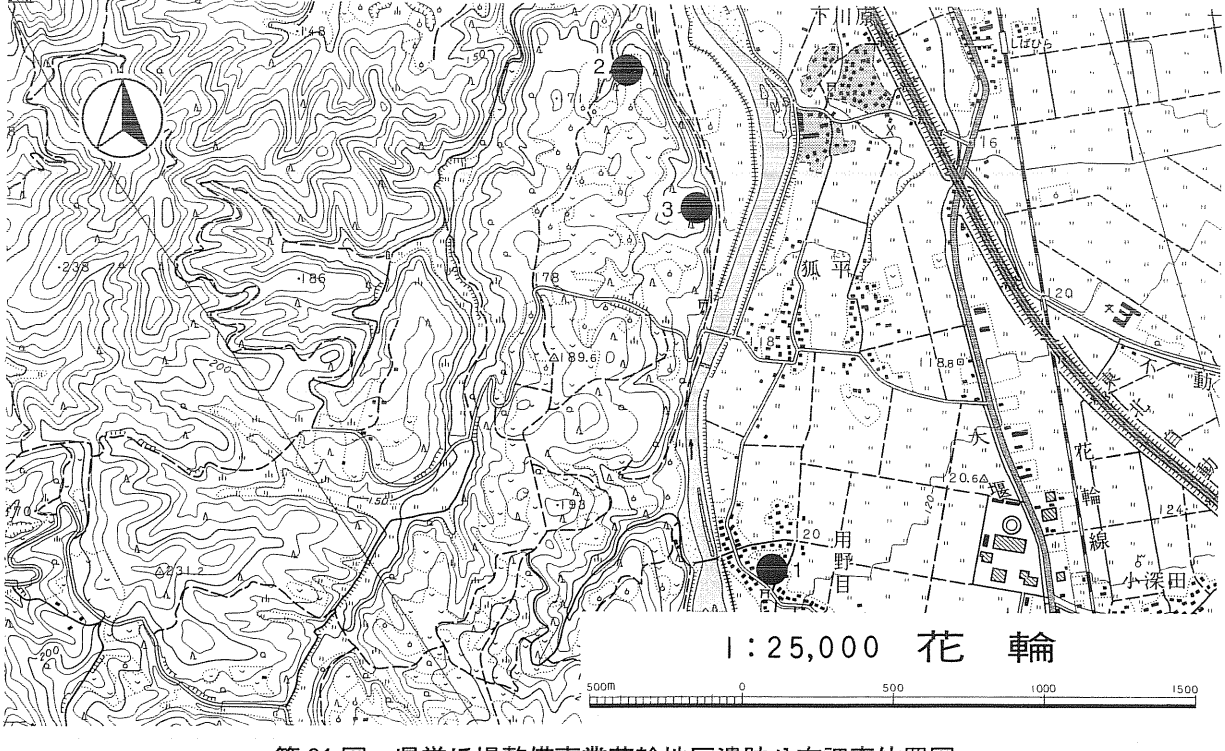
第 20 図　県道二井山大森線整備事業遺跡分布調査位置図

（13）県営ほ場整備事業花輪地区

鹿角市花輪地区に予定されているほ場整備事業で、計画面積 152ha、平成 11 年度から５カ年計画の事業である。このうち当面の事業予定地区を中心に踏査した。

調査の結果、予定地内に用野目遺跡があるほか、対象地区に隣接して高野館、花輪茶臼館、女平Ⅰ・Ⅱ遺跡があることを確認した。今後予定地内での調査が必要である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	用野目遺跡	鹿角市花輪字用野目	古代	水田	なし	周知の遺跡
2	高野館	鹿角市花輪字館ヶ沢	縄文・古代	山林・畑地	なし	周知の遺跡
3	花輪茶臼館	鹿角市花輪字茶臼館	中世	山林	なし	周知の遺跡

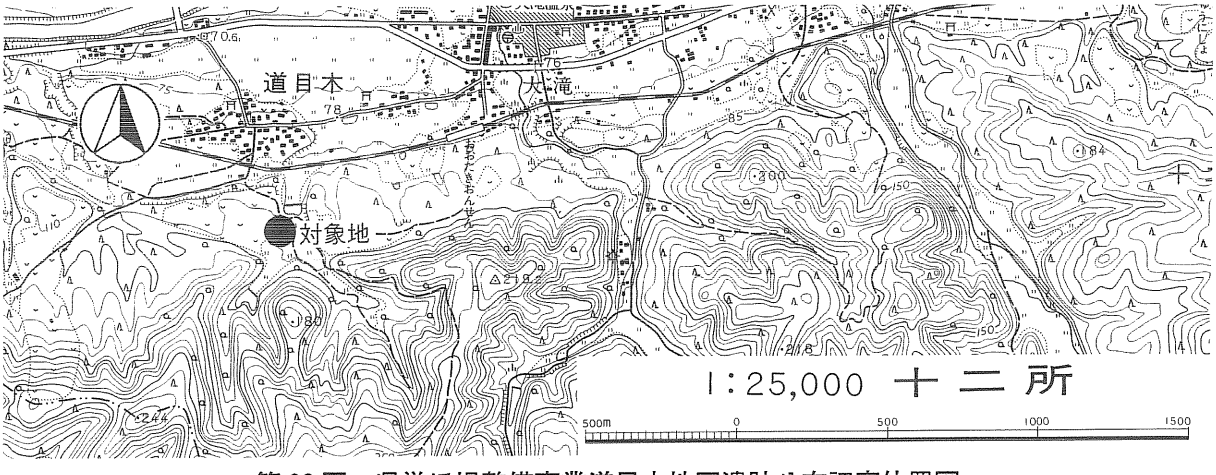


第 21 図　県営ほ場整備事業花輪地区遺跡分布調査位置図

（14）県営ほ場整備事業道目木地区

大館市道目木地区に予定されているほ場整備事業で、計画面積 37ha、平成 13 年度まで 5 カ年計画の事業である。このうち当面の予定地区を中心に踏査した。

調査の結果、事業予定地区に隣接して僅かに遺物の散布が認められた地区があり今後再調査が必要である。なお事業予定地区内には今後の調査の必要な地区を残している。



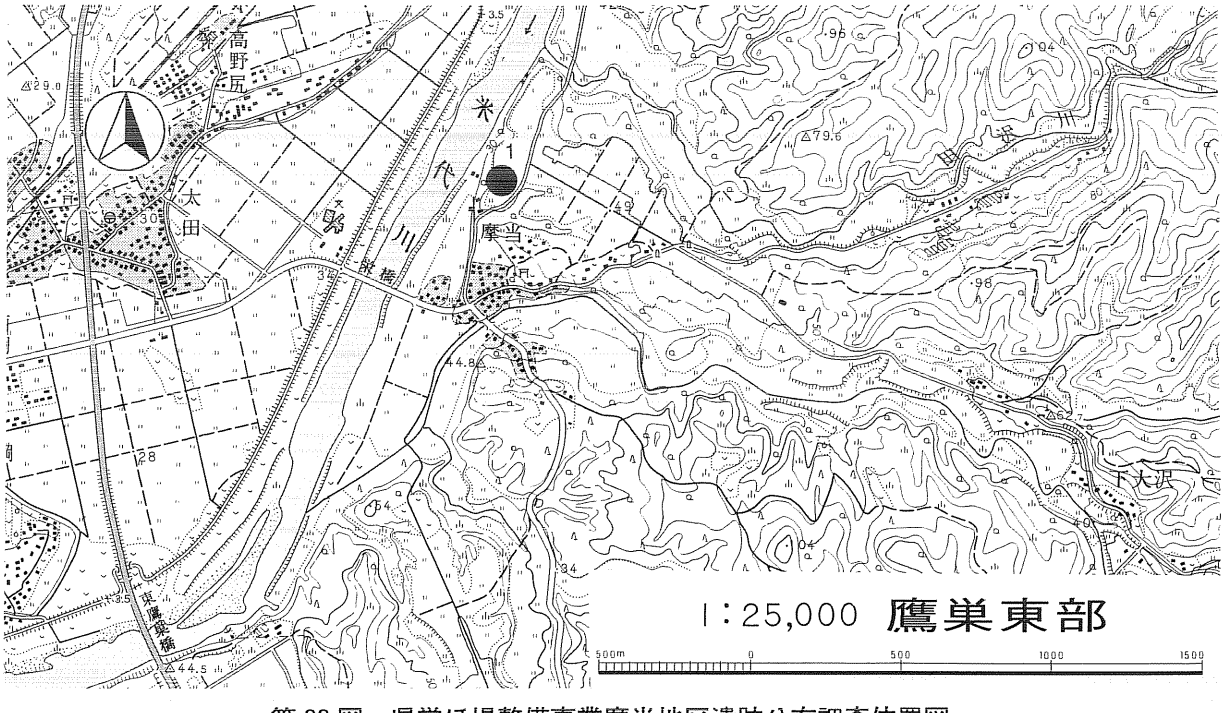
第 22 図　県営ほ場整備事業道目木地区遺跡分布調査位置図

（15）県営ほ場整備事業摩当地区

鷹巣町摩当地区に計画されいるほ場整備事業で、計画面積 46ha、平成 13 年度までの 5 カ年計画の事業である。このうち平成 10～11 年度工事予定地区について試掘を実施した。

調査の結果、摩当地区の周知の遺跡 1 カ所が事業に係わることを確認した。この遺跡の取り扱いについては今後協議する予定である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構･遺物	備 考
1	碇岱遺跡	鷹巣町摩当字碇岱	縄文中期	水田・畑	土器・石器	周知の遺跡



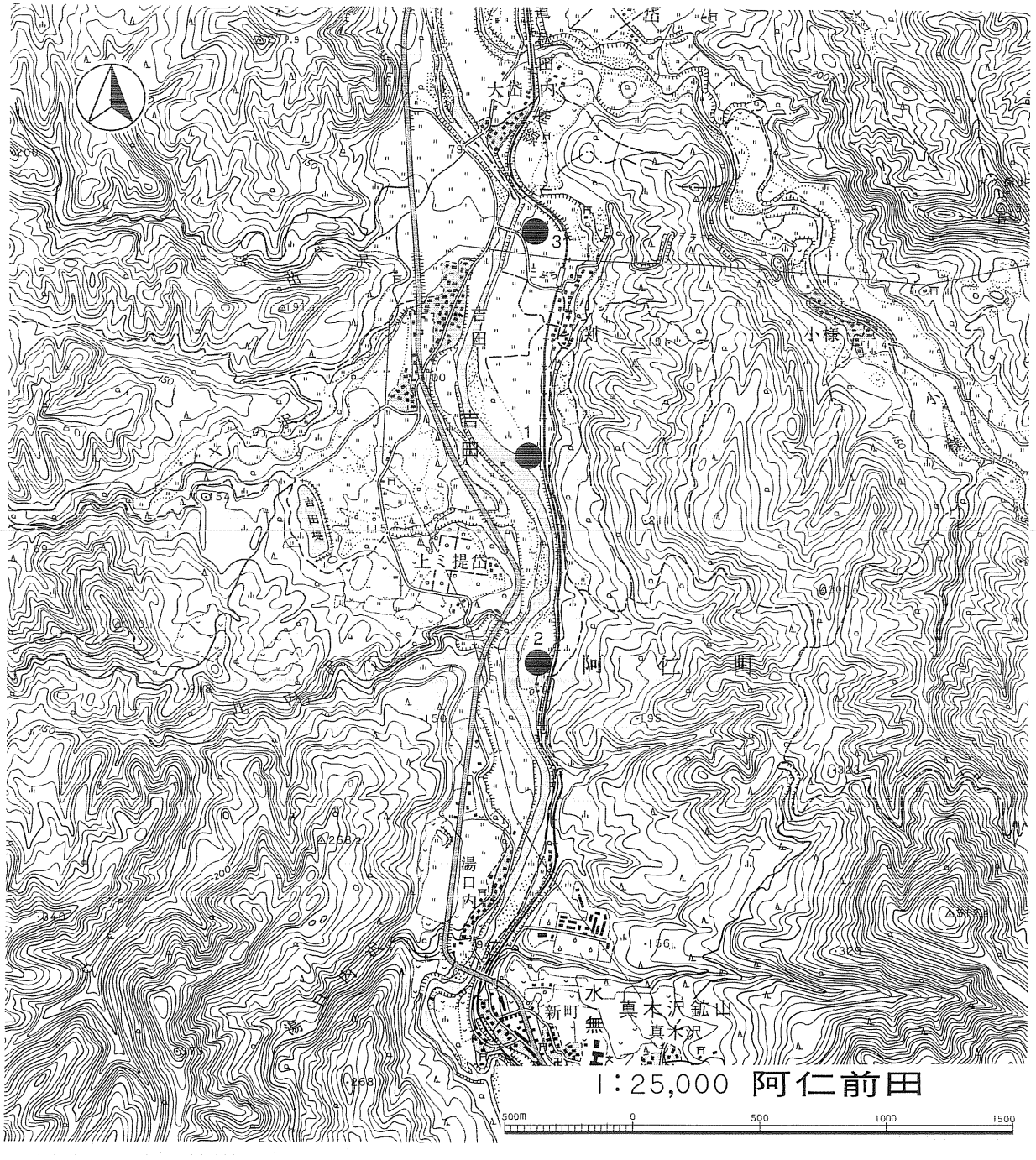
第 23 図　県営ほ場整備事業摩当地区遺跡分布調査位置図

（16）県営ほ場整備事業小渕地区

阿仁町小渕地区に計画されているほ場整備事業で、計画面積20ha、平成13年度までの4カ年計画の事業である。工事対象地区について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、新発見の遺跡1カ所を確認した。この遺跡の取り扱いについては、今後協議していく予定である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	山下タ遺跡	阿仁町小渕字背中合	縄文・古代	水田	土器片・土師器片	新発見の遺跡
2	・・・・	阿仁町小渕字山下タ	・・・	水田	なし	
3	・・・・	阿仁町小渕字小渕	・・・	水田	なし	



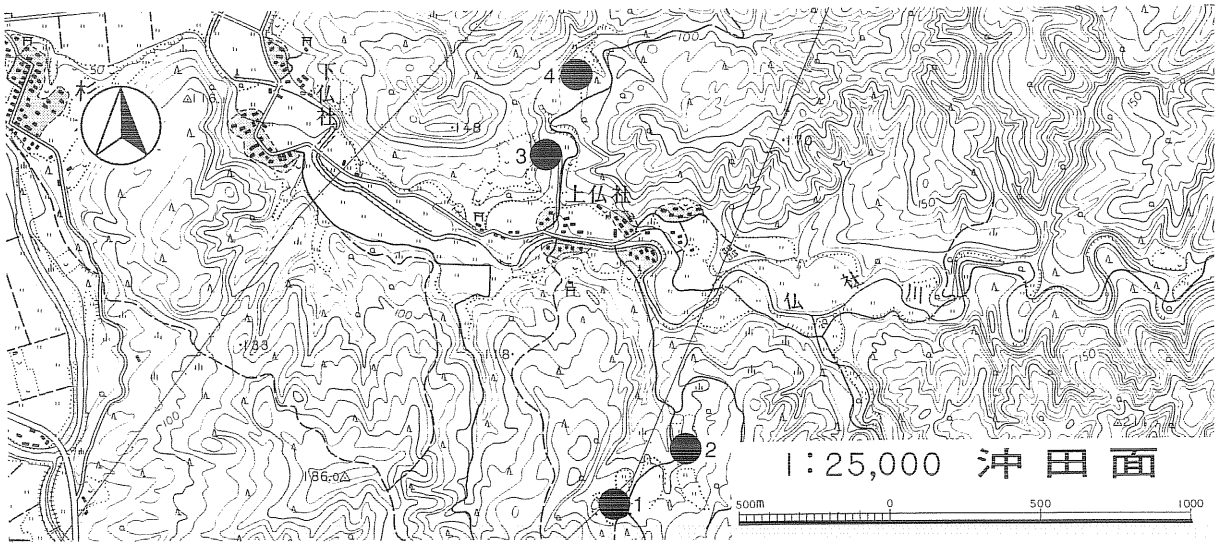
第24図　県営ほ場整備事業小渕地区遺跡分布調査位置図

(17) 県営ほ場整備事業上仏社地区

上小阿仁村上仏社地区に計画されているほ場整備事業で、計画面積26ha、平成13年度までの4カ年計画の事業である。当面の工事対象区域について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、当面の予定地区内に遺跡は確認されなかった。なお、事業予定地区内には今後の調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	上小阿仁村上仏社字右ェ門多郎沢	・・・	水田	なし	
2	・・・・	上小阿仁村上仏社字右ェ門多郎沢	・・・	水田	なし	
3	・・・・	上小阿仁村上仏社字田ノ沢	・・・	水田	なし	
4	・・・・	上小阿仁村上仏社字田ノ沢	・・・	水田	なし	



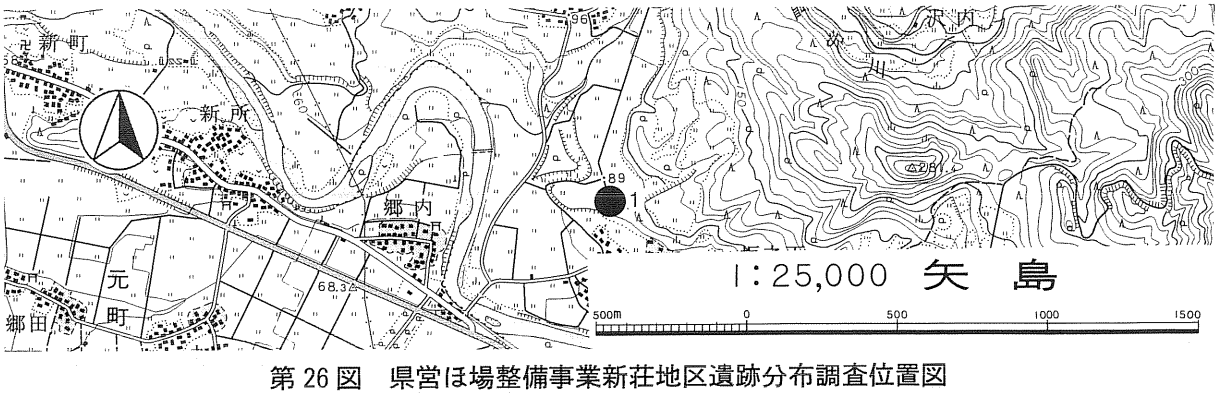
第25図　県営ほ場整備事業上仏社地区遺跡分布調査位置図

(18) 県営ほ場整備事業新荘地区

矢島町新荘地区に計画されているほ場整備事業で、計画面積42ha、平成14年までの5カ年計画の事業である。当面の工事対象区域について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、事業予定地区内に周知の遺跡1カ所がかかることを確認した。この遺跡の取り扱いについては、今後協議していく予定である。なお、事業予定地区内には今後の調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	八塩沢遺跡	矢島町坂ノ下字八塩沢	縄文	水田	土器片	周知の遺跡



第26図　県営ほ場整備事業新荘地区遺跡分布調査位置図

(19) 県営ほ場整備事業角間川地区

大曲市角間川地区に計画されているほ場整備事業で、計画面積369ha、平成12年度までの5カ年計画の事業である。当面の工事対象区域について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、事業予定地区内に周知の遺跡1カ所がかかることを確認したが、遺物の散布も希薄であることから、遺跡の取り扱いについては工事立会とした。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　考
1	上葛野遺跡	大曲市角間川字上葛野	平安	水田	土師器片	周知の遺跡

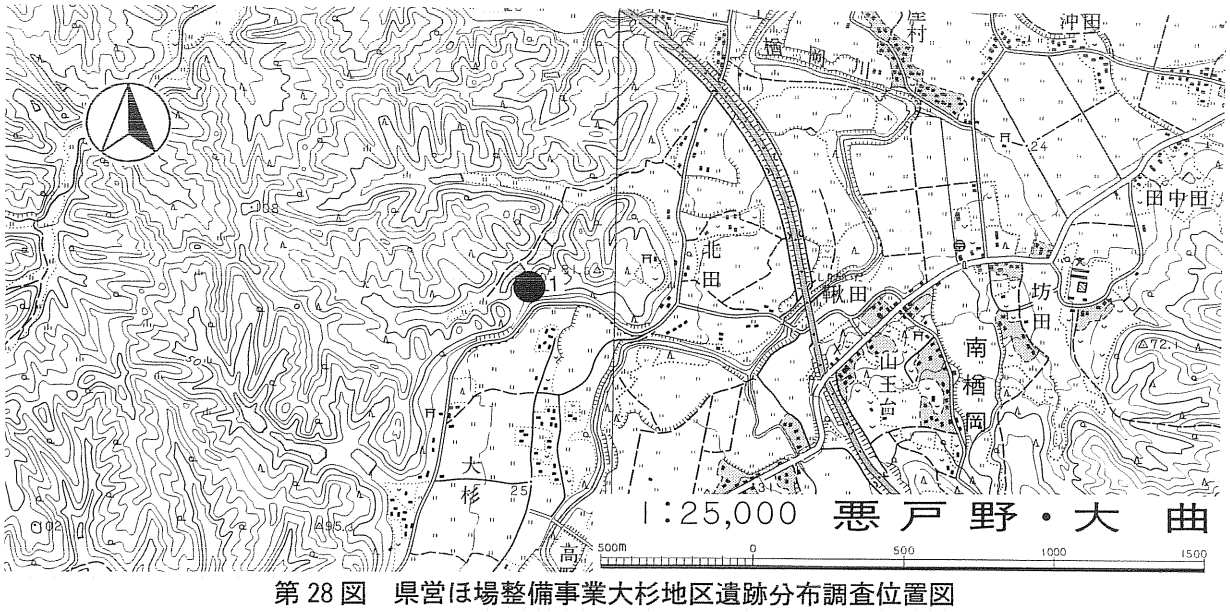
第27図　県営ほ場整備事業角間川地区遺跡分布調査位置図

(20) 県営ほ場整備事業大杉地区

南外村大杉地区に計画されているほ場整備事業で、計画面積41ha、平成14年度までの5カ年計画の事業である。当面の工事対象区域について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、予定地内に遺跡は確認されなかった。なお、事業予定地区内には今後の調査の必要な地区を残している。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　考
1	・・・・	南外村字檀ノ平山	・・・	山林	なし	



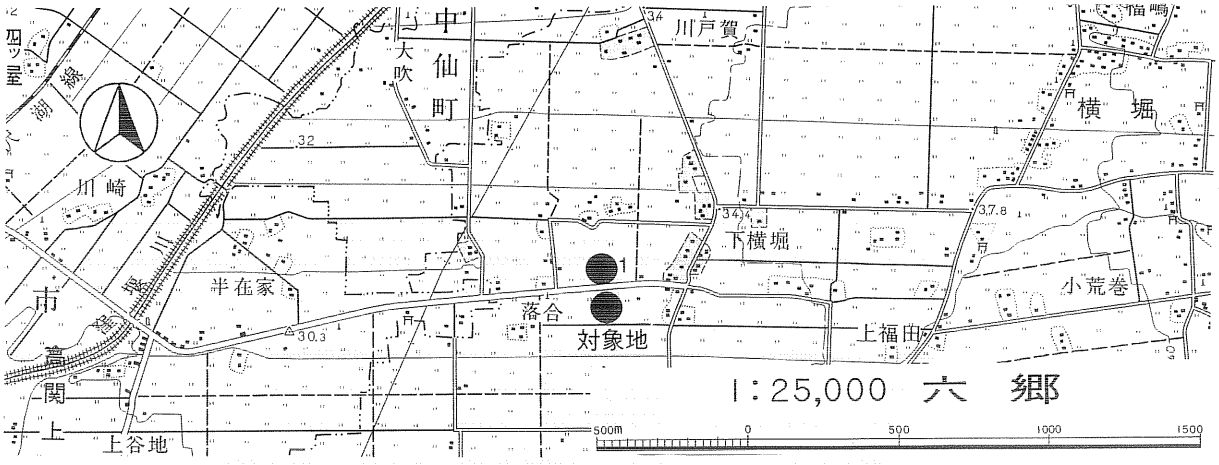
第28図　県営ほ場整備事業大杉地区遺跡分布調査位置図

（21）県営ほ場整備事業横堀第２地区

仙北町横堀地区に計画されているほ場整備事業で、計画面積87ha、平成14年度までの５カ年計画の事業である。当面の工事対象区域について踏査を実施した。

調査の結果、事業予定地区は周知の遺跡に隣接していることから、今後の調査が必要である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　考
1	星宮Ⅱ遺跡	仙北町横堀字星宮	縄文・弥生	水田	なし	周知の遺跡



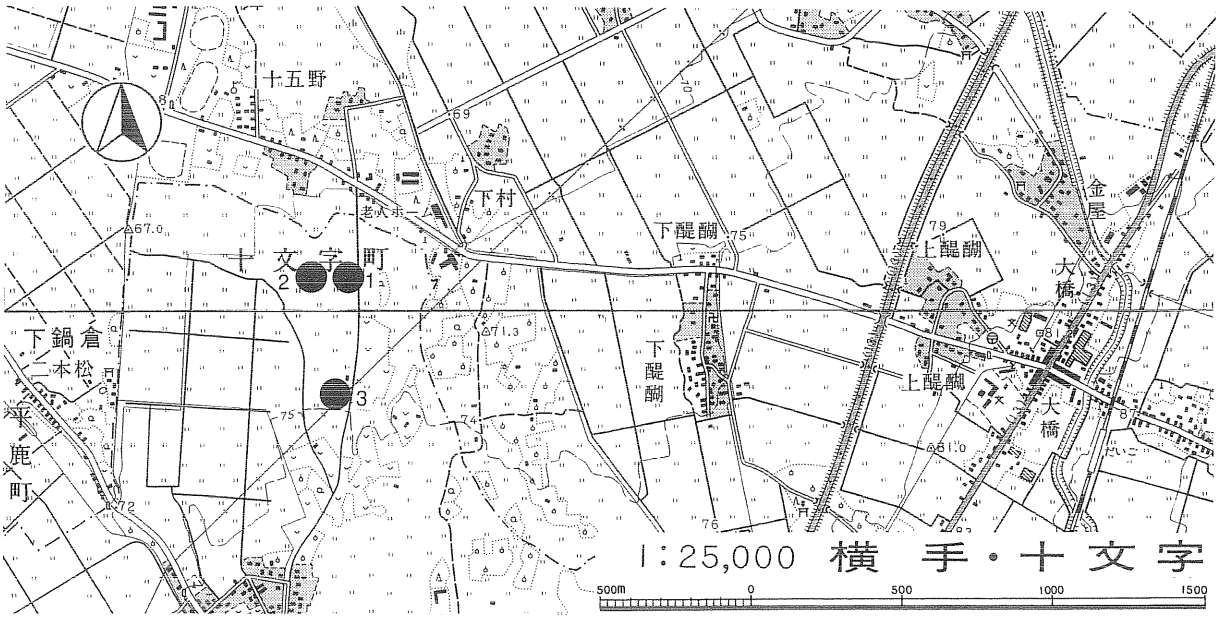
第29図　県営ほ場整備事業横堀第２地区遺跡分布調査位置図

（22）県営ほ場整備事業十五野地区

十文字町十五野地区を中心に平鹿町にかけて予定されたほ場整備事業で、計画面積29ha、平成14年度まで６カ年計画の事業である。このうち平成10年度予定地区を中心に踏査及び試掘した。

調査の結果、事業予定地区内に遺跡は確認されなかった。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	遺構・遺物	備　考
1	・・・・	十文字町十五野新田字馬鞍道上	・・・	水田	なし	
2	・・・・	十文字町十五野新田字畑開	・・・	水田	なし	
3	・・・・	十文字町十五野新田字明神前	・・・	水田	なし	



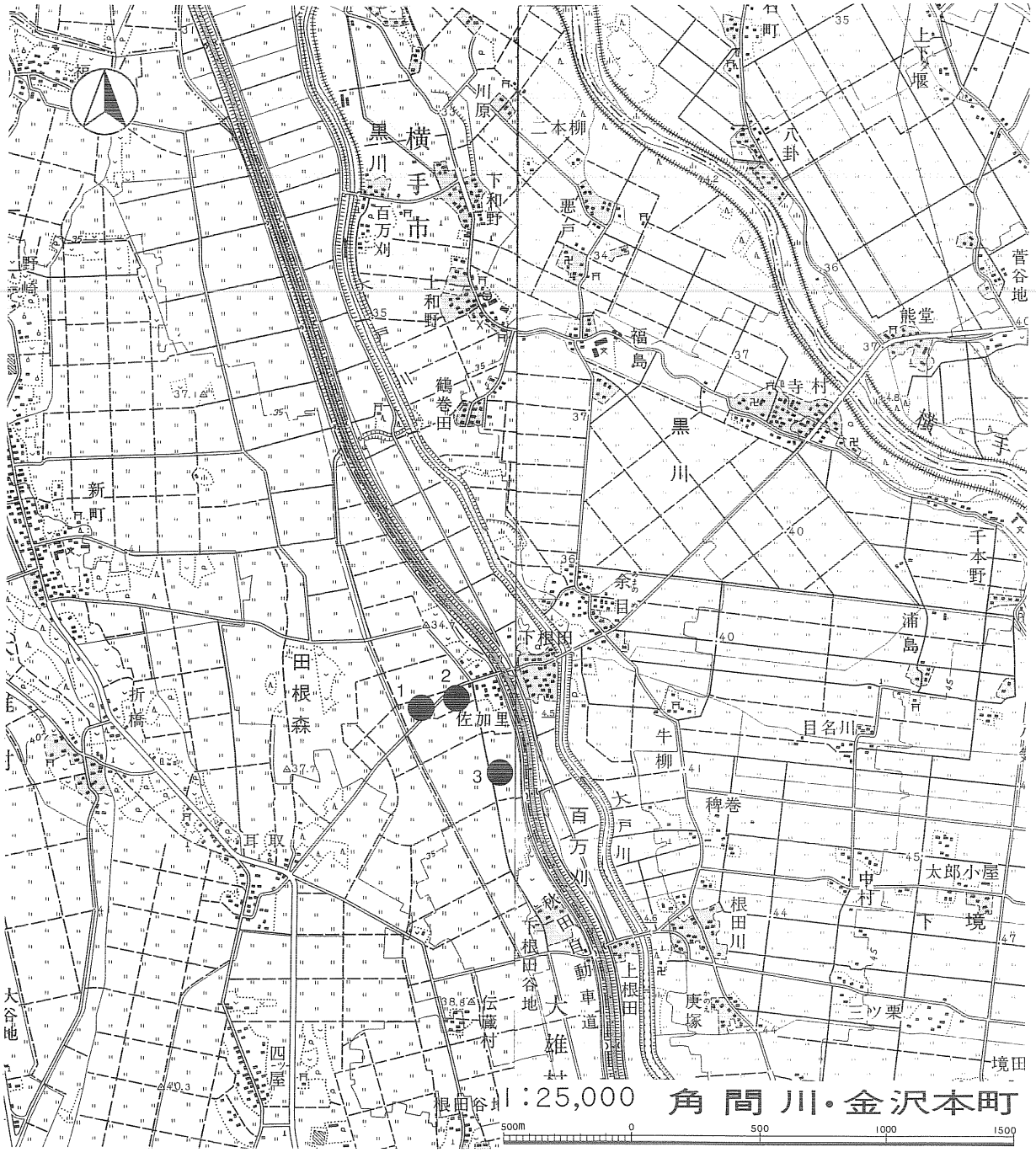
第30図　県営ほ場整備事業十五野地区遺跡分布調査位置図

（23）県営ほ場整備事業田根森地区

大雄村田根森地区に予定されたほ場整備事業で、計画面積139ha、平成14年度まで6カ年計画の事業である。このうち平成10年度予定地区を中心に踏査及び試掘した。

調査の結果、平成10年度事業予定地区内に遺跡は確認されなかった。なお、事業予定地区内には今後踏査の必要な地区を残している。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現況	遺構・遺物	備　考
1	・・・・	大雄村田根森字佐加里	・・・	水田	なし	
2	・・・・	大雄村田根森字佐加里	・・・	水田	なし	
3	・・・・	大雄村田根森字佐加里	・・・	水田	なし	



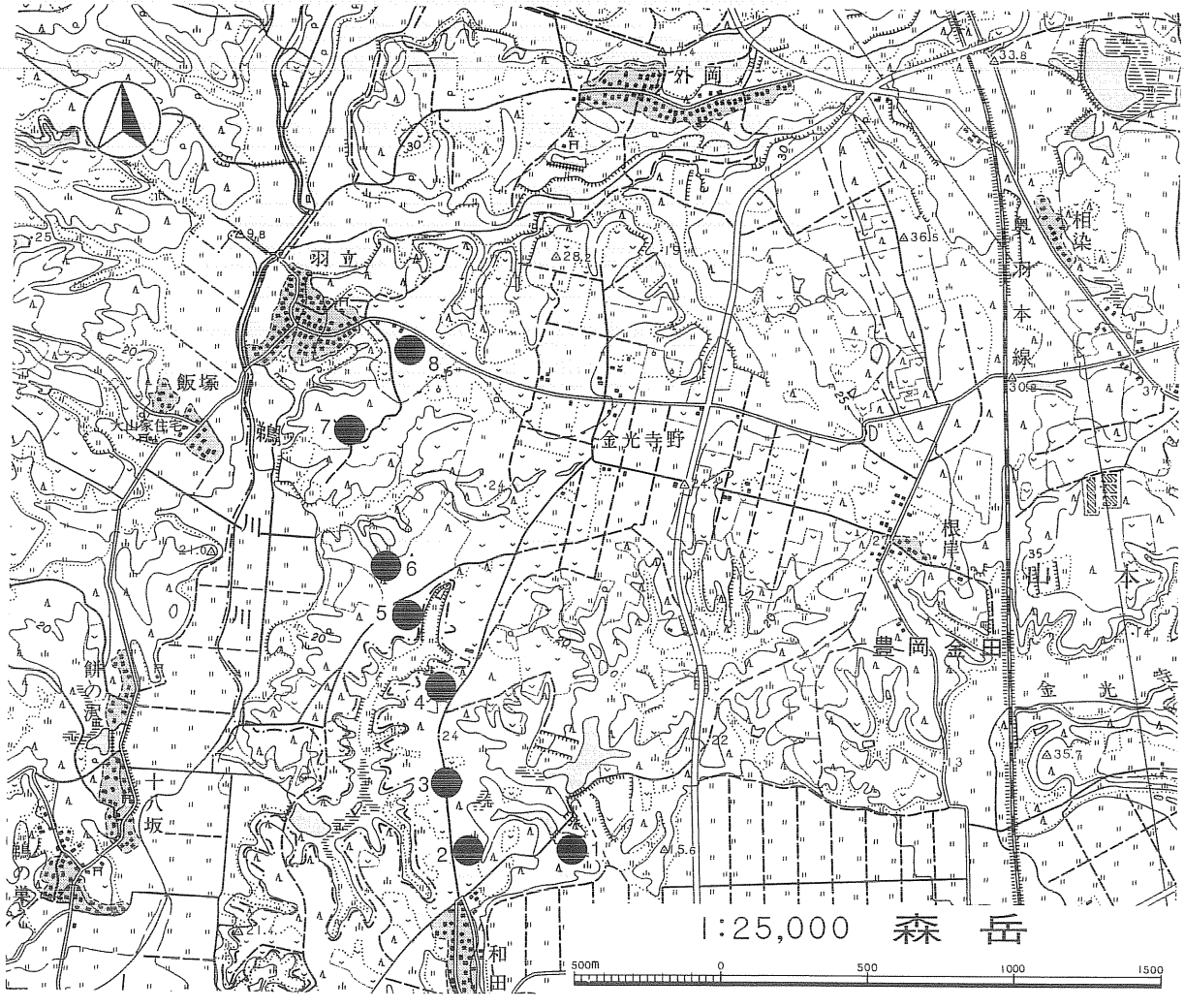
第31図　県営ほ場整備事業田根森地区遺跡分布調査位置図

（24）農免農道整備事業金岡西部地区

山本町金岡西部地区に計画された延長4.7km、幅員8mの計画路線の内、羽立集落から南側の部分について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、周知の遺跡２遺跡(和田Ⅲ遺跡、保竜Ⅱ遺跡)を確認した。この２遺跡の取り扱いについては、今後協議する予定である。なお、和田Ⅰ遺跡、和田Ⅱ遺跡は計画路線に近接する周知の遺跡であるが、試掘による遺構・遺物の確認はできず、遺跡の広がりが計画路線内には及ばないものと判断した。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現 況	遺構･遺物	備 考
1	和田Ⅲ遺跡	山本町豊岡金田字駒ヶ崎	縄文	山林	土器片	周知の遺跡
2	・・・・	山本町豊岡金田字駒ヶ崎	・・・	水田	なし	
3	・・・・	山本町豊岡金田字駒ヶ崎	・・・	畑地	なし	
4	・・・・	山本町豊岡金田字駒ヶ崎	・・・	水田	なし	
5	・・・・	山本町豊岡金田字保竜	・・・	山林	なし	
6	・・・・	山本町豊岡金田字保竜	・・・	山林	なし	
7	保竜Ⅱ遺跡	山本町豊岡金田字保竜	古代	水田	土師器片	周知の遺跡
8	・・・・	山本町豊岡金田字保竜	・・・	水田	なし	



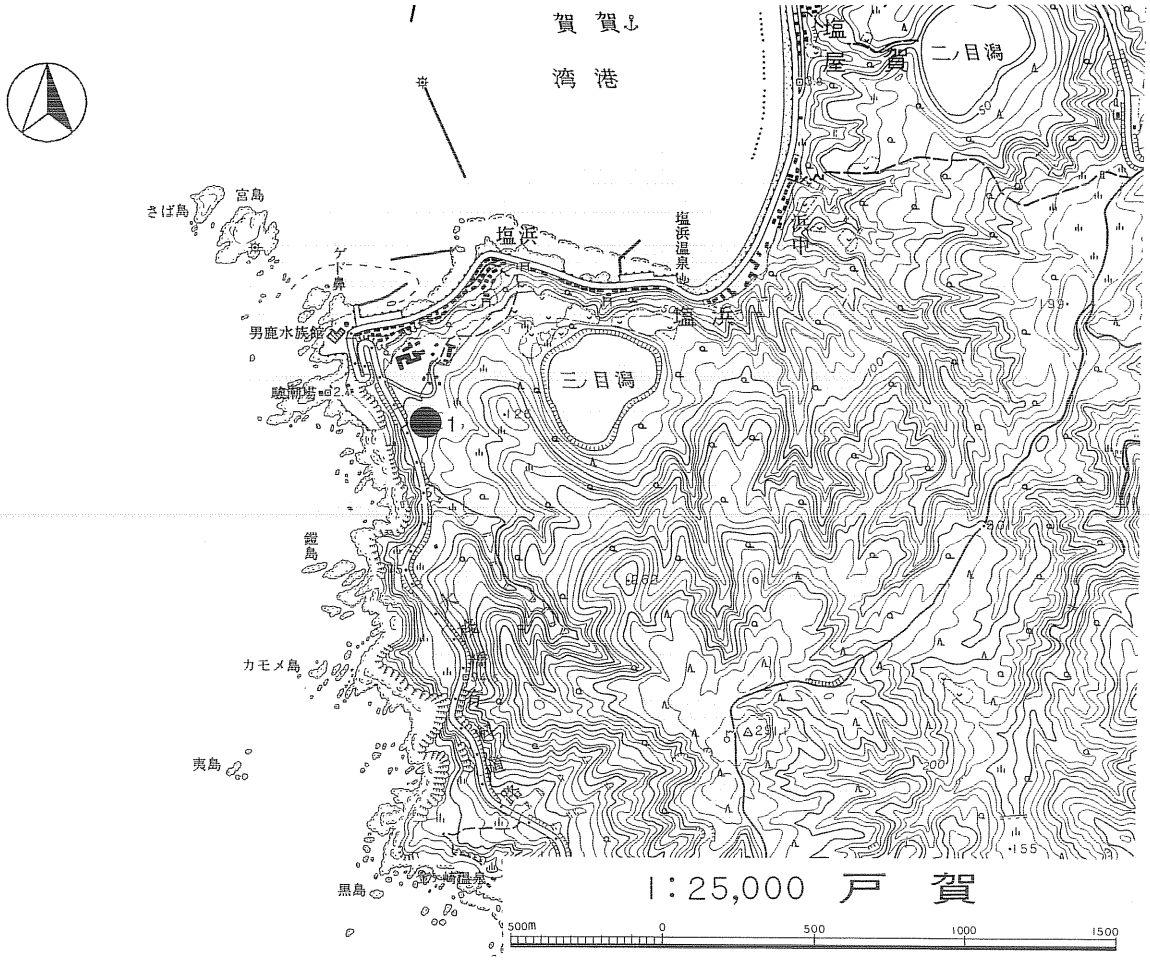
第32図　農免農道整備事業金岡西部地区遺跡分布調査位置図

（25）新水族館建設事業

男鹿市戸賀塩浜地内の事業予定地の内、駐車場部分について踏査および試掘を実施した。

調査の結果、遺構・遺物の検出はなく、新たな遺跡の発見はなかった。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時　代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	・・・・	男鹿市戸賀塩浜字壷ヶ沢	・・・	山林・畑地	なし	



第 33 図　新水族館建設事業遺跡分布調査位置図

第2節　遺跡範囲確認調査

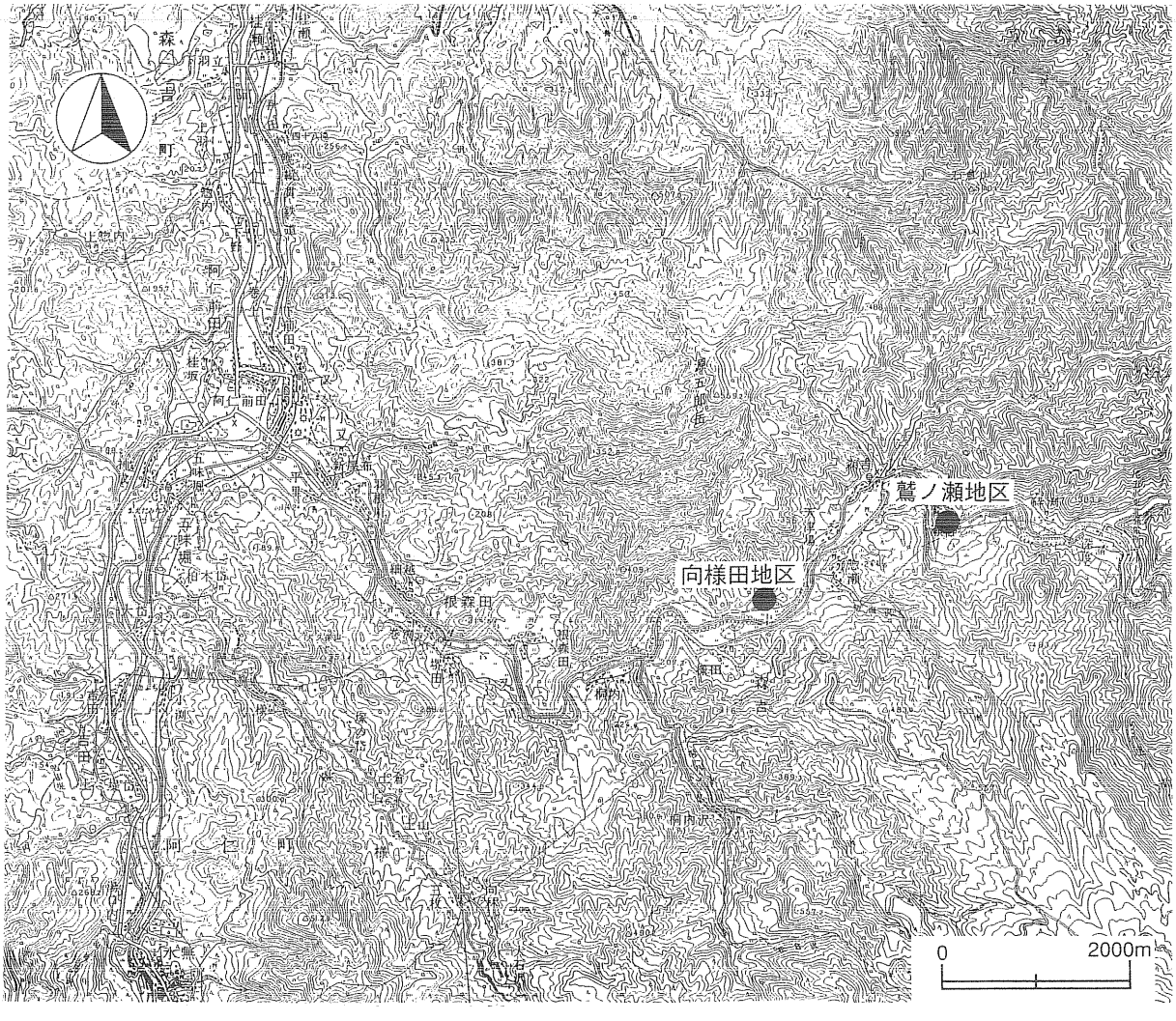
1　森吉山ダム建設事業

森吉山ダム建設事業に係る範囲確認調査について

森吉山ダムは、東西に長い森吉町にそびえる森吉山の北を流れる小又川に建設されることとなり、ダム建設地および貯水池用地(湛水区域)、道路用地を対象として広域に範囲確認調査を実施することになった。ダム建設事業のため、すでに集落の移転は終了しており、かつての集落および耕作地の約1,200,000㎡が調査の対象となる。範囲確認調査は平成6年度より開始され、本年度が最終年度である。

本年度の調査対象区域は、昨年度までに調査した向様田地区と鷲ノ瀬地区のそれぞれの未調査部分で、対象面積は向様田地区54,200㎡、鷲ノ瀬地区22,200㎡の総面積76,400㎡である。そのなかで鷲ノ瀬地区の1,800㎡が新たに遺跡の面積に加えられた。鷲ノ瀬地区は、調査済みの遺跡に隣接するので同じ遺跡名で扱うことにする。

なお、今年度までに確認された遺跡の総数は57遺跡である。



第34図　森吉山ダム建設事業地内範囲確認調査地区位置図

（1）鷲ノ瀬遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字鷲ノ瀬80外

2　範囲確認調査期間　　平成10年8月17日～9月18日

3　範囲確認調査対象面積　　22,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　1,800㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、北東から南西に流れる小又川が鋭角に流路を変える右岸の河岸段丘上にあり、標高は161～165mである。北側には、県道比内森吉線が南東から北西に通じる。段丘面は南西方向に緩やかに傾斜し、その対岸は急峻な山塊となっている。

②現況

遺跡はかつて水田で、一部に旧宅地や畑地を含み、現在は荒地になっている。また遺跡の一部が、日本ジャンボリーの駐車場として一時期使用された。

6　範囲確認調査の方法

雑木や雑草の伐採や草刈りを済ませ、平成9年度に行った範囲確認調査のトレンチ跡に沿わせて見通しによる測量を行った。次に、幅1mのトレンチを設定し重機を用いた掘削を行い、その後に壁面や地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。また遺構と考えられる部分はその広がりを確認するために拡張した。鷲ノ瀬地区の試掘面積は2,615㎡、調査対象面積の11.8%である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

調査範囲は、県道と小又川に挟まれた部分で、県道側の高位段丘部と河川側の低位段丘部(一部は旧河道)に二分される。高位段丘では、Ⅰ層耕作土(20～40㎝)、Ⅱ層黒褐色砂質土(20～30㎝)、Ⅲ層褐色砂質土(地山)となる。Ⅱ層からわずかながら縄文土器が検出される。南側から西側にかけては、削平が著しく耕作土の下が礫層になるところもある。低位段丘は、ほぼ中央を南東から北西に旧河道が通っていて、Ⅰ層盛土(50～100㎝)、Ⅱ層黒褐色土(30～80㎝)、Ⅲ層褐色砂質土(地山)となる。

②検出遺構と出土遺物

高位段丘の縁辺に、フラスコ状土坑3基のほか遺跡北側やや道路よりに土坑1基を確認した。遺物は極端に少なく、遺跡全体にまばらに点在する。土器には縄文時代中期と後期のものがあり、石器は数片出土したのみである。

8　所見

①遺跡の種類

平成9年度に縄文時代後期を中心とした竪穴住居跡や土坑が検出されており、これらの広がりで捉えられる遺跡で、集落の一部を構成すると予想される。

②遺跡の範囲

平成9年度の遺跡の範囲に続く高位段丘縁辺部の細長い範囲である。

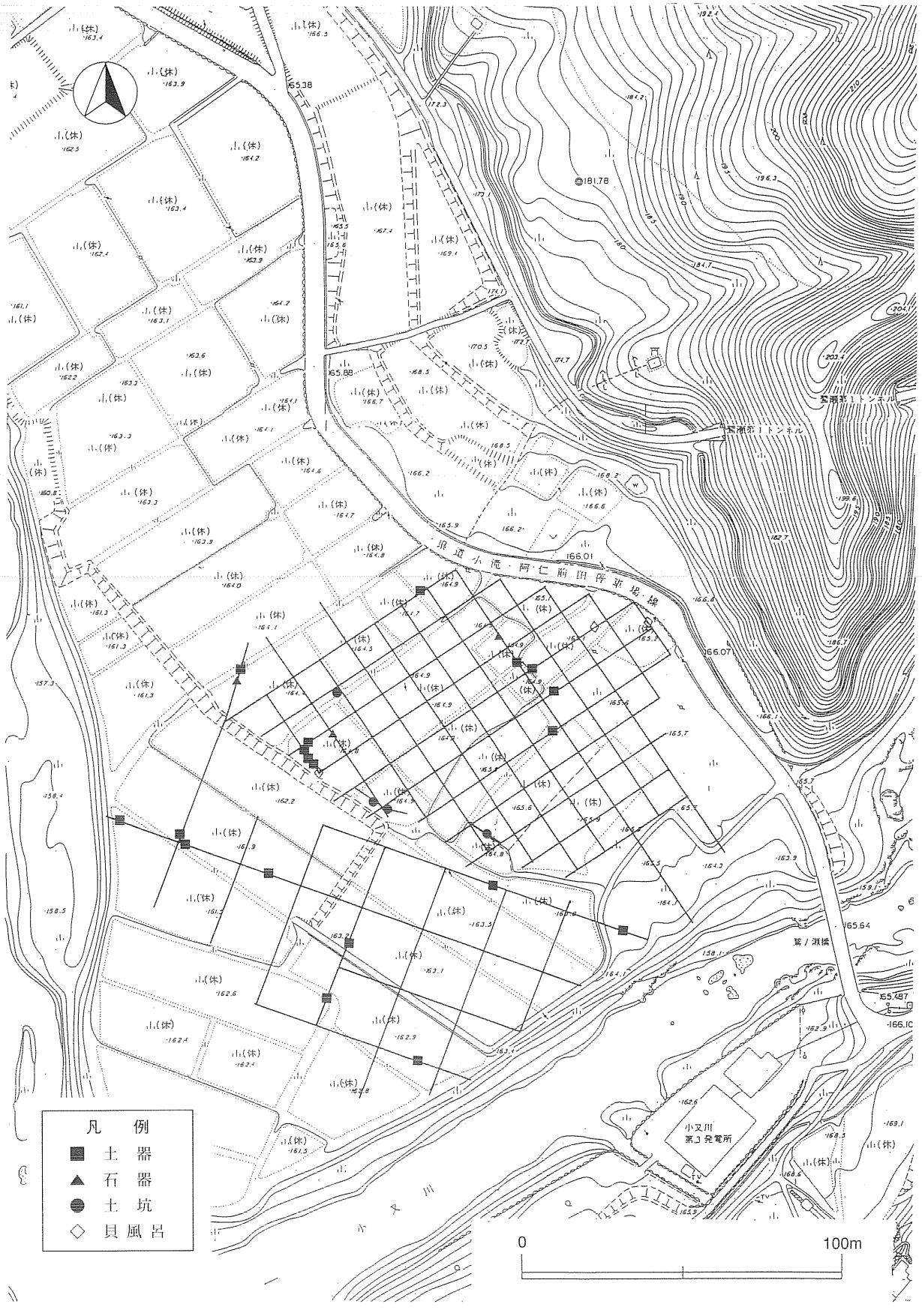
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

高位段丘縁辺部に縄文時代中・後期のフラスコ状土坑および土坑が検出されると予想される。遺物

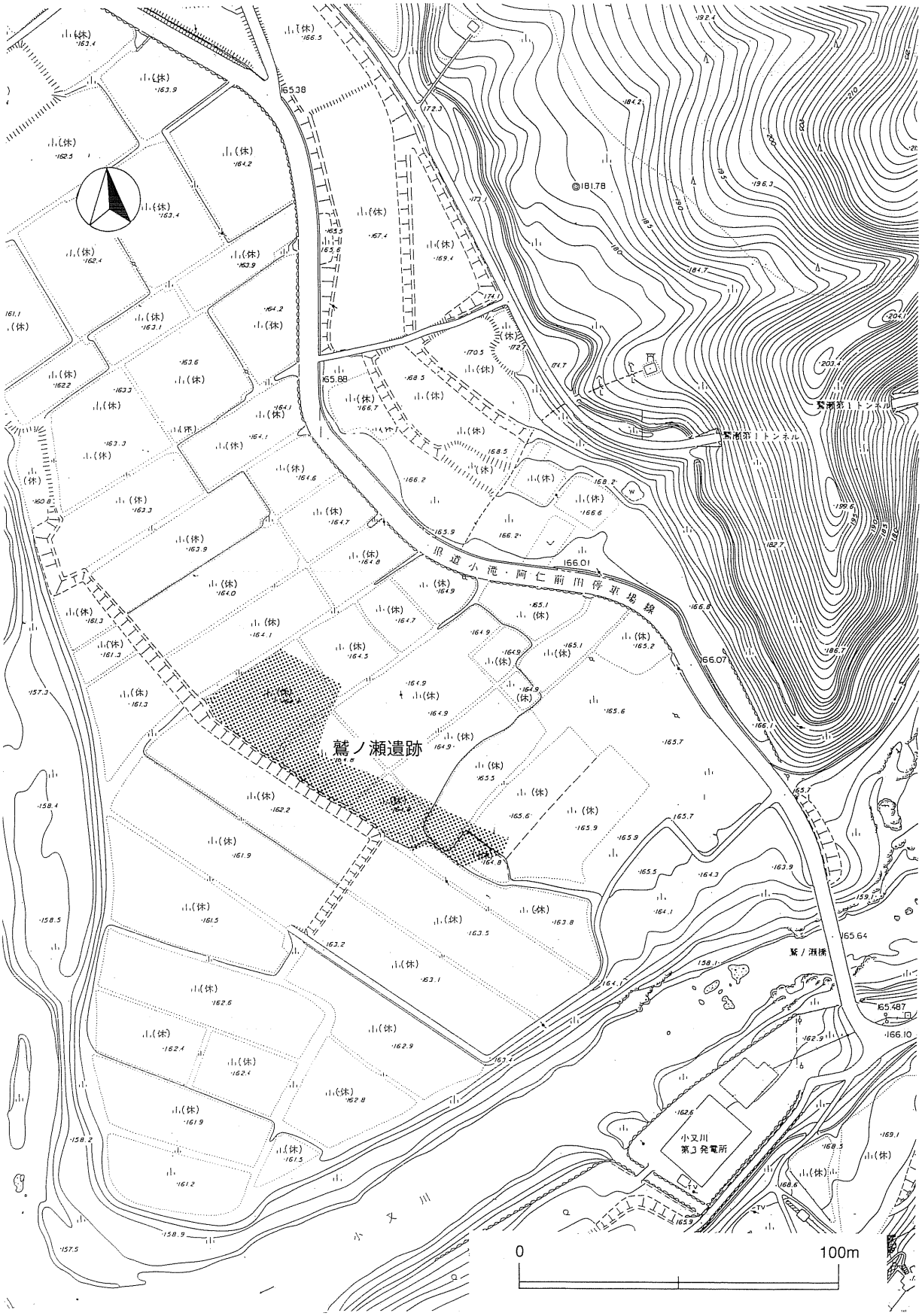
量は少ないと考えられる。

9　その他

明治以降と思われる貝風呂(キャフロ)が多量に廃棄された場所が確認され、結果図に付記した。



第 35 図　鷲ノ瀬遺跡範囲確認調査結果図



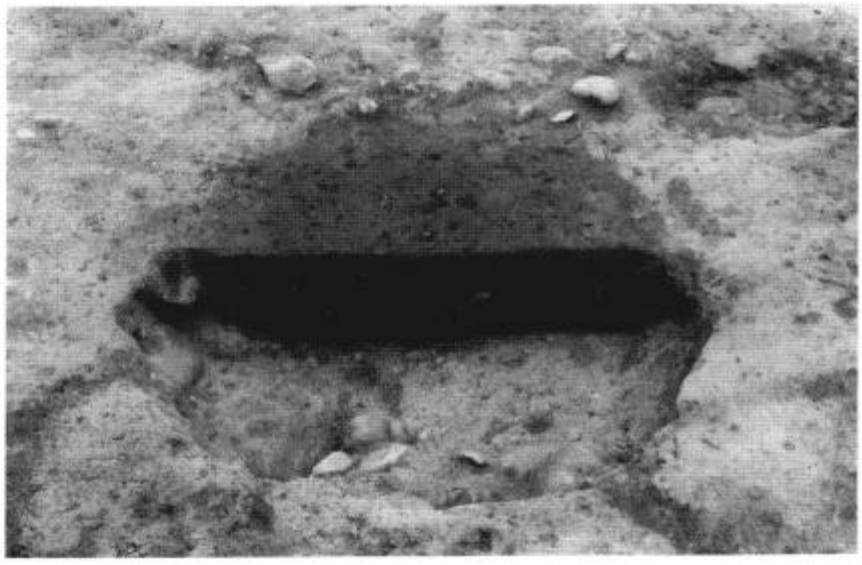
第 36 図　鷲ノ瀬遺跡範囲図

鷲ノ瀬遺跡
遠景（南東から）

鷲ノ瀬遺跡
土坑検出状況
（南から）

鷲ノ瀬遺跡
土坑半截状況
（南から）

鷲ノ瀬遺跡
土坑検出状況
（西から）



鷲ノ瀬遺跡
土坑半截状況
（南から）

鷲ノ瀬遺跡
貝風呂出土状況
（西から）

（２）向様田（むかいさまだ）地区

１　範囲確認調査対象地

向様田Ａ地区	秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ 29－1、30－1 外
向様田Ｂ地区	秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ 155、156、157 外
向様田Ｃ地区	秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ 28、30、105～109 外
向様田Ｄ地区	秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ 22

２　範囲確認調査期間　平成 10 年 5 月 12 日～ 5 月 22 日

３　範囲確認調査対象面積　54,200㎡

４　工事区域内遺跡面積　0㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

向様田Ａ～Ｄ地区は小又川右岸の段丘上で、Ａ・Ｄ地区は標高 356～400ｍの丘陵地裾部と小又川との間にあり、Ｂ・Ｃ地区は丘陵地裾部舌状台地部に立地する。この地内の中ほどを町道が縦断しており、Ａ・Ｄ地区は町道の南側、Ｂ・Ｃ地区は北側に位置する。Ａ・Ｄ地区は標高 126～135ｍで、段丘の縁辺部にあたり、小又川に沿う形となっている。Ｂ・Ｃ地区は標高 152～168ｍで北から南に向かって下る緩斜面上にある。

②現況

Ａ・Ｄ地区はかつては水田で、Ｂ・Ｃ地区は畑地であった。いずれも現在は荒地になっている。

６　範囲確認調査の方法

Ａ～Ｃ地区は地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去した後、壁面や地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。またＤ地区は１ｍ四方を４カ所坪掘りした。試掘面積は 2,243㎡、調査対象面積の 4.1％である。

７　範囲確認調査の結果

（１）向様田Ａ地区

①層序

Ⅰ層黒褐色土(15㎝)－表土、Ⅱ層黒褐色土(35㎝)、Ⅲ層黒色土(15㎝)、Ⅳ層暗オリーブ灰色土(地山)となる。Ⅱ・Ⅲ層はすべて盛土である。一部でⅢ層が 40㎝以上のところもある。

②検出遺構と出土遺物

遺物は縄文土器 10 数点をⅡ・Ⅲ層の盛土中より検出した。遺構は確認できなかった。

（２）向様田Ｂ地区

①層序

Ⅰ層黒褐色土(15㎝)－表土、Ⅱ層黒色土(15㎝)、Ⅲ層黒褐色土(15㎝)、Ⅳ層褐色土(地山)で、浅いところは地山まで 12㎝のところもある。

②検出遺構と出土遺物

遺構は確認できなかった。遺物は、縄文土器片が倒木痕より 10 数点出土したのみである。

（３）向様田Ｃ地区

①層序

Ⅰ層黒褐色土(25㎝)－表土、Ⅱ層黒色土(20㎝)、Ⅲ層暗褐色土(10㎝)－地山漸移層、Ⅳ層褐色土(地山)で、浅いところは地山まで15㎝のところもある。

②検出遺構と出土遺物

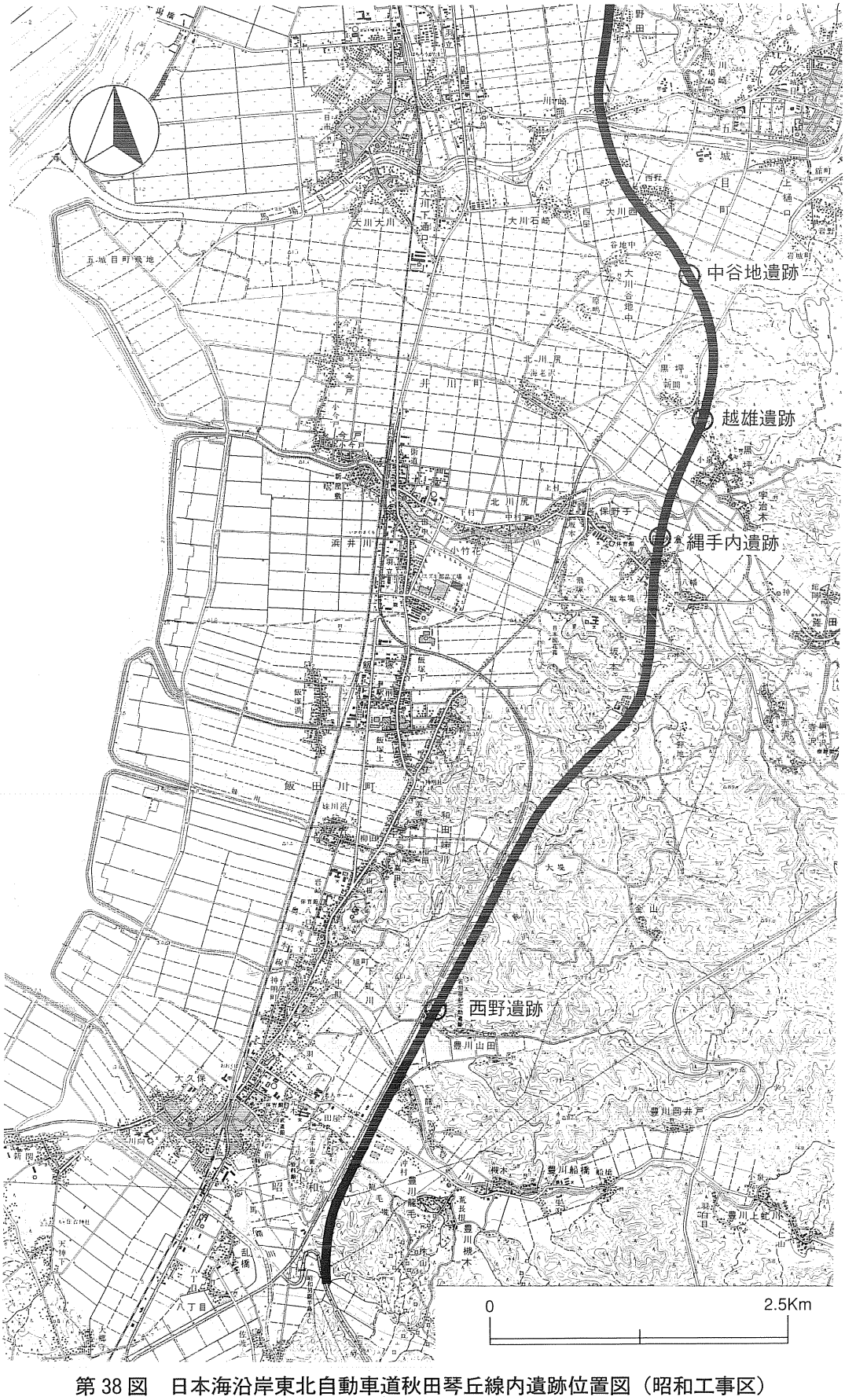
焼土を４基確認し、半截して周辺を拡張した。地表から浅いこと、しっかりした焼け方でないこと、遺物を全く伴わないことなどから比較的新しいものと判断した。Ｃ地区全体で、遺物は縄文土器片を数点検出したにとどまる。

８　所見

すべての地区で遺構が全く確認できなかったこと、遺物もほとんどないことより、遺跡としてはとらえることはできない。

第37図　向様田地区内範囲確認調査結果図

2　日本海沿岸東北自動車道秋田琴丘線建設事業



第 38 図　日本海沿岸東北自動車道秋田琴丘線内遺跡位置図（昭和工事区）

（1）西野（にしの）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県南秋田郡昭和町豊川山田字家ノ上116外

2　範囲確認調査期間　　平成10年5月11日～5月15日

3　範囲確認調査対象面積　　5,660㎡

4　工事区域内遺跡面積　　3,900㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、ＪＲ奥羽線大久保駅から北東に約1.6km、北緯39°52′21″、東経140°5′11″に位置する。

国道7号を秋田市追分方面から北上すると、昭和町付近から右手に丘陵地が国道に並行して南北に連なっている。この丘陵地は太平山地に属し、俎山(721m)から流れ出る豊川をはじめとする大小の河川によって開析され、末端は独立丘を呈している。遺跡はこの丘陵の末端で、標高14～23mの南側緩斜面に立地する。遺跡の西側は国道7号が、南側では町道が丘陵末端を分断して走っている。

なお遺跡から東に500mほどの山田地区には、明治の農聖と称された石川理紀之助の遺跡(県指定史跡)がある。

②現況

杉林と灌木のある原野である。特に町道に接する北側部分は地山も含めて深く削平を受けている。

6　範囲確認調査の方法

調査は、地形を考慮して等高線に直交する南北のトレンチを設定し、これに交差するように東西にトレンチを設けて行った。遺構については、位置と規模を記載するとともに可能な限り掘り込み面の把握に努めた。遺物については、出土位置と層位を記録した。実質調査面積は312㎡で、対象面積の5.5%である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡の基本的な層序は、Ⅰ層黒褐色土(表土:10YR2/2)、Ⅱ層暗褐色土(10YR3/3)、Ⅲ層黒色土(10YR2/1)、Ⅳ層暗褐色土(地山漸移層:10YR3/2)、Ⅴ層褐色土(地山:10YR4/6)である。調査区中央部の5トレンチではⅢ・Ⅳ層は認められず、Ⅰ層が15～25cm、Ⅱ層が10～20cmの厚さがあり、Ⅱ層が縄文時代と古代の遺物包含層で、遺構は地山面で確認した。調査区北側ではⅠ層10cm、Ⅱ層45cm、Ⅲ層15cm、Ⅳ層20cmの厚さがある。このうちⅡ・Ⅲ層は遺物包含層であるとともに古代の遺構確認面である。

②検出遺構と出土遺物

遺構・遺物とも南側の削平された地域を除くほぼ全域から検出した。遺構では奈良時代(8世紀)の竪穴住居跡や土坑を中心に、縄文時代前期、弥生時代の土坑などを確認した。遺物は、奈良時代(8世紀)の土師器・須恵器が最も多く、その他、縄文時代前期の土器・石器(石槍・石箆など)、弥生時代中期の土器・石器(掻器など)が出土している。

8　所見

①遺跡の種類

奈良時代の集落跡を主体として、縄文時代・弥生時代の集落跡もある複合遺跡である。

②遺跡の範囲と工事区域

遺跡の範囲は、遺跡の立地する丘陵の東西に延びる南側斜面全域に広がると判断される。このうち工事区域内における遺跡範囲は、遺跡全体のほぼ中央部と考えられる。

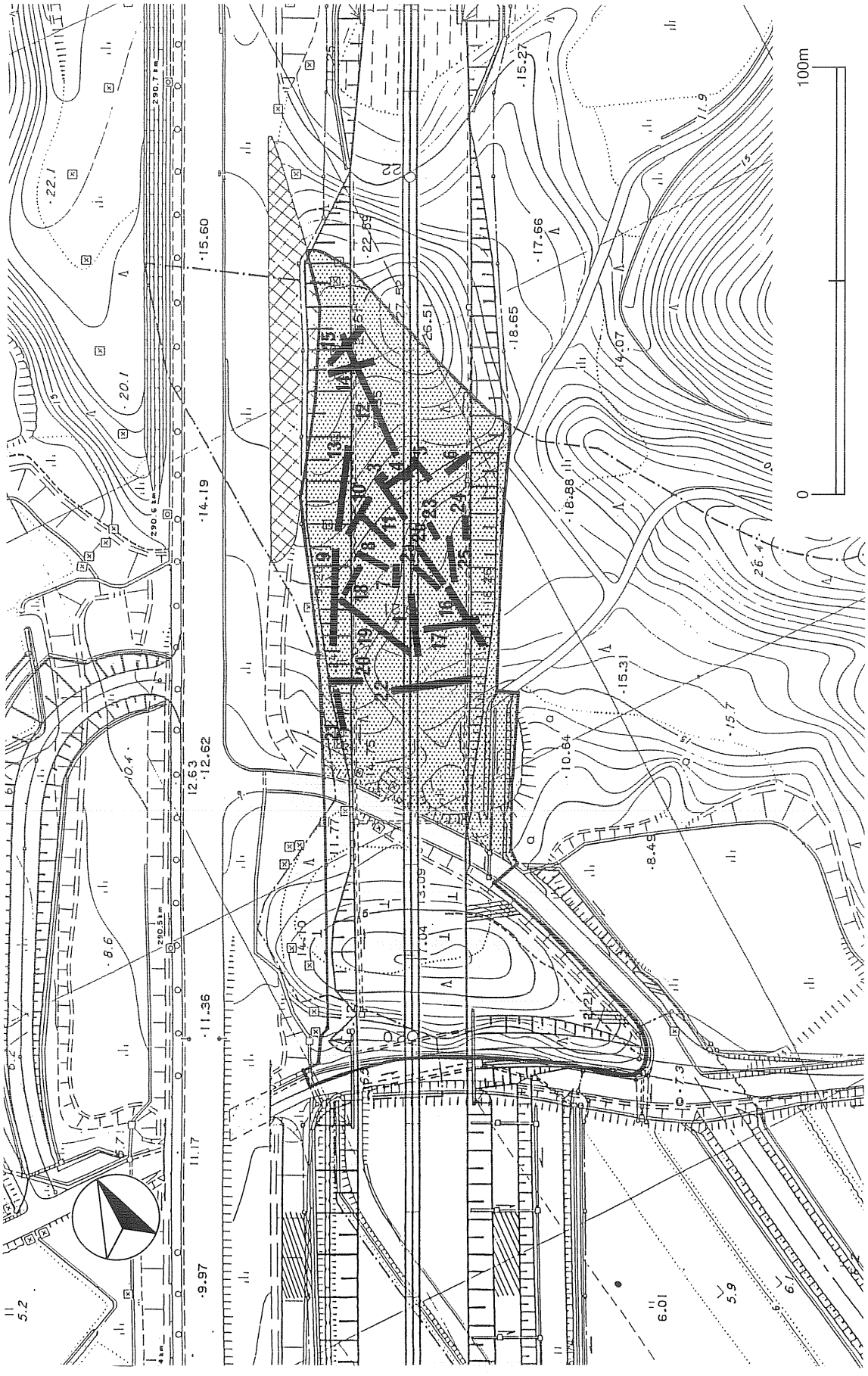
③検出遺構と出土遺物

奈良時代の竪穴住居跡や土坑が中央部を中心に20～30基、縄文時代・弥生時代の竪穴住居跡・土坑などの遺構が10基ほど検出されると判断される。遺物は、奈良時代の土師器・須恵器が最も多く、他に縄文時代、弥生時代の土器・石器が整理箱で50箱ほど出土するものと考えられる。

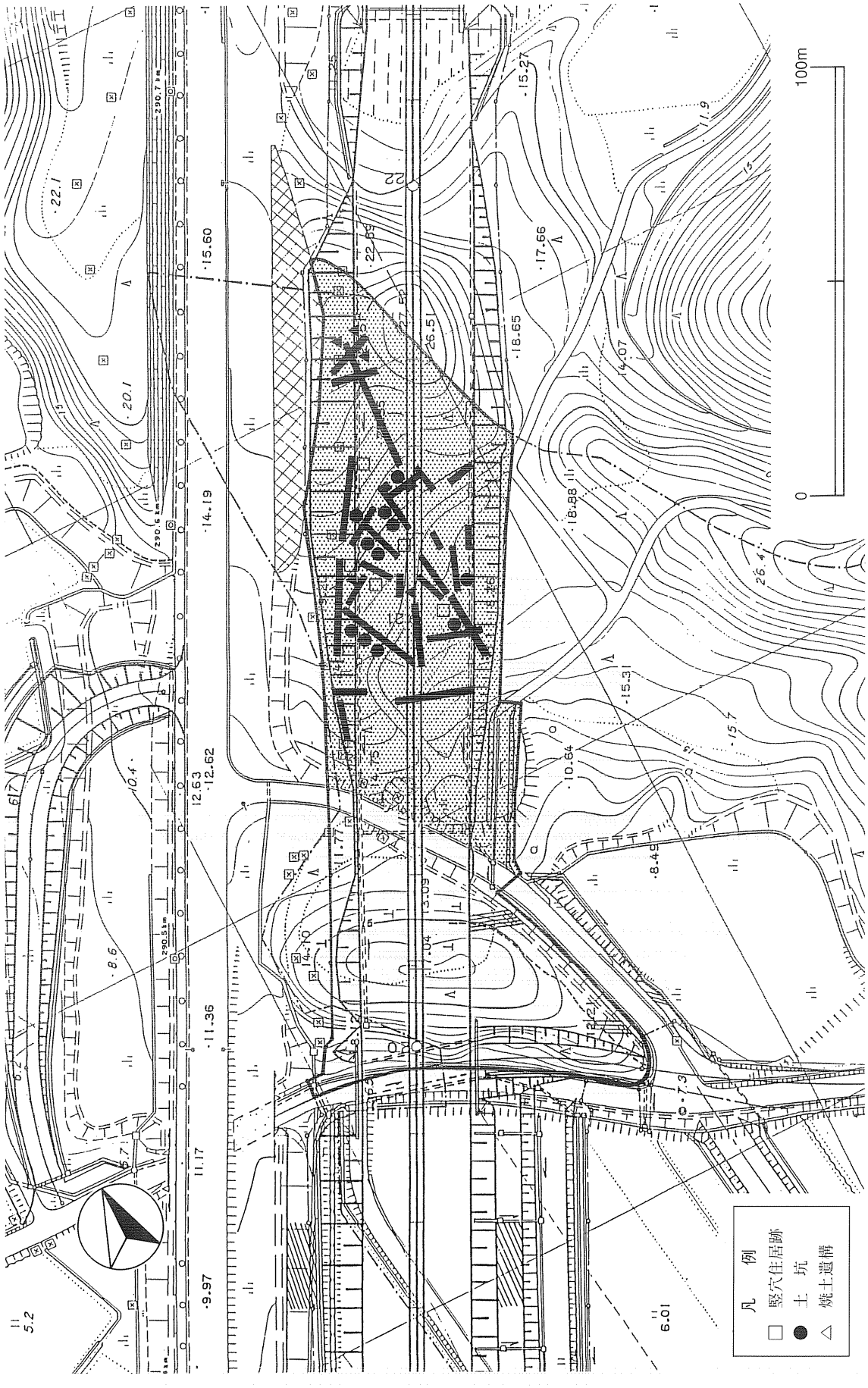
9　その他

①今回の調査対象範囲には南側の墓地の部分(2,540㎡)は含まれていない。墓地移転後に範囲確認調査が必要である。

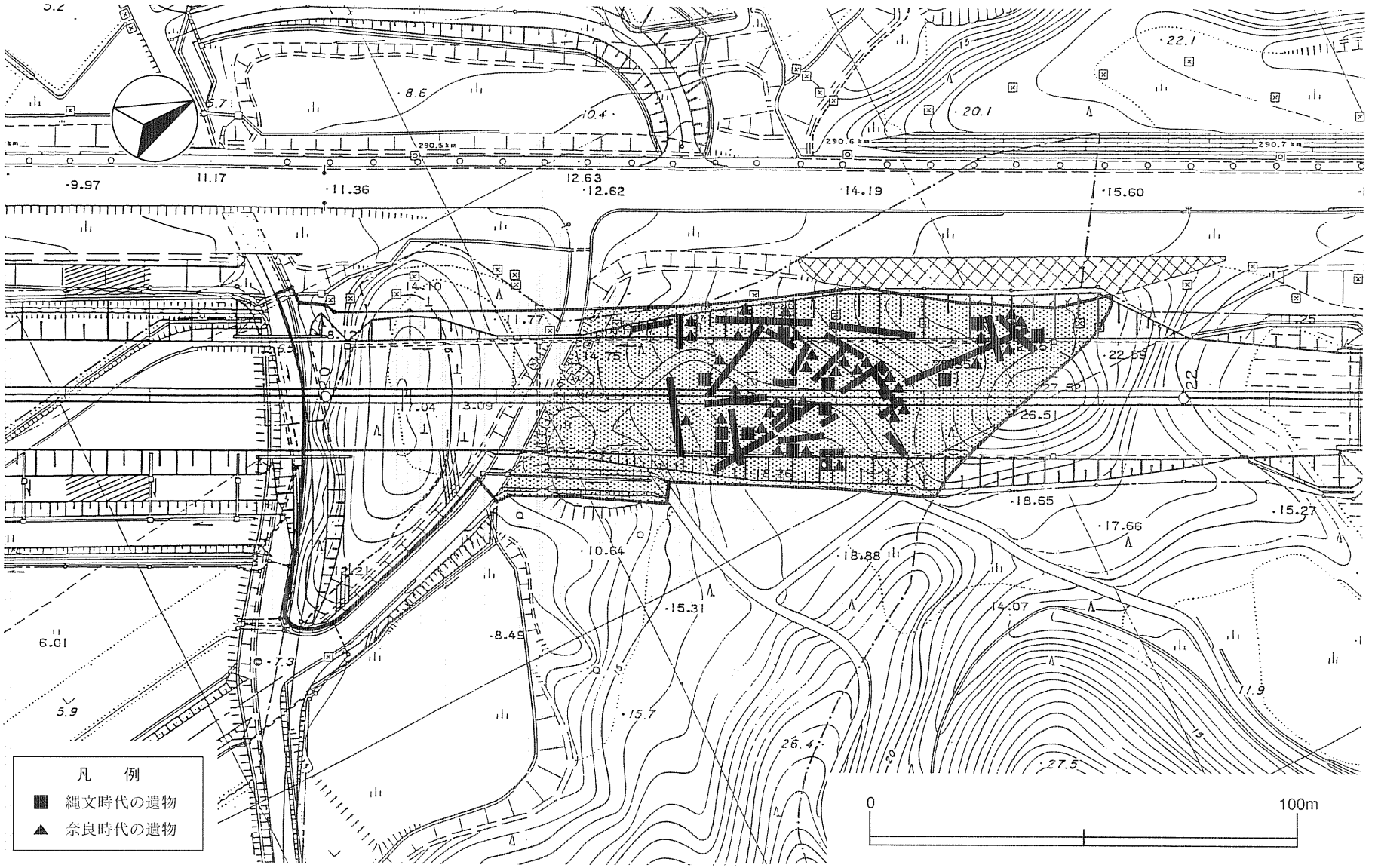
②本遺跡は秋田県遺跡地図(中央版)に26―15として登録されている周知の遺跡である。



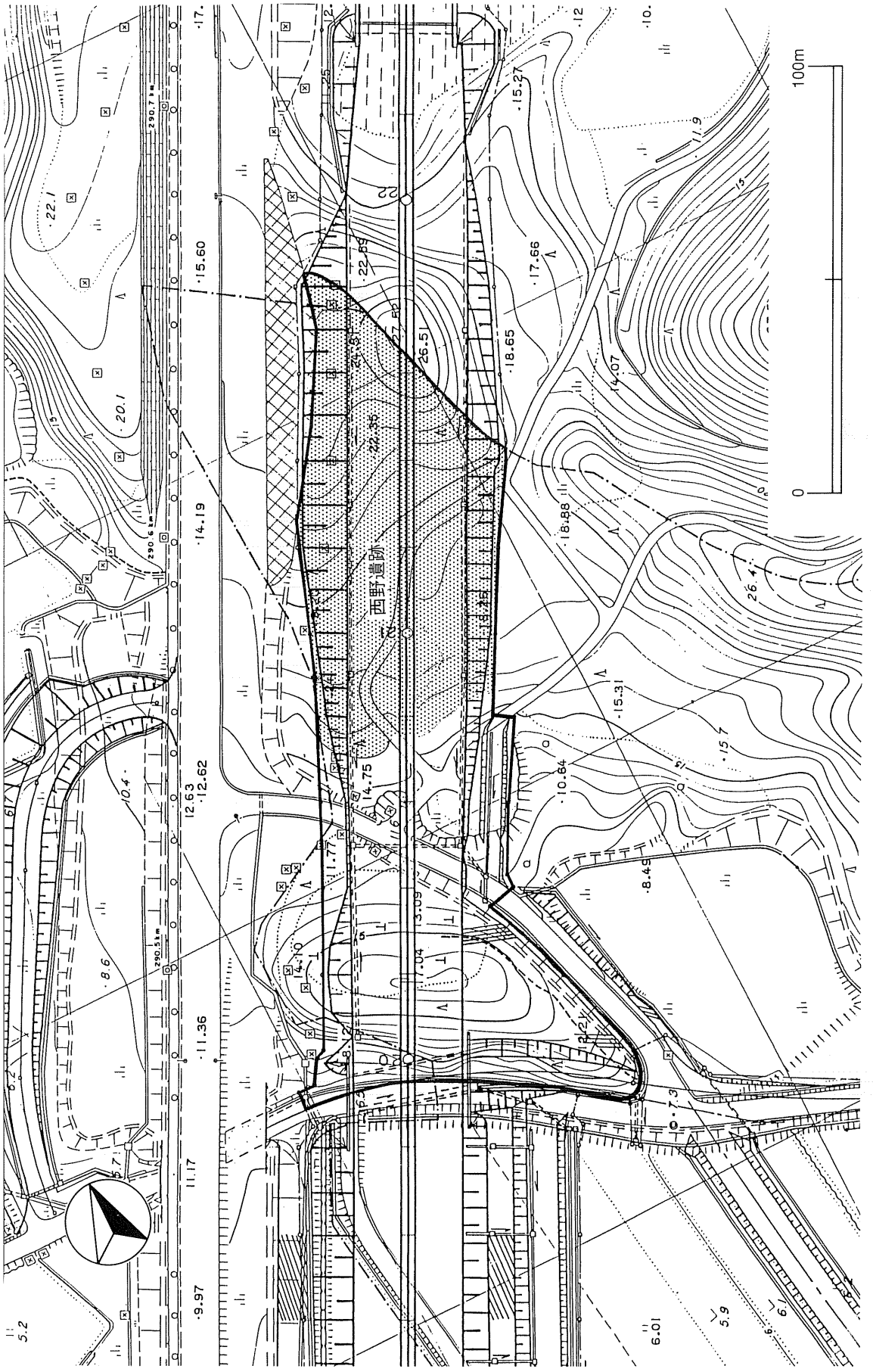
第 39 図　西野遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図



第 40 図　西野遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）

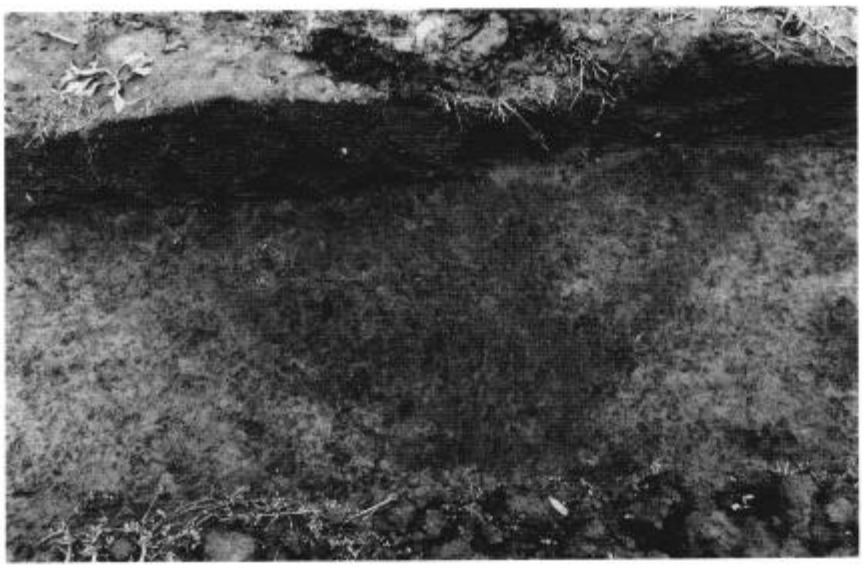


第41図　西野遺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）



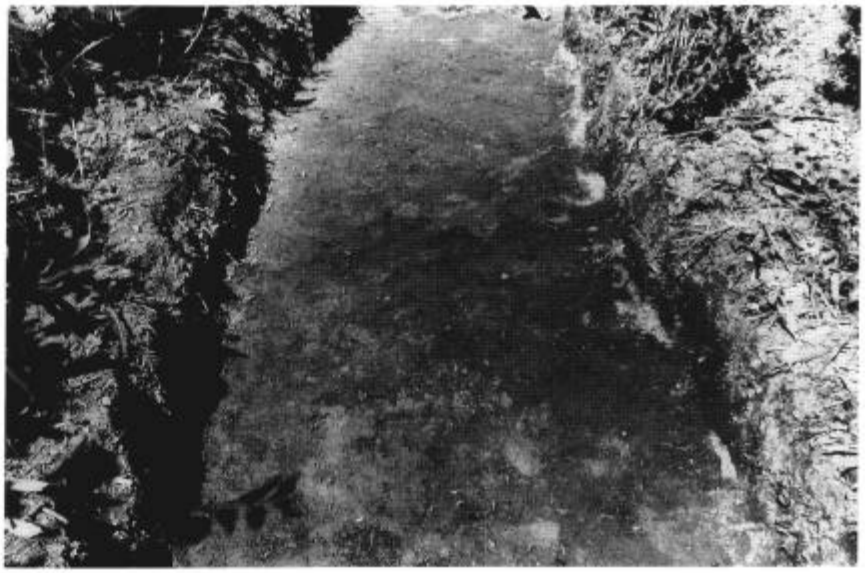
第 42 図　西野遺跡範囲図

西野遺跡
現況（南から）



西野遺跡
竪穴住居跡検出状況
（上から）

西野遺跡
遺構検出状況
（南から）



西野遺跡
土坑検出状況（南から）

西野遺跡
竪穴住居跡検出状況
（南から）

西野遺跡
調査風景（南から）

（2）縄手内遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県南秋田郡井川町八田大倉字縄手内106外

2　範囲確認調査期間　　平成10年5月18日～5月22日

3　範囲確認調査対象面積　　8,500㎡

4　工事区域内遺跡面積　　0㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、国道7号と285号との分岐点から北東へおよそ1.8kmに位置する。

井川町は、東側の太平山地に源を発し、八郎潟調整池に注ぐ井川とその支流域に発達した町で、遺跡のある八田大倉集落も井川の左岸で町内のほぼ中央にある。遺跡は北側の井川と南側の赤沢川に挟まれた標高9mほどの沖積地に立地している。

②現況

水田である。

6　範囲確認調査の方法

調査対象範囲内の工事用中心杭に沿って南北のトレンチ(幅1m)を設け、さらにこれに直交する東西トレンチを設定して調査を行った。また、不明確な落ち込みなどについては、時代・性格を明らかにするために拡張した箇所もある。遺物は出土位置と層位を記録した。実質調査面積は290㎡で、対象面積の3.5%である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡の層序は、Ⅰ層(耕作土:黒褐色土)、Ⅱ層(地山:暗緑灰色砂質粘土)である。Ⅱ層には間層として流木や葦の堆積層があり、氾濫原か湿地であったと考えられる。遺物はⅠ層下位からⅡ層上位にかけて出土している。

②検出遺構と出土遺物

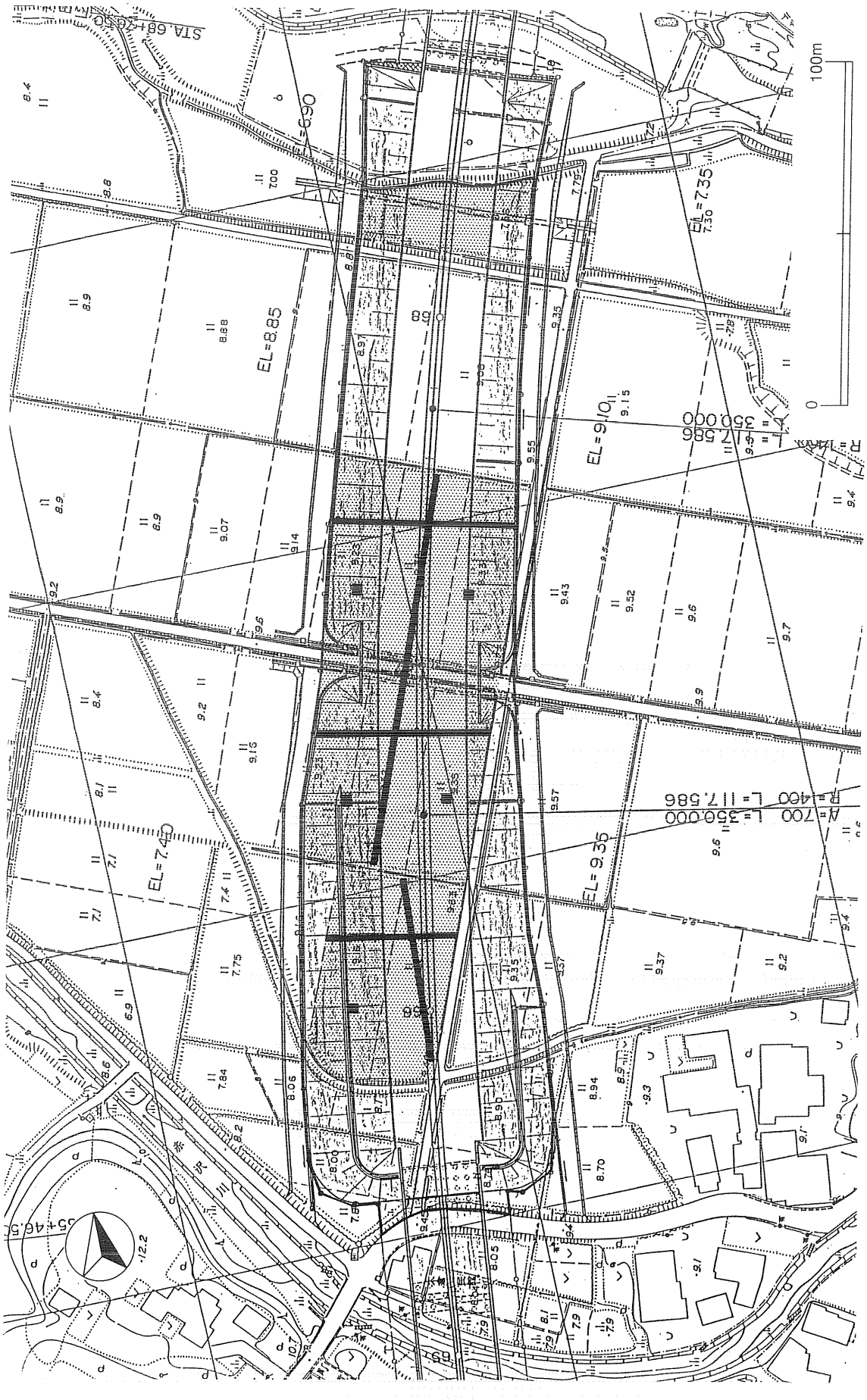
検出遺構は無い。遺物は縄文土器2点、土師器5点、珠洲系陶器6点が出土しただけで、いずれも器表面が摩滅している。

8　所見

調査では遺構は検出されず、また遺物については摩滅していることと調査対象範囲内に包含層も確認出来なっかたことから、河川などの影響を受けたものと判断される。従って工事区域内における発掘調査の必要は無いものと考えられる。

9　その他

今回の範囲確認調査は、工事区域内における買収済みの箇所にのみ限定して行っている。未買収地については、今後立ち会い調査などの対応が必要である。



第43図　縄手内遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図

（3）越雄（こしお）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県南秋田郡井川町黒坪字越雄16－1外

2　範囲確認調査期間　　平成10年6月8日～6月23日

3　範囲確認調査対象面積　　8,500㎡

4　工事区域内遺跡面積　　4,300㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

越雄遺跡は、ＪＲ奥羽本線井川さくら駅から東北東に約3㎞、国道285号線・7号線の分岐より北東に約3㎞に位置し、標高12～17mの台地の裾野となる斜面上に立地する。遺跡の立地する台地は太平山地西端部に当たり、南北を西流する井川・馬場目川によって開析された舌状台地で、中山台地と呼ばれている。この中山台地には縄文時代後期の中山遺跡、県指定史跡となっている古代の岩野山古墳群、中世の館跡である雀館・帝釈寺館等の遺跡が点在し、弥生時代の新間遺跡は本遺跡とは黒坪集落を挟んで西に500m程の位置に存在する。

②現況

調査対象範囲の南北両端が水田、中央南側が畑地として耕作されており、北東側には杉林が残っている。中央部には斜面を深く削り取って製材所・宅地があり、調査区を南北に分断している。

6　範囲確認調査の方法

調査は土地利用状況・地形等を考慮し、等高線に直交するようにトレンチを設定し、これに交差するトレンチも設定した。トレンチの幅は1mないし2m、一部は遺構の広がりを確認するために拡張した。また、調査対象範囲北側の水田は盛土造成されているため数カ所の深掘りを行い、原地形の把握と遺構確認面の見極めを行った。遺物は出土位置と層位を記録した。実質調査面積は1,565㎡で、対象面積の18.4%である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡の基本的な層序については深さとともに以下に各地点別に示す。

・南側水田地域は、Ⅰ層暗褐色土(耕作土)15㎝、Ⅱ層黒褐色土50㎝、Ⅲ層褐色土(地山)である。Ⅱ層は水田南側にのみ確認でき、北側は地山面まで削平を受けている。地山は30㎝以上削り取られており、Ⅱ層も同じ様に削られていることがわかった。Ⅱ層からは石器片、近世以降の陶磁器・木製品(櫛)などが出土したが、遺物の年代に幅があり、また水田中央より緩やかに地山面が落ち込んでいるのを確認できたことから、沢部分への流れ込みによるものと判断した。

・中央南側畑地地域は、Ⅰ層暗褐色土(耕作土)15㎝、Ⅱ層黒褐色土30㎝、Ⅲ層褐色土(地山)である。Ⅱ層は遺物包含層であるが、畑地南側では耕作による削平を受けているため存在していない。中央から北側にかけて少しずつ層に厚みを帯び、遺物は北側よりで多くなっている。遺構内の土はⅡ層と同じであり、弥生時代の生活面はこの上面であると思われるが、耕作による削平を受けているものと考えられる。

・北東側林地域は、Ⅰ層暗褐色土(表土)15㎝、Ⅱ層褐色土10㎝、Ⅲ層褐色土(地山)である。各層とも砂質が強く、また下段の水田が地山の盛土で造成されていることから、やや平坦な面があるのは水

田を作る段階で大規模に地山を削り取った跡であることがわかった。

②検出遺構と出土遺物

北側水田地域では、遺構を検出できなかった。また、この水田には幅4～6mの沢部分があり、この沢を掘り下げたところ、50cm下より土師器・須恵器、200cm下より縄文時代晩期の土器等がまとまって出土した。しかしながら遺物は摩滅しており、沢への流れ込みによるものと判断した。畑地地域の遺物包含層(Ⅱ層)からは弥生時代中期の土器・石器が出土し、焼土遺構・土坑・柱穴・溝跡を検出した。土坑には平面形が楕円形で、遺物の出土状況から土坑墓と考えられるものもある。

8　所見

①遺跡の種類

弥生時代中期の墓域を含む集落跡の遺跡である。

②遺跡の範囲と工事区域

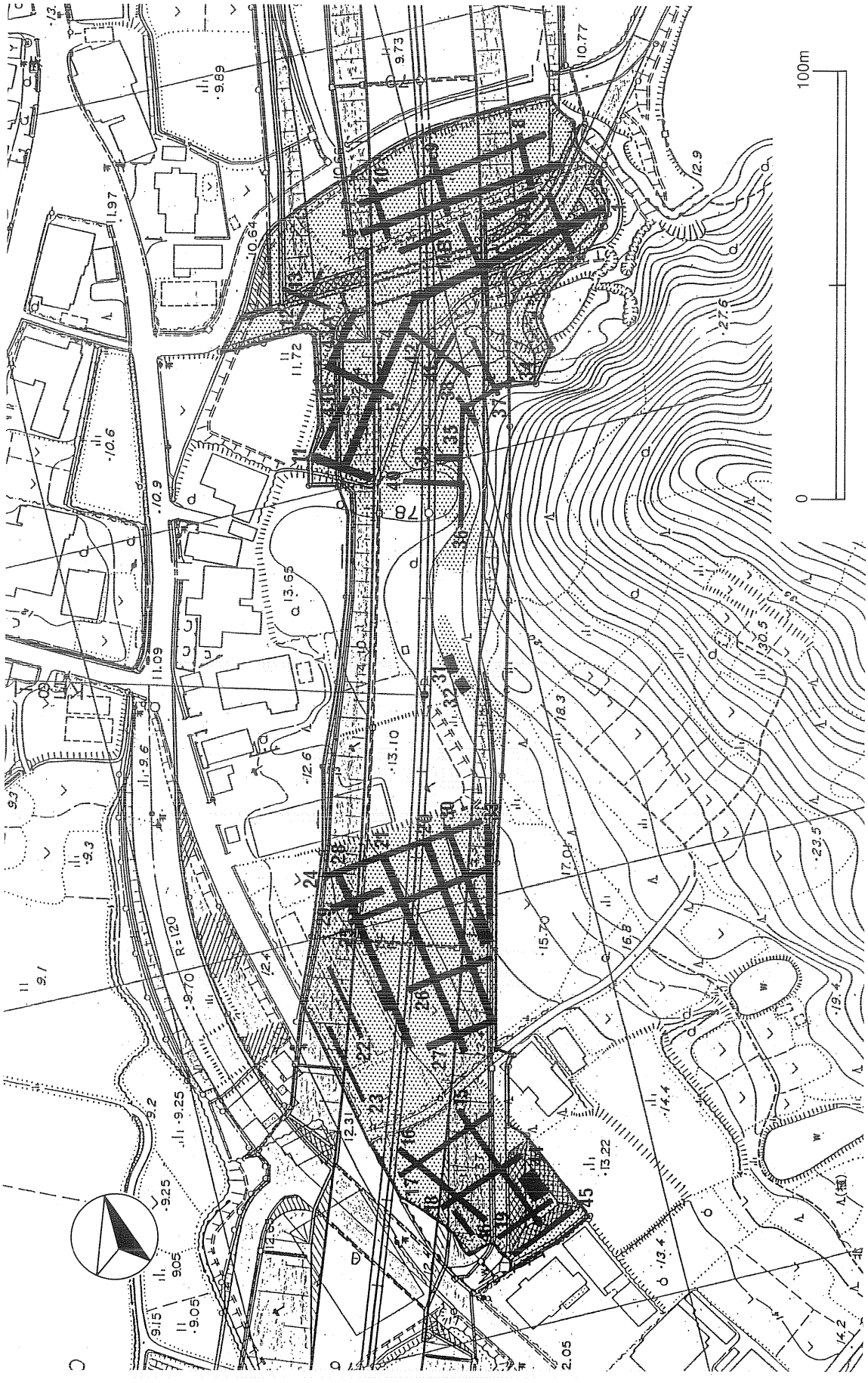
遺跡の範囲は、工事区域外東側の斜面を利用した畑地からも石器片を表採できたことから、標高約10～18mの、畑地とほぼ同一の面を持つ地域へ広がると考えられる。これには現在住宅の建っている地域も含まれると予想される。工事区域内における遺跡範囲は畑地部分で、遺跡全体のほぼ中央部にあたる。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

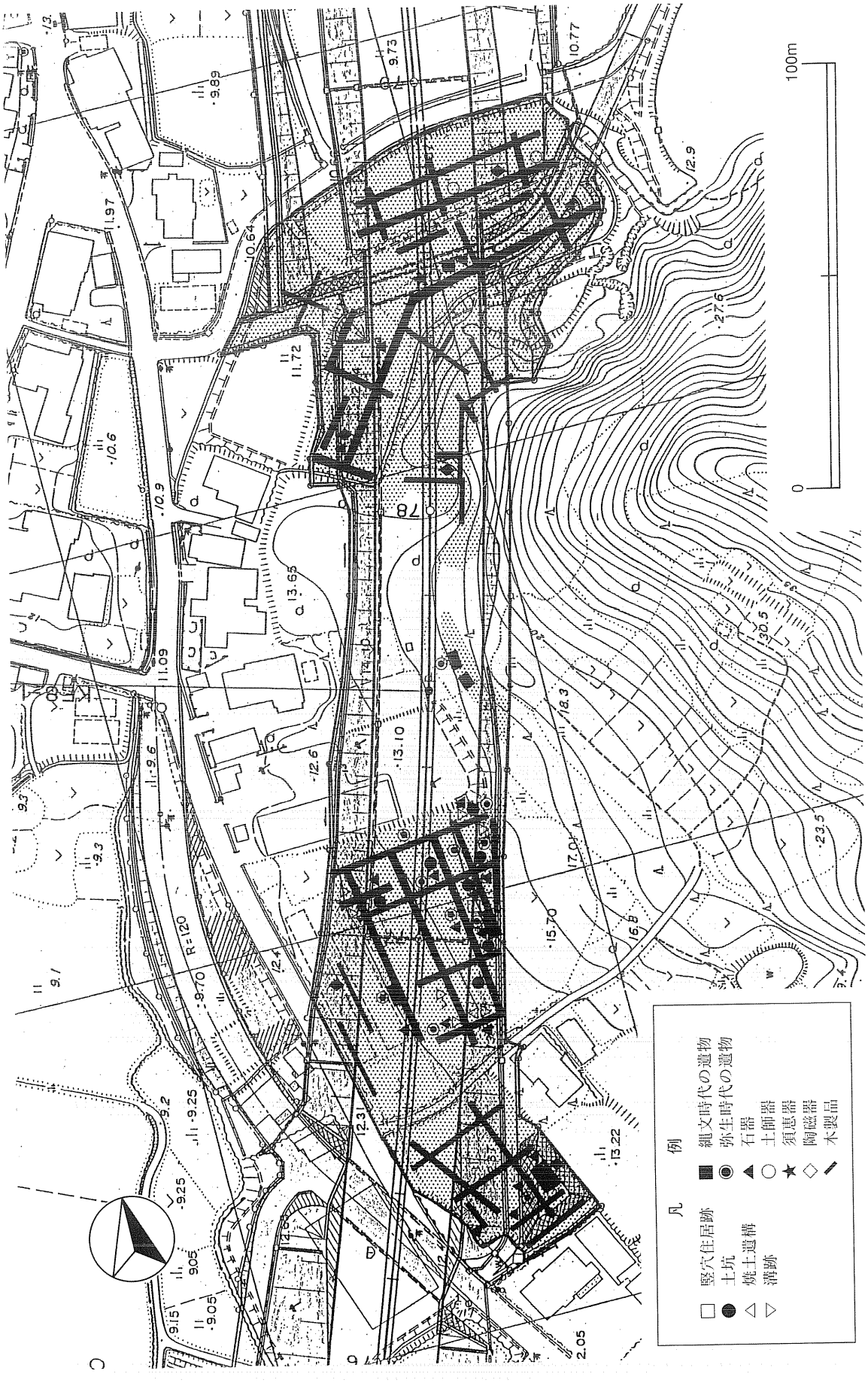
弥生時代の竪穴住居跡や溝跡、土坑などが20～30基、柱穴が50～60基検出されると判断される。遺物は弥生時代の土器・石器等が、整理箱で50箱ほど出土するものと考えられる。

9　その他

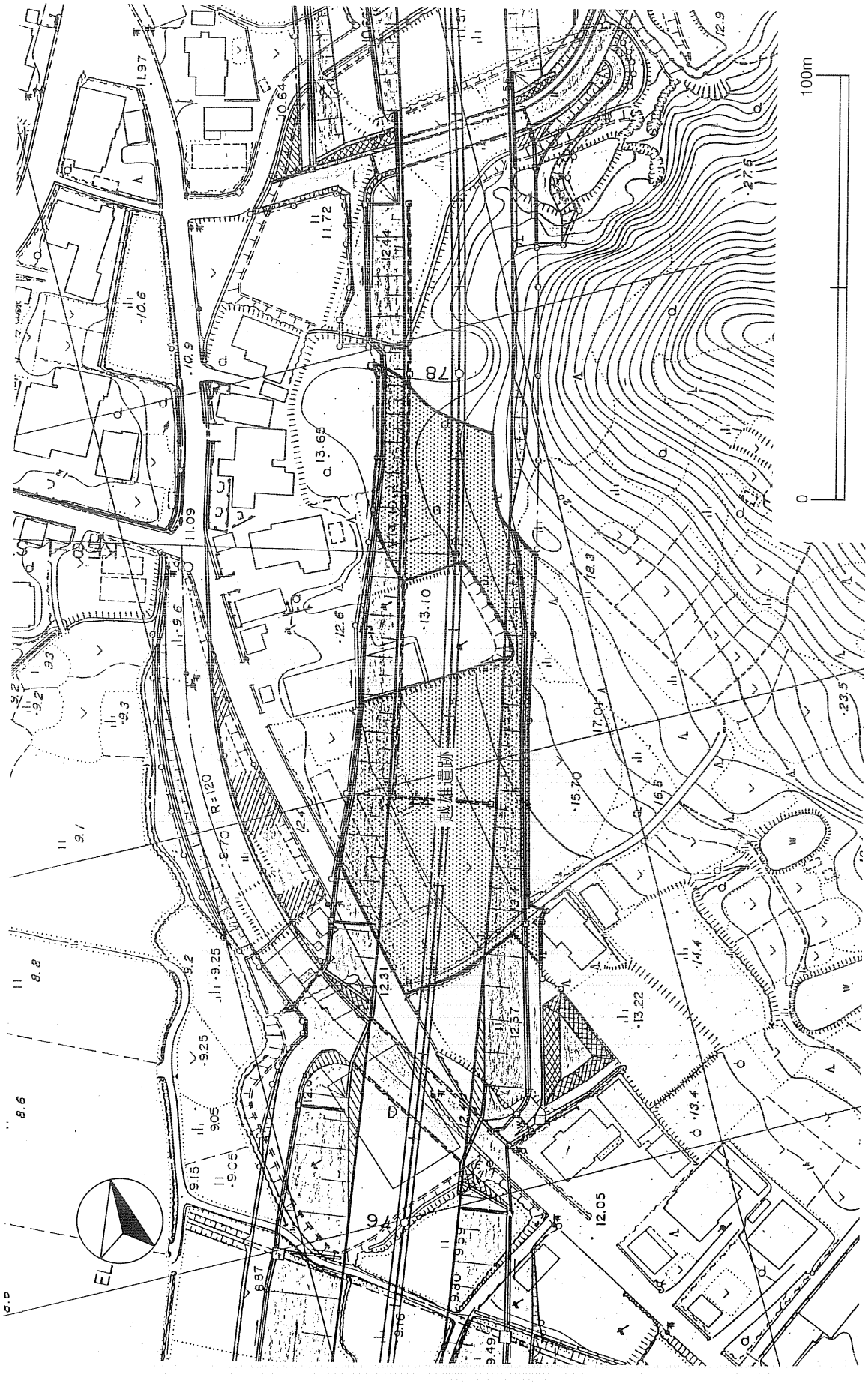
工事区域内遺跡面積4,300㎡には、今回の調査結果から発掘調査の必要な畑部分2,800㎡、未買収地のため調査できなかった北側斜面1,500㎡を含んでいる。



第 44 図　越雄遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図

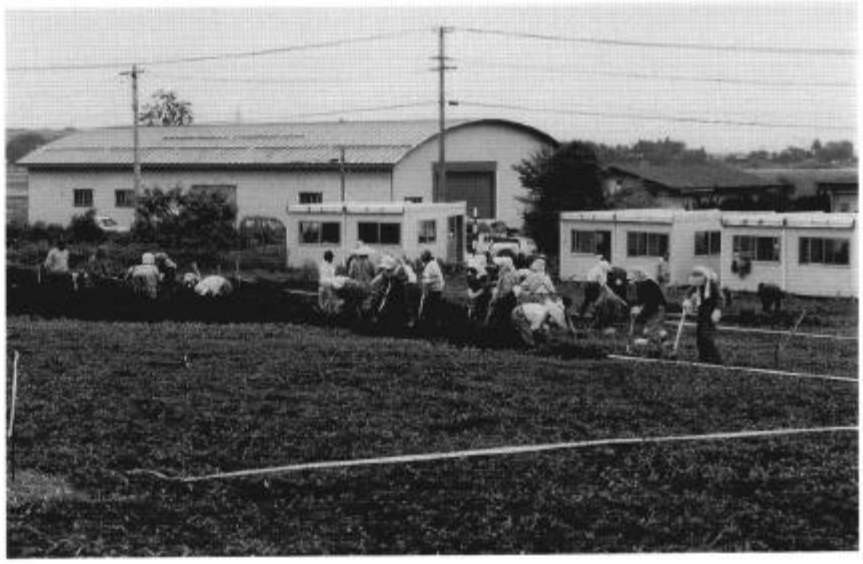


第45図　越雄遺跡範囲確認調査結果図



第46図　越雄遺跡範囲図

越雄遺跡
遺跡北側水田遠景
（北西から）



越雄遺跡
作業風景
（遺跡中央付近）

越雄遺跡
土坑・溝跡検出状況
（西から）

越雄遺跡
土坑検出状況
（南西から）

越雄遺跡
土坑検出状況
（北東から）

越雄遺跡
弥生土器出土状況
（北東から）

（4）中谷地（なかやち）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県南秋田郡五城目町大川谷地中字谷地6外

2　範囲確認調査期間　　平成10年5月11日～5月29日

3　範囲確認調査対象面積　　68,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　8,100㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

中谷地遺跡は、ＪＲ奥羽本線井川さくら駅から北東に約3.5km、五城目町役場から南西に約1kmの水田地帯にある。西流する馬場目川下流域左岸に広がる標高4.2～6.6mの平坦な沖積平野に立地する。遺跡の南～東1kmほどには中山台地が広がっており、沢によって開析された舌状台地の末端部には中山遺跡、岩野山古墳群、新間遺跡など、縄文時代から古代にかけての遺跡が点在している。また、遺跡の西側には古代の城柵跡と考えられている石崎遺跡が隣接している。

②現況

調査対象範囲のほぼ全域が水田として耕作されており、中央部のやや標高の高い部分は畑地として耕作されている。

6　範囲確認調査の方法

調査は土地利用状況等を考慮し、水田の区画に沿うようにトレンチを設定し、これに直交するトレンチ、計画道路幅に平行するトレンチも設定した。トレンチの幅は1m、一部は遺構の広がりを確認するために拡張した。また、調査対象範囲が広大であるため、トレンチ表土除去の65％は重機により行った。耕作による削平を受けているため、可能な限り地山面の残っている部分の広がりの把握に努めた。遺物は、出土位置と層位を記録した。実質調査面積は4,000㎡、対象面積の5.8％である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

調査対象範囲が南北に細長い(第47図参照)ため、層序は地域によって若干の違いがある。以下に地域を大きく4分し、各地域の層序をまとめた。

a　北側……Ⅰ層：灰黄褐色土(耕作土)15～20㎝、Ⅱ層：褐色土10㎝、Ⅲ層：オリーブ黒色土60㎝、Ⅳ層：灰色土(地山土)。Ⅱ層は部分的に存在する砂質層で全く粘性がない。耕作土の真下であることから人為的に盛られたものである可能性が高い。Ⅲ層が古代～中世の遺物包含層であり、遺構確認はⅣ層上面で行った。

b　中央(1)……Ⅰ層：灰黄褐色土(耕作土)10～15㎝、Ⅱ層：オリーブ黒色土10㎝、Ⅲ層：黄灰色土10㎝、Ⅳ層：暗緑灰色土(地山土)。この層序がもっとも標準的なもので、遺構確認はⅣ層上面(地山土)で行った。遺物包含層はⅢ・Ⅳ層であり、縄文時代～中世の遺物を出土した。

c　中央(2)……Ⅰ層：にぶい黄褐色土(耕作土)30㎝、Ⅱ層：褐色土10～30㎝、Ⅲ層：暗緑灰色土(地山土)。ここはやや標高が高い地域であり、地山土までが浅く、水はけもよいためか唯一畑地として利用されていた。Ⅰ・Ⅱ層が古代の遺物包含層であり、遺構確認面はⅢ層上面である。また、Ⅱ層の確認できない地域もある。

d　南側……Ⅰ層：灰黄褐色土(耕作土)10～15㎝、Ⅱ層：オリーブ黒色土230㎝、Ⅲ層：暗緑灰色

土(地山土)。Ⅱ層が約2ｍと厚く、水田になる直前まで低湿地であったようである。遺物はⅡ層より出土しているが、かなり浅い部分からである。

②検出遺構と出土遺物

「谷地中」の地名からも推測される通り、調査範囲の大半はかつて低湿地であった部分で地形もかなりうねりがあったと思われる。これを水田として開拓したものがほとんどで、昭和30年頃の区画整備等で水田となった部分も含まれ、調査区南側の地域がこれにあたる。遺物はこの南側地域を除くほぼ全域より出土し、縄文時代～中世に至る幅広い年代にわたっている。

遺構は標高のやや高い畑地部分でのみ検出した。この地域は全体で唯一褐色の地山粘土層が確認されている地域であり、周囲の地山土の状況・確認された遺構の状況から、この面が耕作によって削平を受けており、Ⅱ層の確認できなかった周辺地域は完全に削り取られている部分と考えられ、包含層は失われていると判断した。検出した遺構は古代の竪穴住居跡、柱穴、溝跡等で、いずれも確認面までは浅く、土師器、須恵器等が供伴している。

遺物はこの他に水田部分で縄文時代晩期の土器、珠洲系陶器、古銭、磁器等が出土しているが、埋土の状況・遺物が各層位に混在している状況から、低湿地へ流れ込んだものと思われ、またここでは遺構も検出されなかった。

8　所見

①遺跡の種類

奈良～平安時代の集落跡の遺跡である。

②遺跡の範囲と工事区域

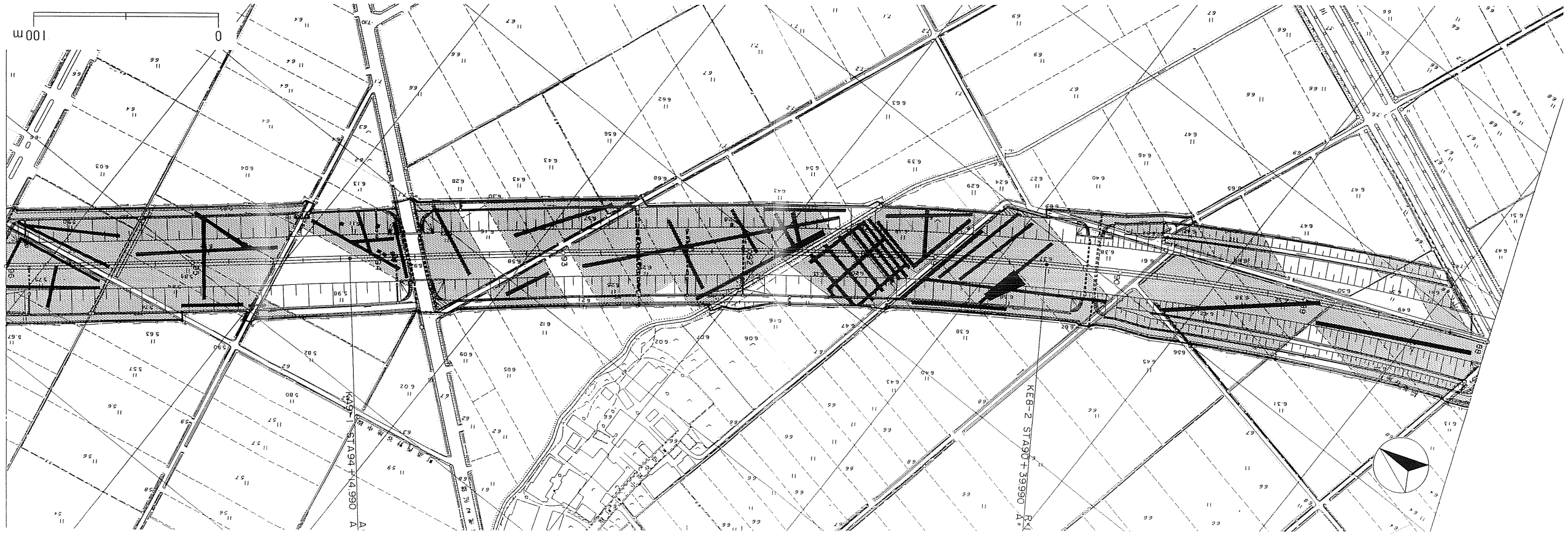
遺跡の範囲は、黒泥土の厚く堆積している旧低湿地部分を除き、地山層の残る可能性の高い標高6ｍ以上の北西側地域(谷地中集落を含む)へ広がると判断される。このうち工事区域内における遺跡の範囲は、標高6.1m以上の畑地部分と考えられる。

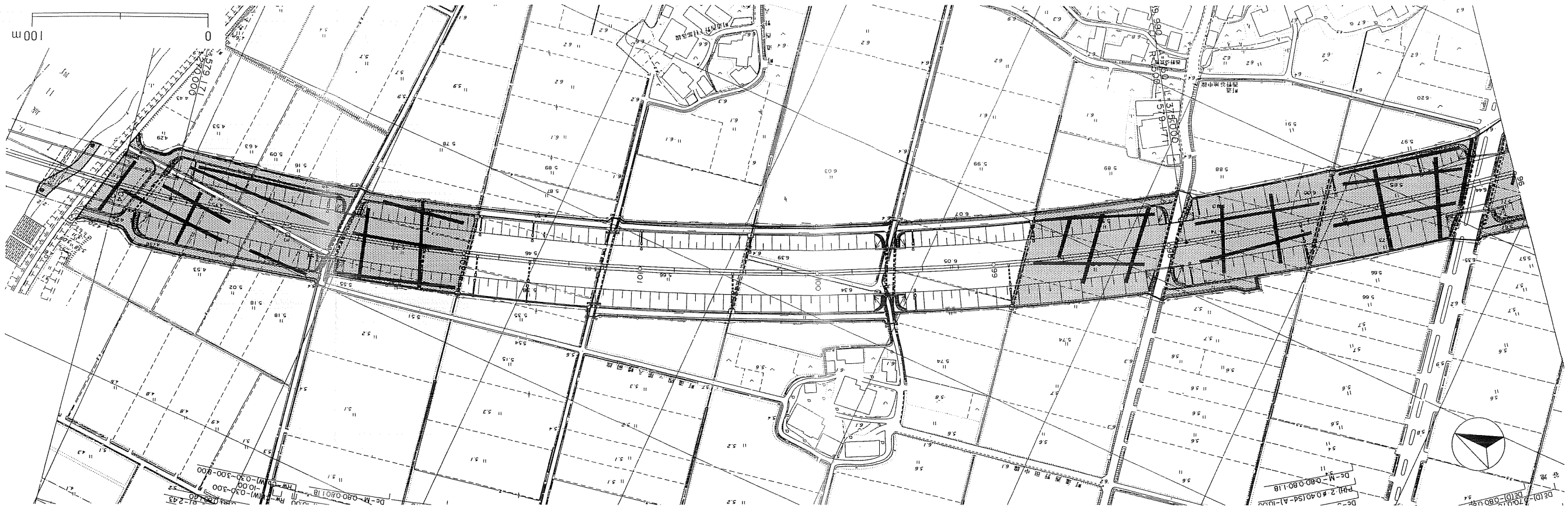
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

奈良時代の竪穴住居跡や溝跡、柱穴を含む土坑など、40～50基が検出されると判断される。遺物は奈良～平安時代の土師器・須恵器・木製品等が、整理箱で20箱ほどと考えられる。

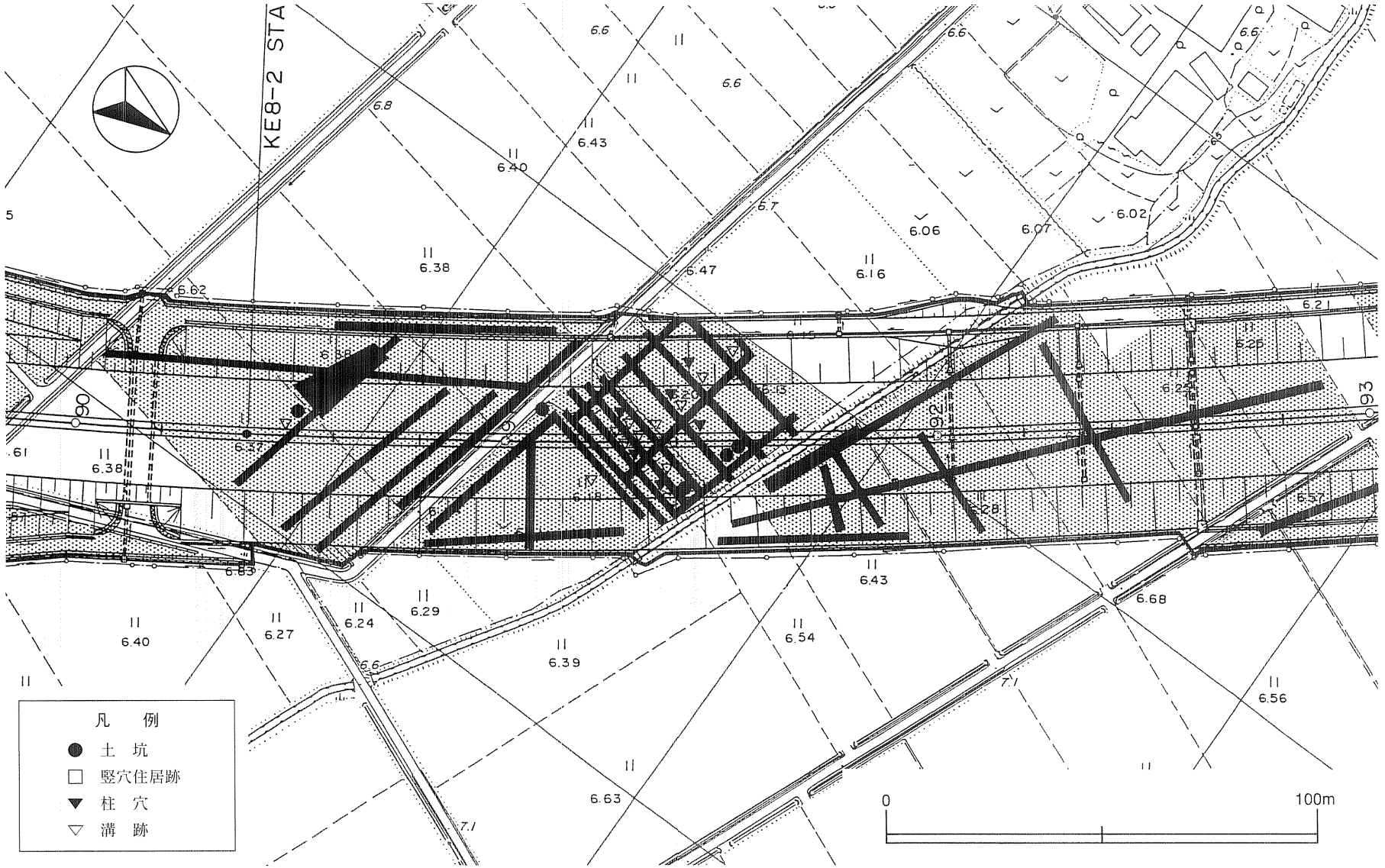
9　その他

工事区域内遺跡面積8,100㎡には、今回の調査結果から発掘調査に必要な7,100㎡と、未買収のため、調査できなかった北西側水田部分1,000㎡を含む。

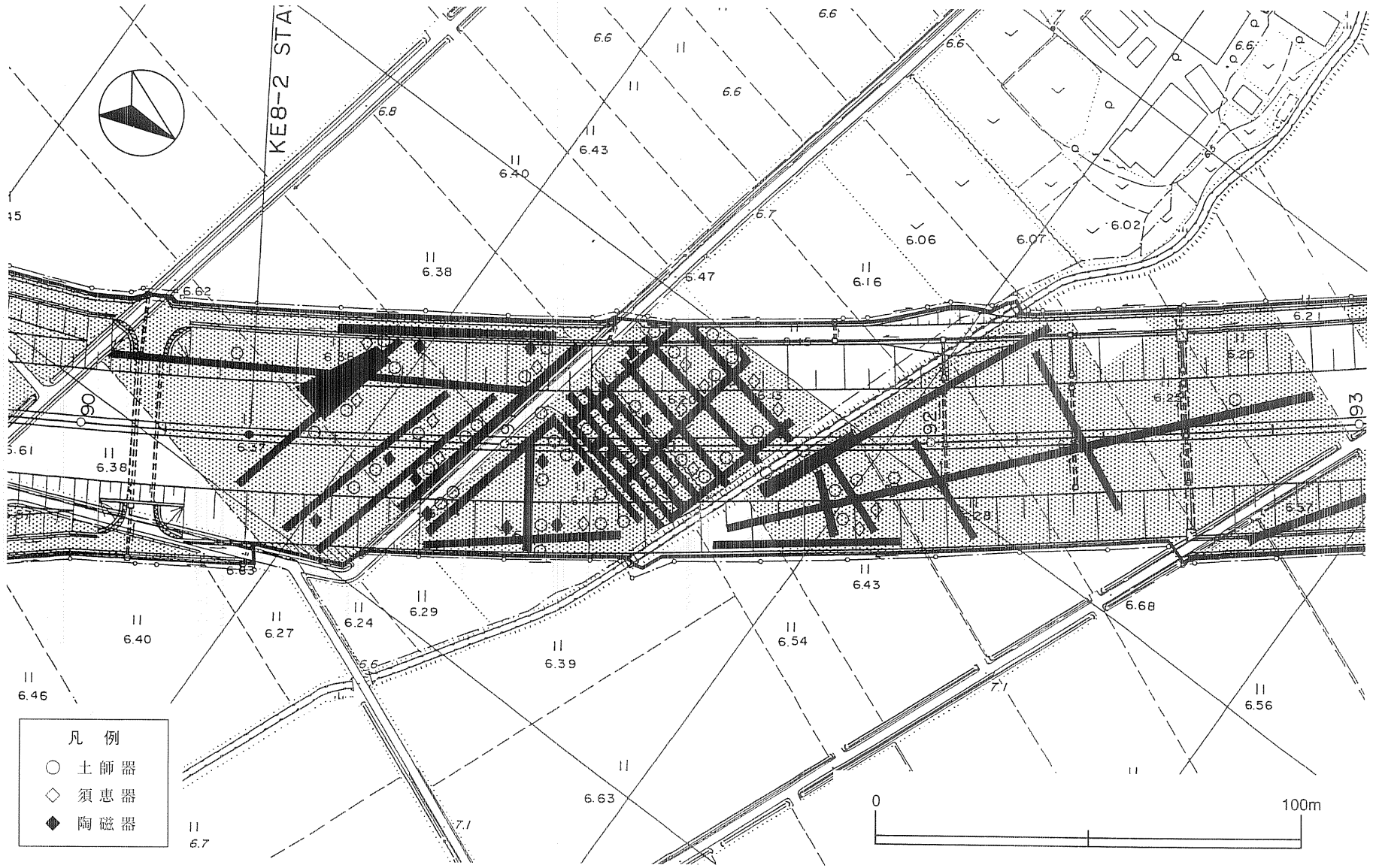




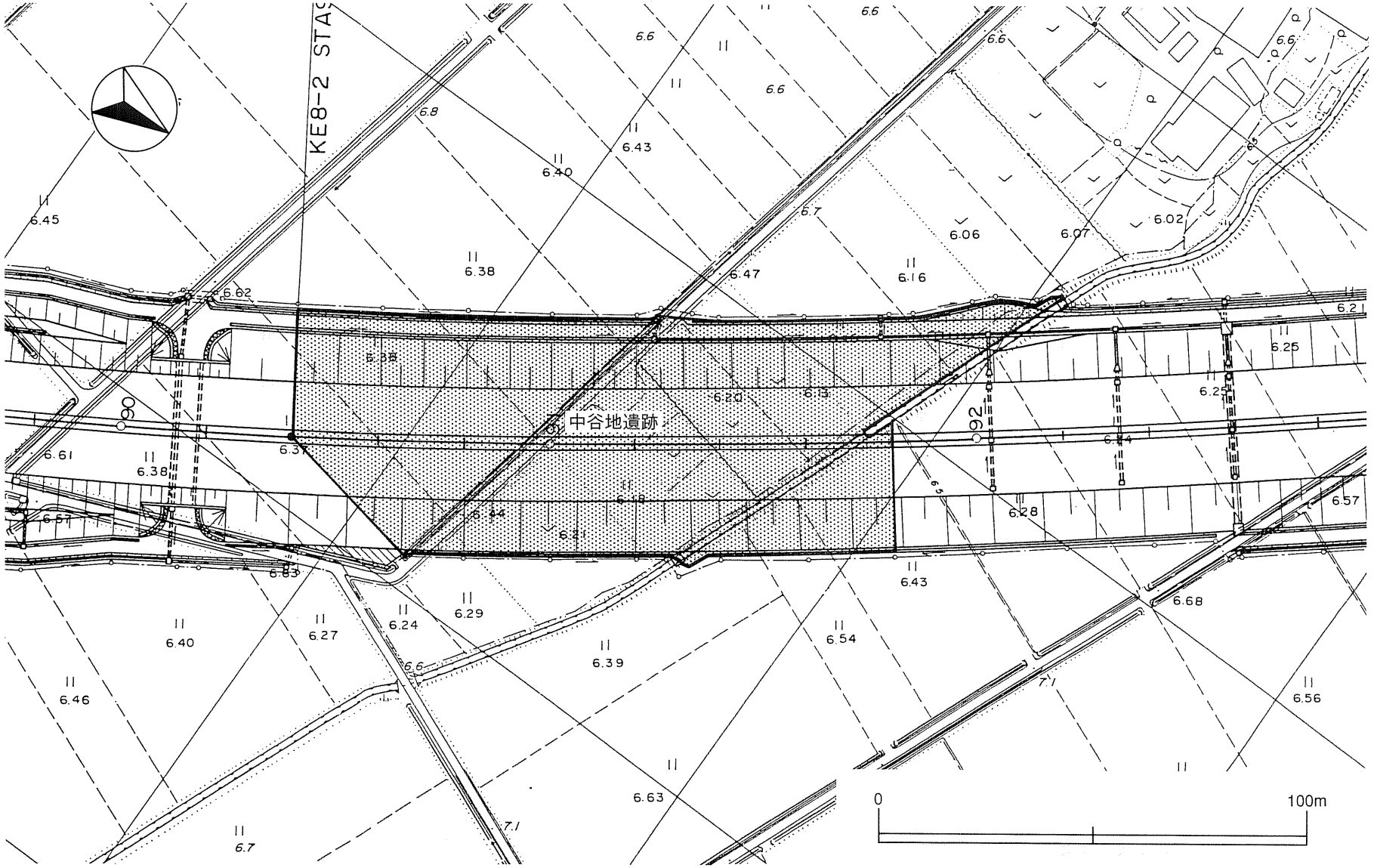
第47図　中谷地遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図



第48図　中谷地遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第49図　中谷地遺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）



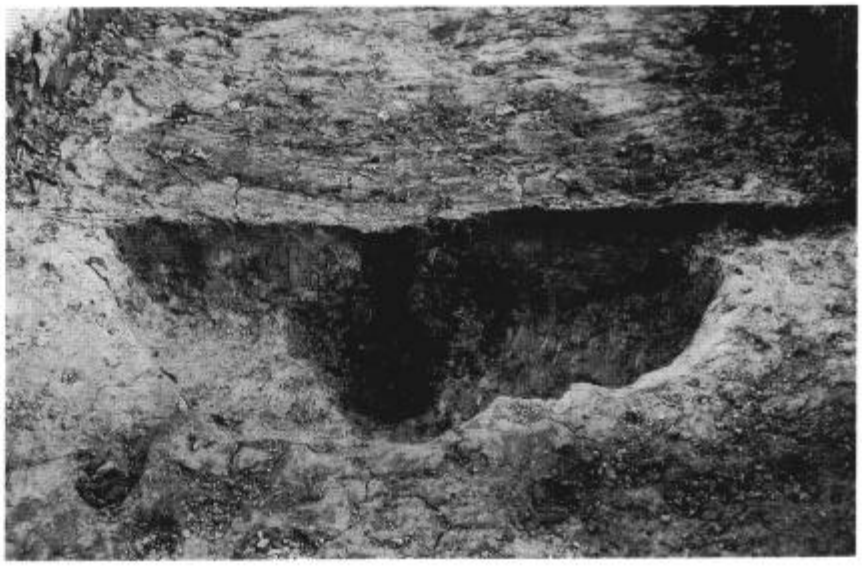
第50図　中谷地遺跡範囲図

中谷地遺跡
遺跡遠景（南から）

中谷地遺跡
作業風景

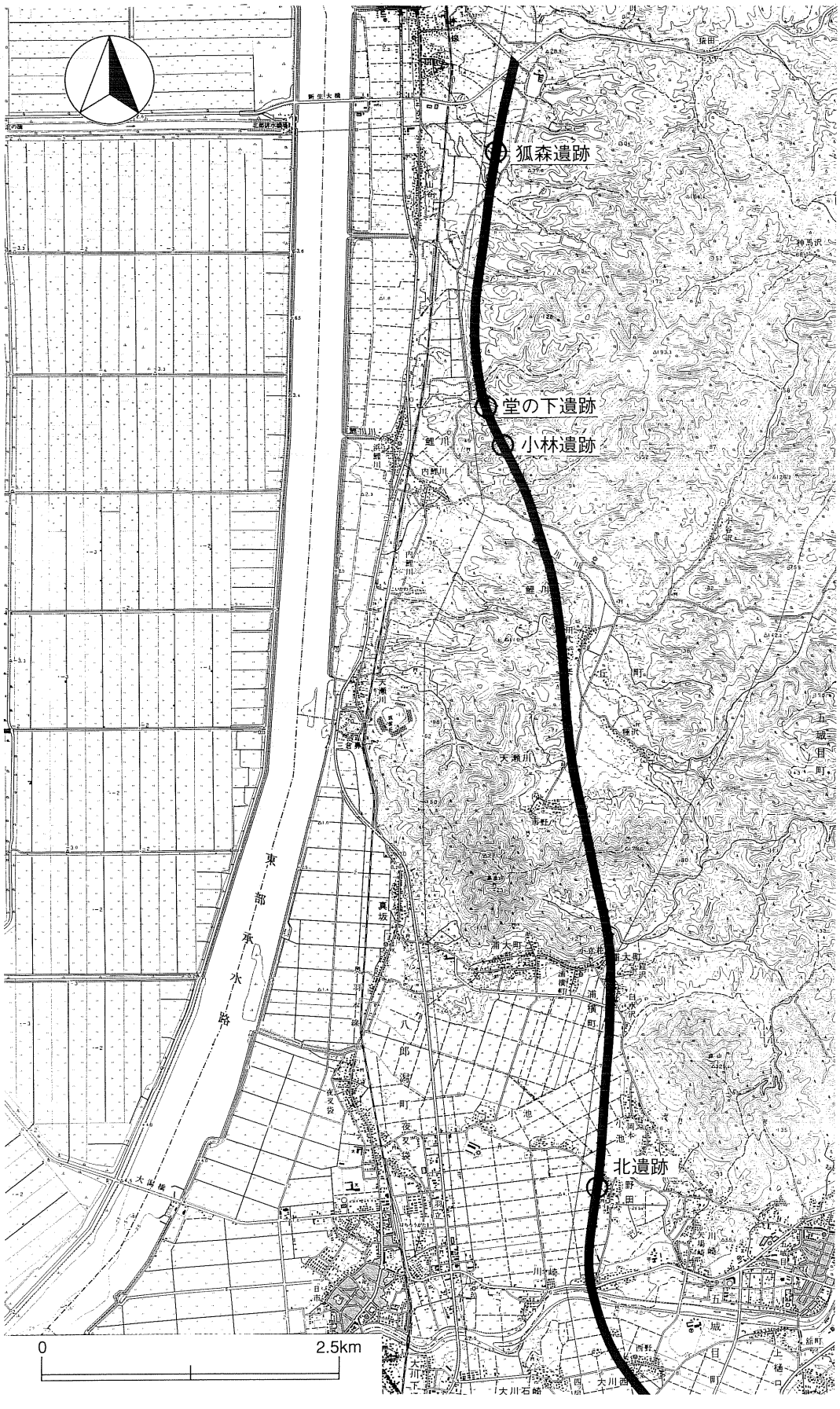
中谷地遺跡
精査状況

中谷地遺跡
土坑検出状況
（西から）



中谷地遺跡
柱材の残る土坑
（半截状況）

中谷地遺跡
須恵器出土状況



第 51 図　日本海沿岸東北自動車道秋田琴丘線内遺跡位置図（琴丘工事区）

（5）北遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県南秋田郡五城目町野田字北38外

2　範囲確認調査期間　　平成10年5月11日～5月15日

3　範囲確認調査対象面積　　9,500㎡

4　工事区域内遺跡面積　　2,500㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、ＪＲ奥羽線八郎潟駅から東北東に約1.7㎞、北緯39°56′58″、東経140°6′5″に位置する。

遺跡のある五城目町は、東側に太平山地を望み、西側の湖東平野に展けた町である。町の中央部には東から西に郡内最大の馬場目川が流れ、それに注ぐ大小の河川によって肥沃な沖積地が形成されている。町内の集落は、この河川沿いと太平山地の裾野に点在し、遺跡のある野田集落も西北部の沖積地にあり、東には湖東部の秀峰森山(325m)がそびえている。遺跡の標高は約5ｍで、馬場目川右岸から約1㎞北側に立地している。なお遺跡から約2㎞南の馬場目川左岸には古代の石崎遺跡がある。

②現況

水田と一部が畑地である。

6　範囲確認調査の方法

調査対象範囲内の工事用中心杭に沿って南北のトレンチ(幅1m)を設け、さらにこれに直交する東西トレンチを設定して調査を行った。また、不明確な落ち込みなどについては、その時代・性格を明らかにするため拡張した箇所もある。確認した遺構については、位置と規模などを記録するとともに可能な限り掘り込み面の把握に努めた。遺物については、出土位置と層位を記録した。実質調査面積は605㎡で、対象面積の6.5%である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡の基本層序は、畑部分ではⅠ層(耕作土:暗褐色土10YR3/3)、Ⅱ層(地山:にぶい黄褐色土10YR4/4)である。Ⅰ層は厚さ20㎝で、摩滅した土師器・須恵器が出土し、Ⅱ層で遺構の確認をした。遺構内の覆土は炭化物・焼土粒を含む黒褐色系の土である。畑部分では本来土師器・須恵器の包含層が存在していたが、畑造成によって包含層は削平されたものと考えられる。

水田部分の1～4トレンチを設定した地域では、Ⅰ層(耕作土:黄褐色土10YR4/3)、Ⅱ層(暗青灰色粘土5B4/1)である。Ⅰ層は厚さ20㎝ほどで、遺物は含まれない。Ⅱ層は遺構の確認面であるが、トレンチ壁面の土層観察から、遺構の掘り込み面は現在のⅡ層面よりも上位にあったものの、水田造成時に遺構上面が削平を受けたことがわかった。また5・6トレンチの地域では、遺構・遺物とも検出されず、Ⅱ層の暗青灰色粘土層が厚さ2m以上にも堆積しており、間層には葦などの堆積層があることからこの地域は河川跡もしくは湿地であったことがわかる。

②検出遺構と出土遺物

遺構は畑部分では方形の竪穴住居跡、円形の土坑の他に柱穴を検出した。水田では1～4トレンチを設定した地域から、木組みの井戸跡、円形の便所跡、円形の土坑を検出した。特に便所跡からは籌

木のほか、ウリ・ブドウ属・シソの種子も見つかっている。これらの遺構は出土土器から平安時代(9世紀)と考えられる。

遺物も畑部分と遺構のある水田から出土しており、平安時代(9世紀)の須恵器(甕・杯)、土師器(甕・杯)の他に僅かではあるが鉄滓が出土している。

8　所見

①遺跡の種類

平安時代の集落跡である。

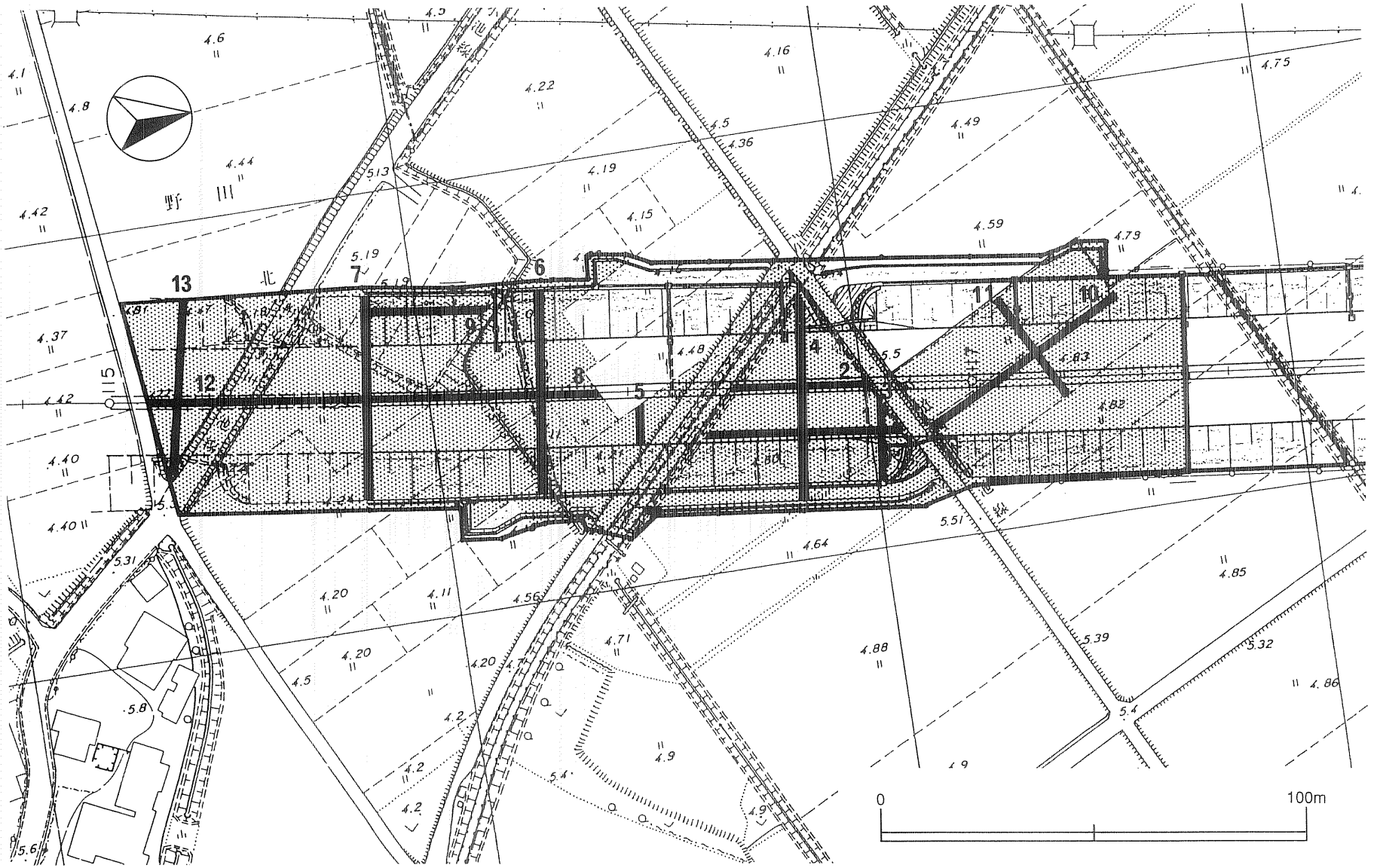
②遺跡の範囲と工事区域

遺跡は、森山の裾野から西側の標高5m以上の水田部分に広がるものと判断される。そのうち工事区域内における遺跡範囲は遺跡全体の西端部と考えられる。

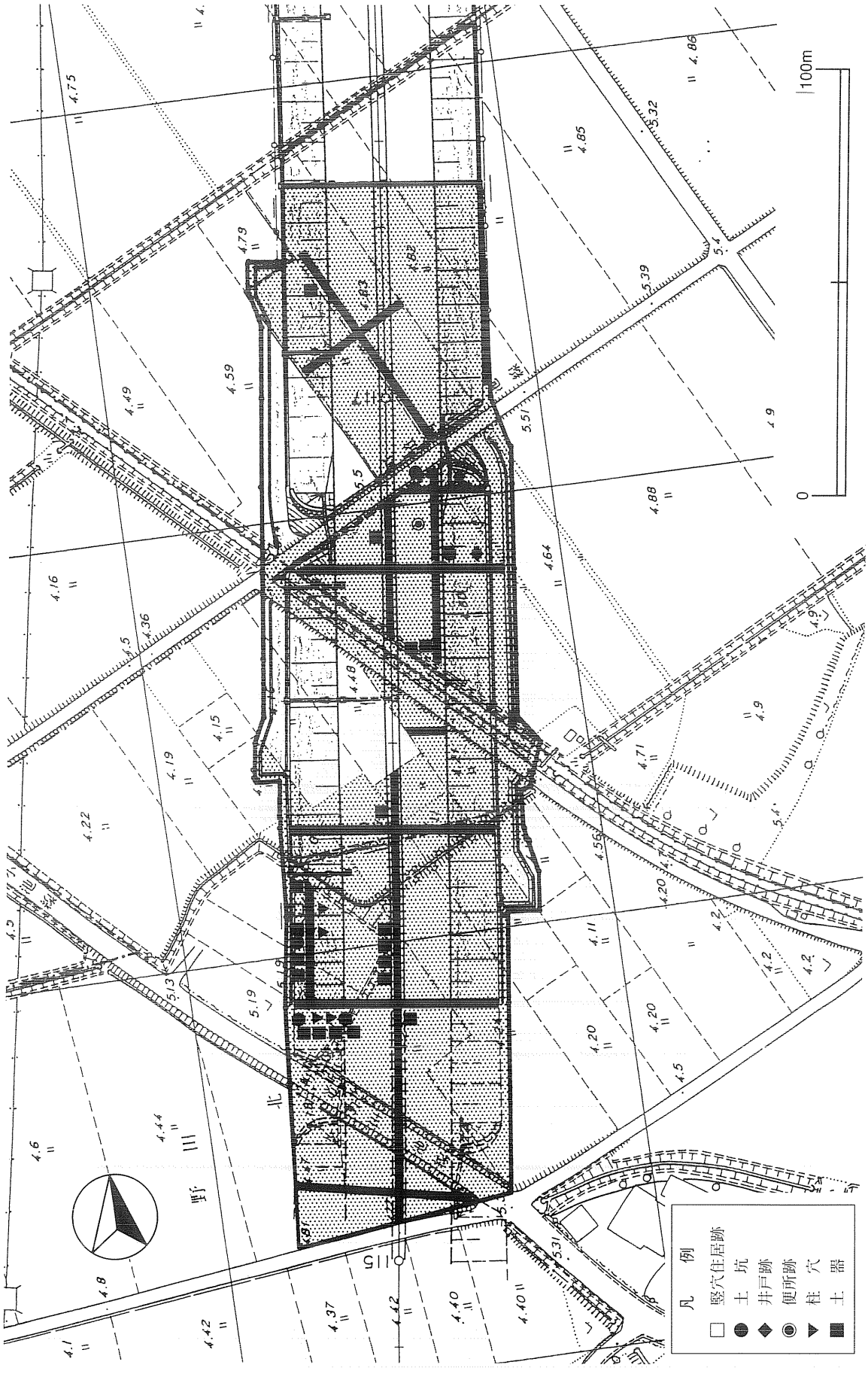
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

平安時代の竪穴住居跡、井戸跡、便所跡、土坑など30基ほどが検出されるものと判断される。

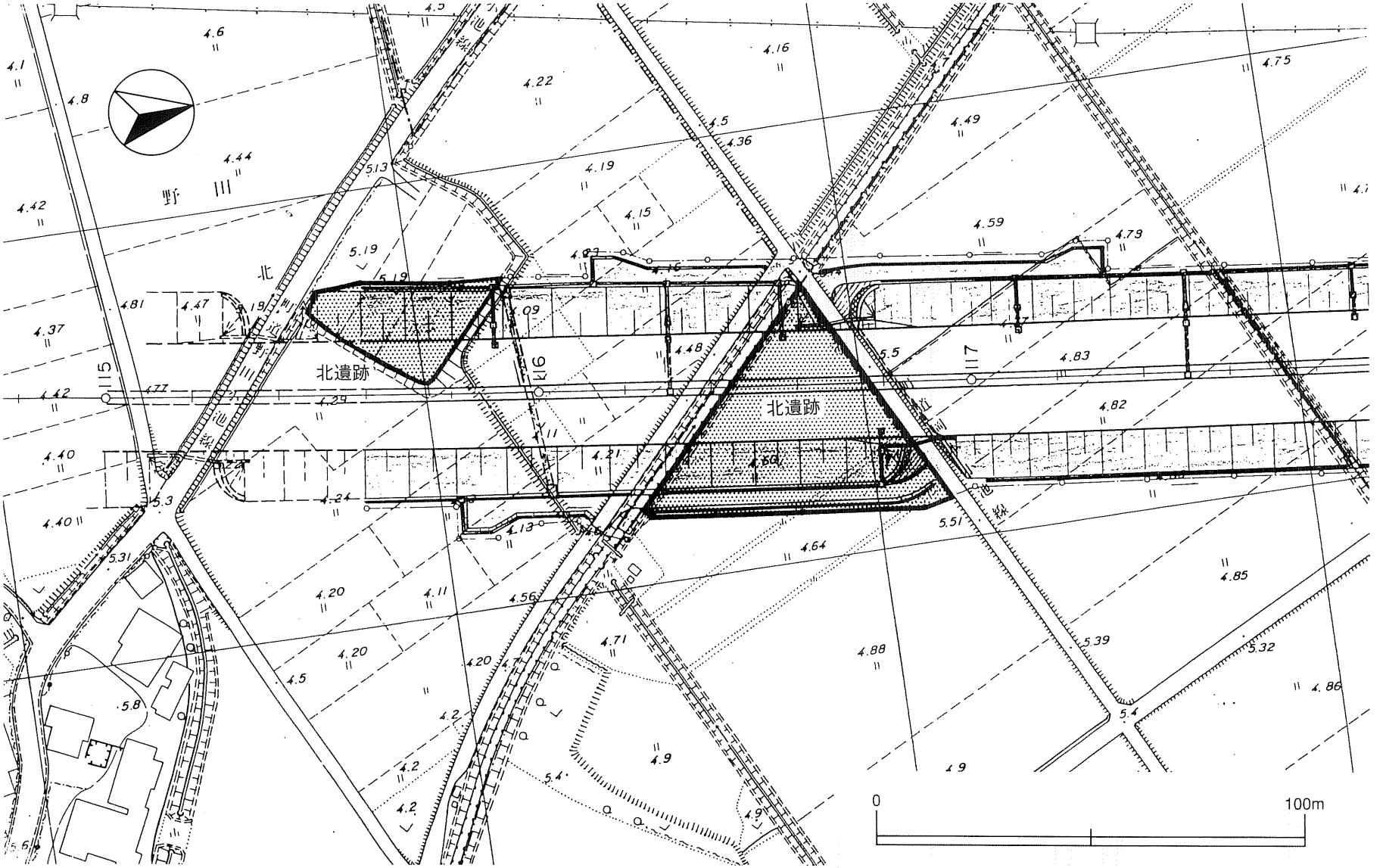
遺物は当該期の須恵器・土師器が整理箱で30箱の他、井戸跡や便所跡からは木製品や植物遺体の出土が予想される。



第52図　北遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図



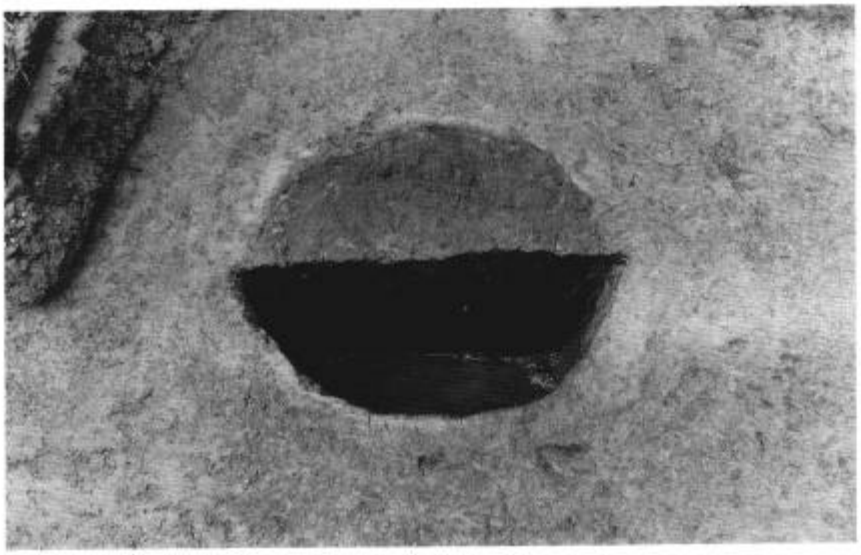
第 53 図　北遺跡範囲確認調査結果図



第54図　北遺跡範囲図

北遺跡
遺構検出状況
（南から）

北遺跡
井戸跡検出状況
（南から）



北遺跡
便所跡の半截
（東から）

（6）小林（こばやし）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡琴丘町鯉川字小林39外

2　範囲確認調査期間　　平成10年10月19日～11月7日

3　範囲確認調査対象面積　　18,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　14,300㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、ＪＲ奥羽線鯉川駅から北東に約2㎞、北緯40°00′12″、東経140°5′33″に位置する。

遺跡のある琴丘町は、西側の八郎潟残存湖である東部承水路と東側の房住山山地に挟まれた南北に狭小な平野部からなる。遺跡は、この房住山山地に連なる鹿渡丘陵地南西端の標高40～65ｍの緩斜面に立地している。鹿渡丘陵地には大小の開析谷が枝状に発達しているが、遺跡の北側も大きな沢によって、堂の下遺跡が立地する丘陵と画されている。また、遺跡南側は西流する鯉川川によって開析され、水田面との比高40ｍほどの急崖となっている。

調査対象範囲は、南側から北側に向かって緩く高度を減ずる平坦面と南北の斜面からなる。

②現況

山林である。伐採は終わっているが、灌木が生い茂っていた。範囲確認調査対象区の中央部を東西に山道が通っている。

6　範囲確認調査の方法

調査は地形等を考慮し、等高線に直交するようにトレンチを設け、さらにこれに交差するトレンチを設定した。トレンチの幅は1ｍないし2ｍとしたが、一部は遺構の広がりを確認するために拡張した。また、南北の二つの沢については、地山面の把握のため数カ所の深掘りを入れた。確認した遺構については、可能な限り掘り込み面の把握に努め、位置・規模などを記録した。遺物については、出土位置と層位を確認した。

範囲確認調査における試掘面積は1,520㎡で範囲確認調査対象面積の8.4％にあたる。

7　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡の基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層	黒褐色土(7.5YR3/2)	表土	20㎝～40㎝
Ⅱ層	黒褐色土(10YR3/2)	遺物包含層	10㎝～20㎝
Ⅲ層	暗褐色土(7.5YR3/3)	遺物包含層及び遺構確認面	10㎝～30㎝
Ⅳ層	褐色土(7.5YR4/4)	漸移層及び遺構確認面	5㎝～15㎝
Ⅴ層	明褐色土(7.5YR5/6)	地山及び遺構確認面	

Ⅱ層は中央平坦部のみに存在し、堅くしまっていて土師器・鉄滓が多く出土する。Ⅲ層でも遺物は出土するがⅡ層ほどではない。遺構は主にⅢ層中で確認したが、一部はⅣ層上面で確認された遺構もある。

南側裾野部ではⅡ層の遺物包含層がなくなり、Ⅲ層も南側に行くに従って薄くなって南端部では見られなくなる。したがって、遺構確認面はⅣ層及びⅤ層となる。

北側尾根部ではⅡ層Ⅲ層がなくなり、Ⅴ層の地山面が露頭している部分もある。

南北の沢の深掘り部分では、Ⅰ層：黒褐色土(表土、50cm～80cm)、Ⅱ層：黒褐色土(15cm～20cm)、Ⅲ層：暗褐色土(20cm～50cm)、Ⅳ層：黒褐色土(20cm～50cm)、Ⅴ層：褐色土(地山層)となる。流れ込みと考えられるが、Ⅱ層Ⅲ層が逆転している場合もある。北側沢最深部の坪掘り地点ではⅢ層暗褐色土の下に炭化物層がみられ、遺構が確認されている。

②検出遺構と出土遺物

検出した遺構は平安時代の竪穴住居跡8軒、土坑36基、焼土遺構21基、溝跡3条、柱穴多数である。中央平坦部の南西側で、竪穴住居跡の切り合いを確認した。また、中央平坦部で竪穴住居跡の立ち上がりを確認し、遺構内に焼土と土坑を検出した。その竪穴住居跡からはフイゴの羽口が出土している。中央平坦部の西側から、焼土遺構の隣に、かまど遺構と思われる焼けた石と粘土、土師器杯の伏せた状態のものが検出された。また、北側尾根部の土坑は、確認した埋土に径1cm～2cmの炭化物と焼土が多く混入していた。

遺物は土師器、鉄滓を中心に須恵器、石器、土製品を出土した。土師器は杯が多く出土し、回転糸切痕のある杯、高台付の内黒土器も出土した。鉄滓は焼土遺構の付近から、椀形滓が出土した。また、中央平坦部の竪穴住居跡から横瓶の胴部が出土した。石器は、砥石・石匙・剥片が出土している。土製品は、フイゴの羽口・土錘である。

北側沢部分の最深部を約130cm掘り下げたところで炭化物の層を確認し、その中から土師器1点、須恵器1点が出土した。また、その上部の坪掘り地点では約170cm掘り下げたところから椀形滓が出土した。

南側裾野部分の南端尾根部分、南側沢部分、北側斜面部分からは遺構は検出されなかった。

8　所見

①遺跡の種類

平安時代の鍛冶関連の集落跡である。

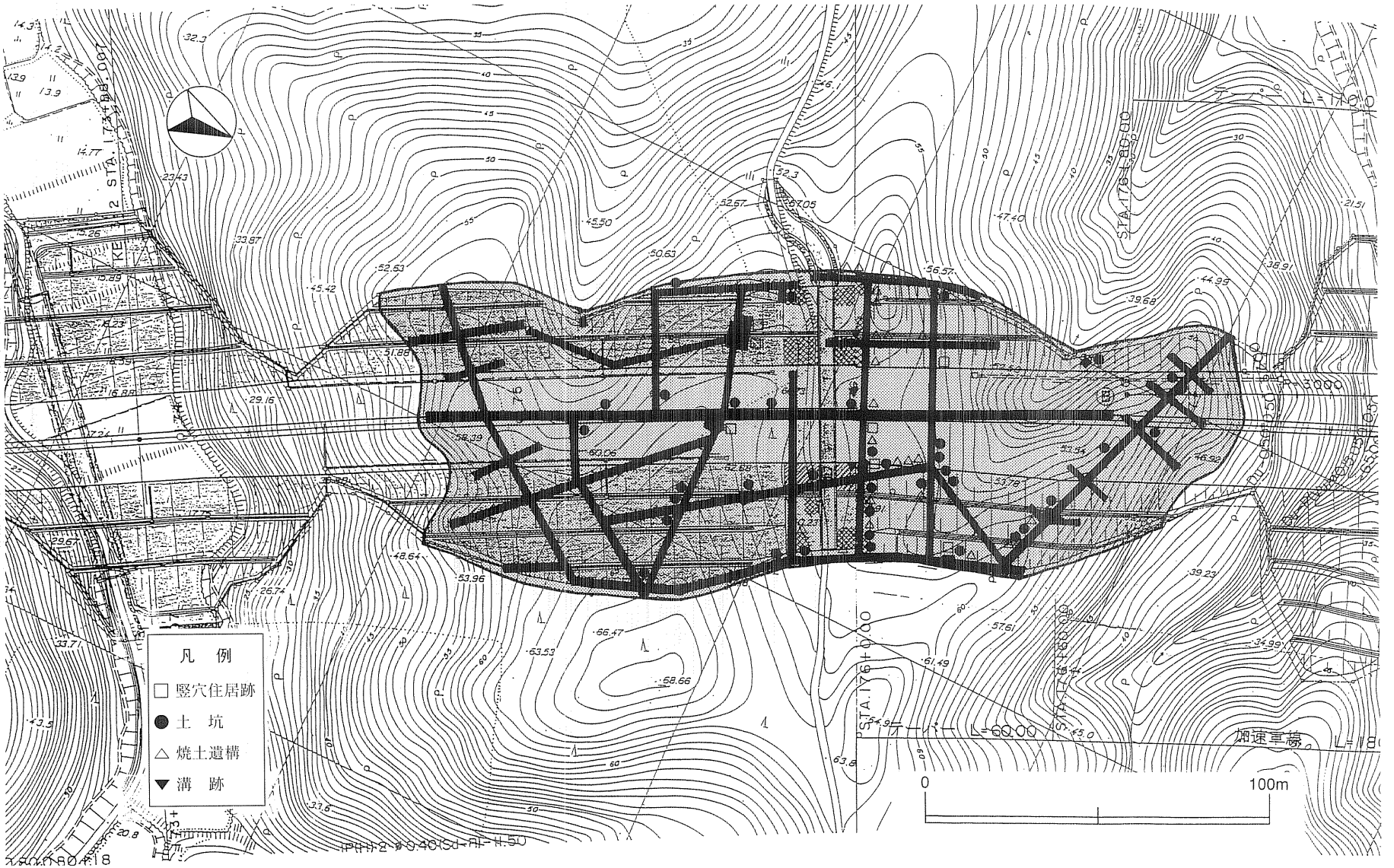
②遺跡の範囲と工事区域

遺跡の範囲は東側の平坦部に広がり、西側は急斜面を除く標高50m以上の範囲と判断できる。このうち工事区域内における遺跡範囲は、遺跡全体の中央部と考えられる。

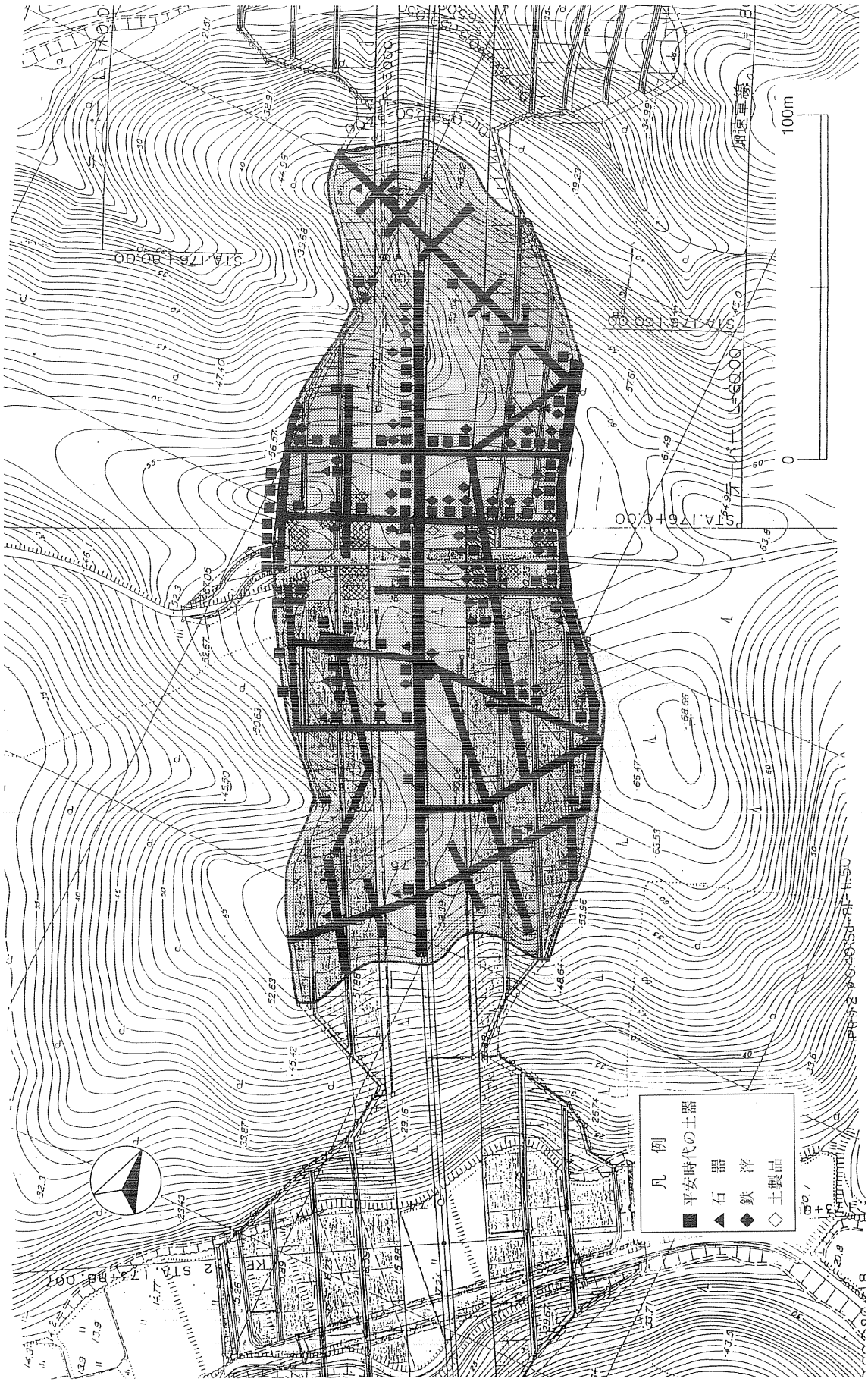
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶関連遺構、それに伴う土坑、溝跡等の検出が予想される。

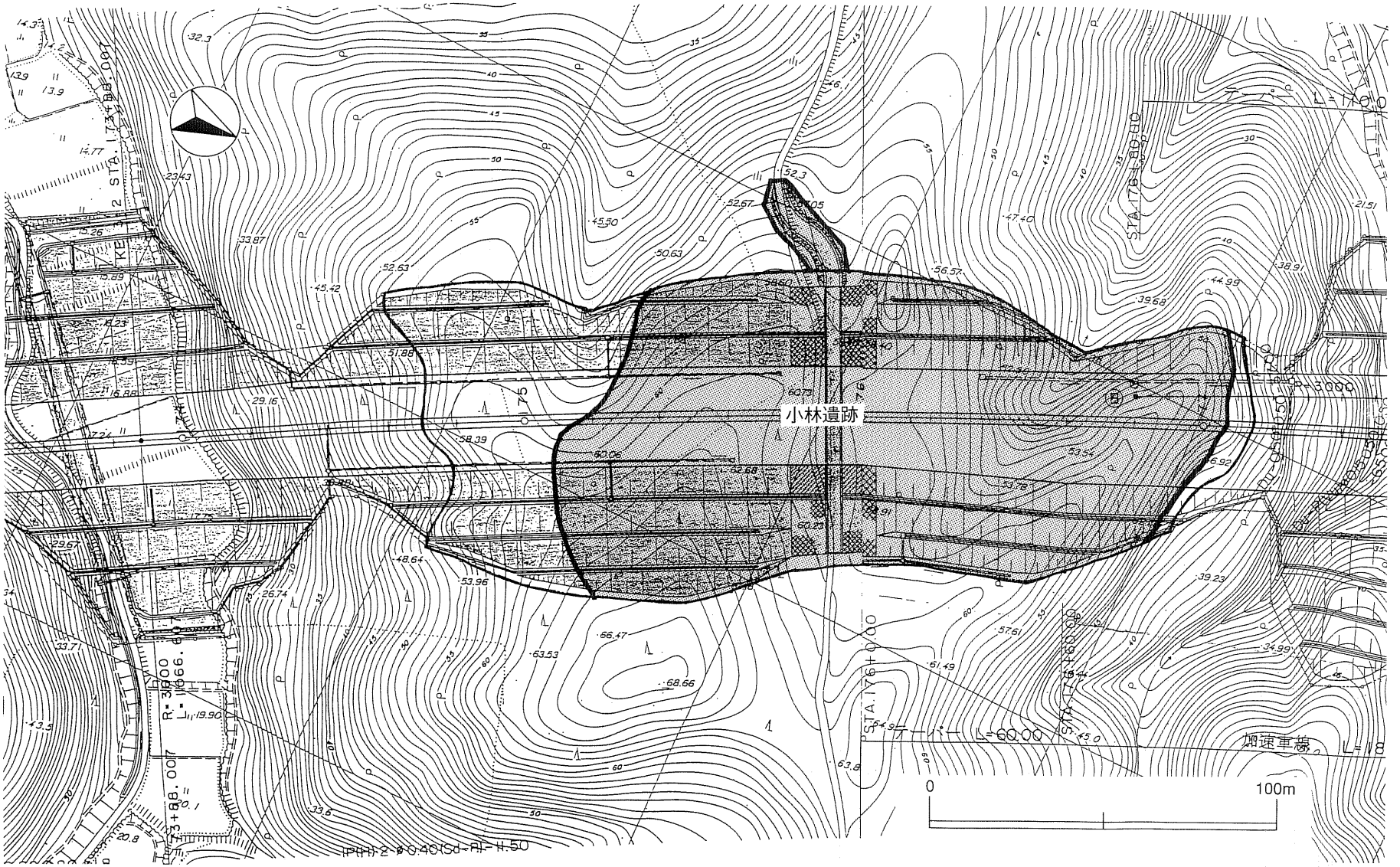
遺物は中央の平坦部の包含層から、平安時代の土師器、須恵器、土製品、鉄滓が多量に出土すると予想され、北側沢部分からも土師器、鉄滓の出土が見込まれる。



第55図　小林遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第 56 図　小林遺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）



第 57 図　小林遺跡範囲図

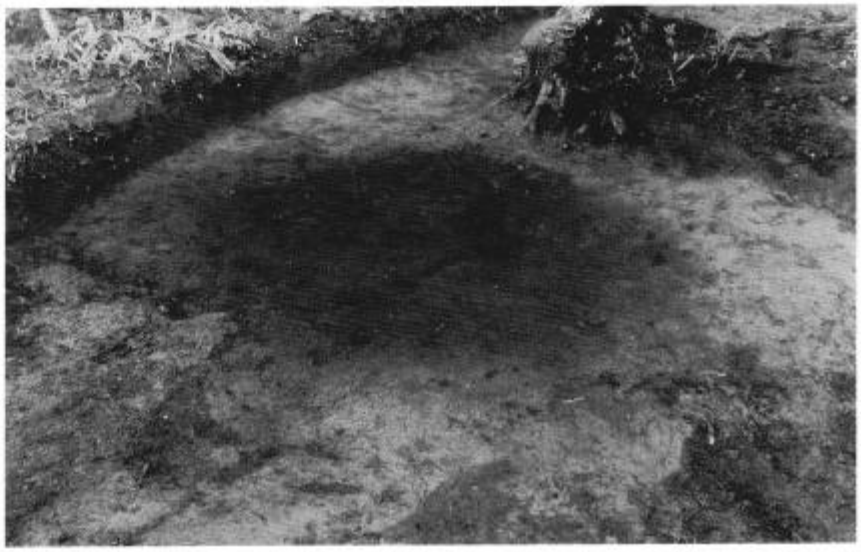
小林遺跡
調査状況（東から）

小林遺跡
竪穴住居跡検出状況
（南から）

小林遺跡
竪穴住居内
土坑検出状況（西から）

小林遺跡
フイゴの羽口出土状況
（西から）

小林遺跡
遺物出土状況（西から）



小林遺跡
土坑検出状況（西から）

（７）堂の下遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県山本郡琴丘町鯉川字堂の下 72 外

２　範囲確認調査期間　　平成 10 年５月 18 日～６月 12 日

３　範囲確認調査対象面積　　63,600㎡

４　工事区域内遺跡面積　　55,000㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、ＪＲ奥羽線鯉川駅から北東に約２㎞、北緯 40°00′32″、東経 140°5′34″に位置する。

遺跡のある琴丘町は、西側の八郎潟残存湖である東部承水路と東側の房住山山地に挟まれた南北に狭小な平野部からなる。遺跡は、この房住山山地に連なる鹿渡丘陵地の標高 30～68ｍの西端部に立地している。鹿渡丘陵地には大小の開析谷が枝状に発達しており、遺跡内と遺跡の南北に入り込む沢によって、丘陵先端は南北に二分されて舌状に張り出している。遺跡南側の丘陵には、平安時代の製鉄遺構を伴う集落遺跡の小林遺跡がある。

なお調査対象範囲はサービスエリア予定地である。

②現況

杉を主体とする山林であったが、全て伐採済みである。

６　範囲確認調査の方法

調査は、西側に張り出す丘陵平坦部に東西の基本トレンチを設け、これに直交する南北トレンチを斜面にかけて設定した。また東側平坦部では、等高線に直交するトレンチを設定して行った。表土除去は全て重機で行い、遺構については位置と規模を記載するとともに、可能な限り掘り込み面の把握に務めた。遺物については、出土位置と層位を記録した。実質調査面積は 3,350㎡で、対象面積の 5.3％である。

７　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡の基本的な層序は、Ⅰ層黒褐色土(表土:7.5YR3/2)、Ⅱ層暗褐色土(10YR4/3)、Ⅲ層褐色土(地山:7.5YR4/4)である。北側の丘陵平坦部では、Ⅰ層が 20㎝、Ⅱ層が 10㎝ほどの厚さで、遺構はⅡ層上面とⅢ層上面で確認している。遺物は、Ⅱ層から縄文土器細片と石器剥片がわずかに出土している。

南側の丘陵平坦部では地山までの深さが、Ⅰ層 30㎝、Ⅱ層 20㎝で、場所によっては暗褐色土の漸移層が 5～10㎝の厚さで堆積しており、遺構はⅡ層と漸移層及びⅢ層上面で確認できる。遺物は丘陵の東西両端から、縄文土器・石器がⅡ層～漸移層にかけて出土している。

②検出遺構と出土遺物

遺構は炭焼成遺構と溝跡、土坑、竪穴状遺構の他に柱穴を検出している。炭焼成遺構は平面形が３×1.5ｍ前後の長方形で、北側丘陵の北部平坦面と、南側丘陵の中央平坦面に比較的集中している。土坑は直径１～２ｍの円形のものがほとんどで、南側丘陵の東側で多く検出した。溝跡は北側丘陵東側の南向き斜面で、等高線に直交するように２条並列しており、一方南側丘陵の南北斜面では、等高線に平行して平坦部を取り囲むように存在している。なお、東側の斜面では伐採木搬出の際に削平さ

れた部分を中心に、広範囲に鉄滓の散布が認められ、２カ所で製鉄炉跡と考えられる焼土や鉄滓の広がりを確認した。

これら遺構の年代は、伴う遺物がなく明らかではないが、確認面から近世かそれ以前と考えられる。

遺物は、東側斜面にある多量の鉄滓の他に、縄文時代中期から後期の土器と石器剥片が南側丘陵から出土している。

８　所見

①遺跡の種類

遺跡は、丘陵全域に見られる砂鉄層を利用した近世以前の製鉄関連遺跡で、これに縄文時代中期～後期の小規模な集落が営まれた複合遺跡である。

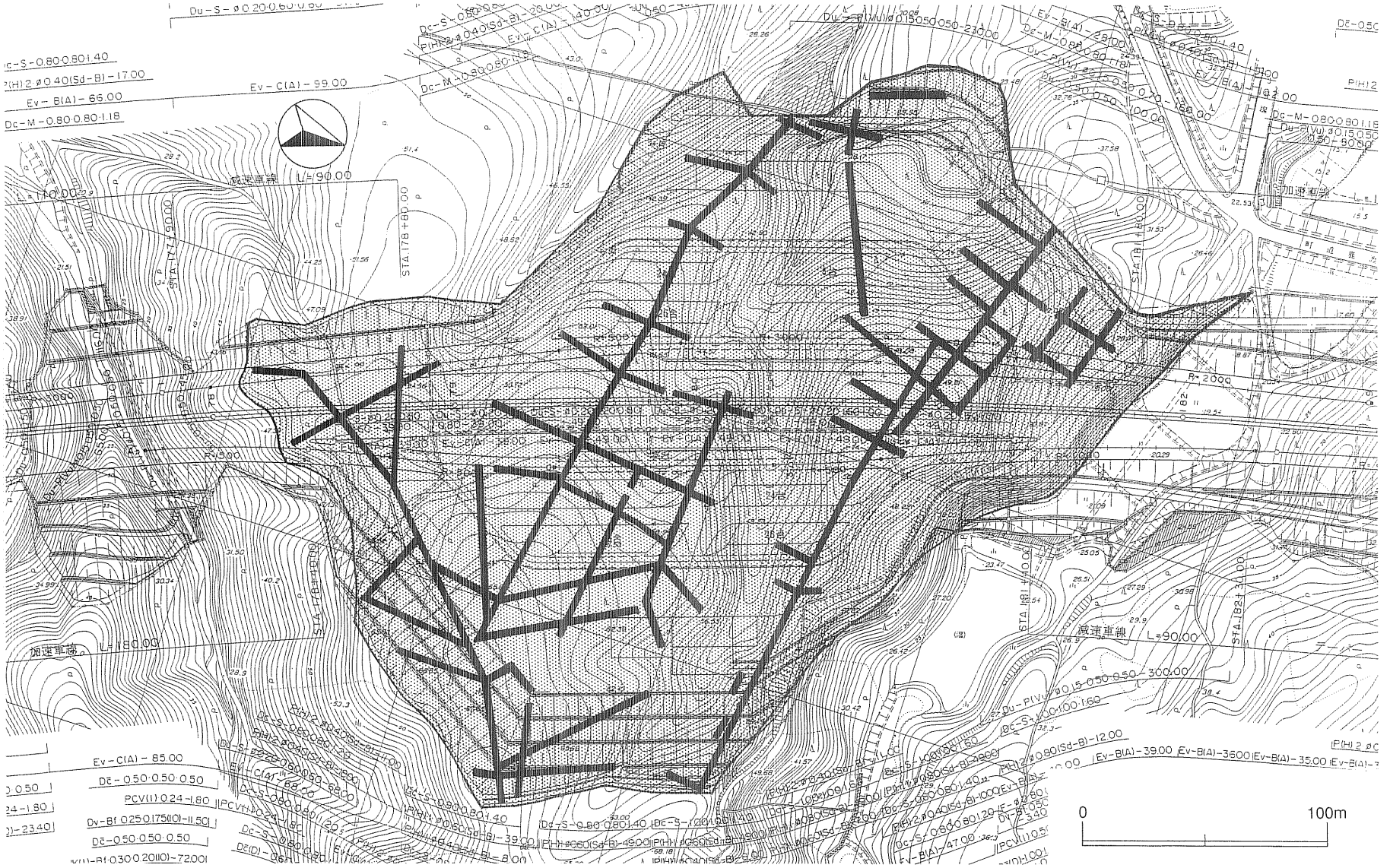
②遺跡の範囲と工事区域

遺跡は、北側斜面を除くほぼ全域と考えられる。

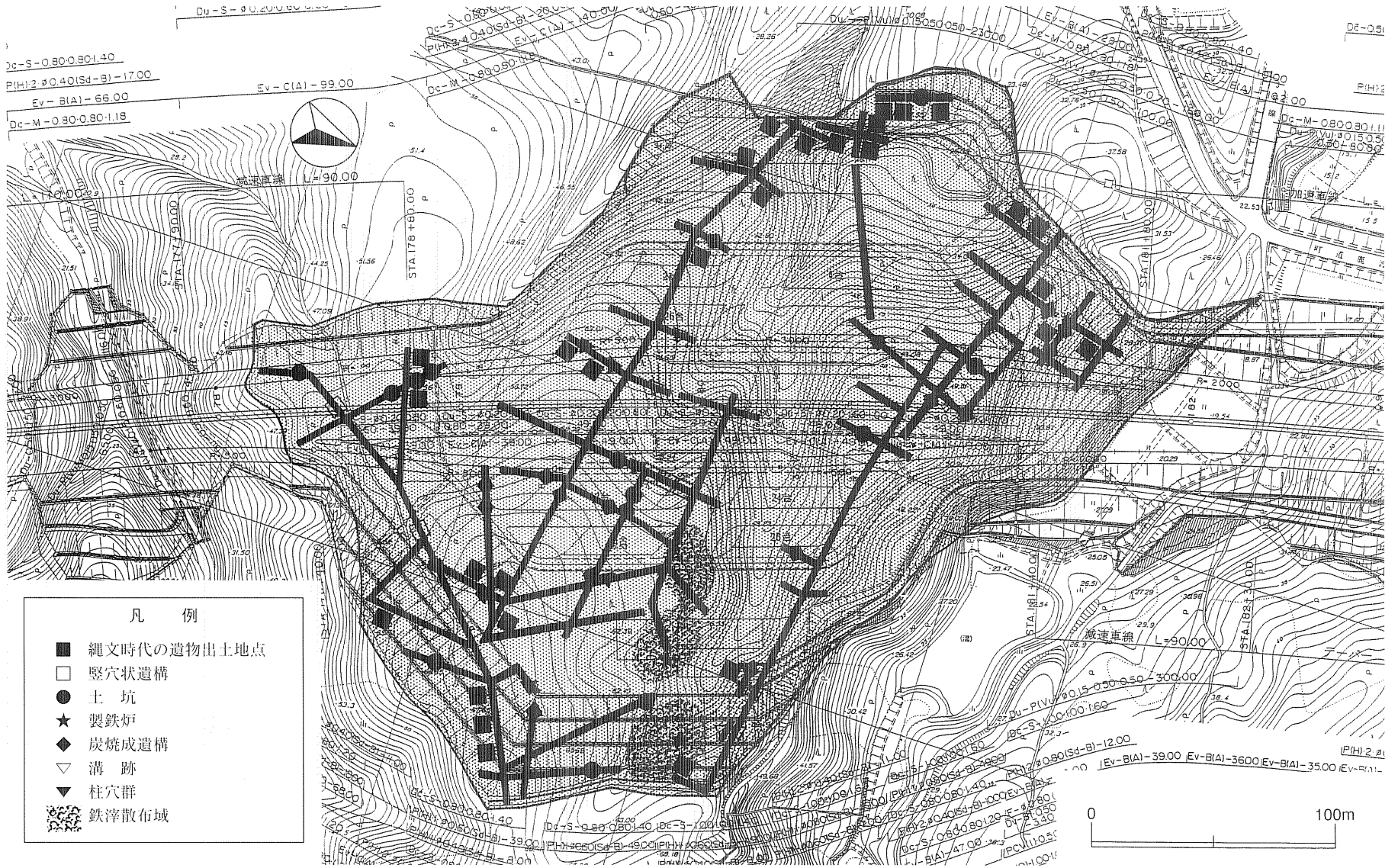
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、近世以前の製鉄炉や炭焼成遺構が多数検出されるものと判断される。特に廃滓場と考えられる東側沢頭を囲む斜面には多数の製鉄炉の存在が考えられる。

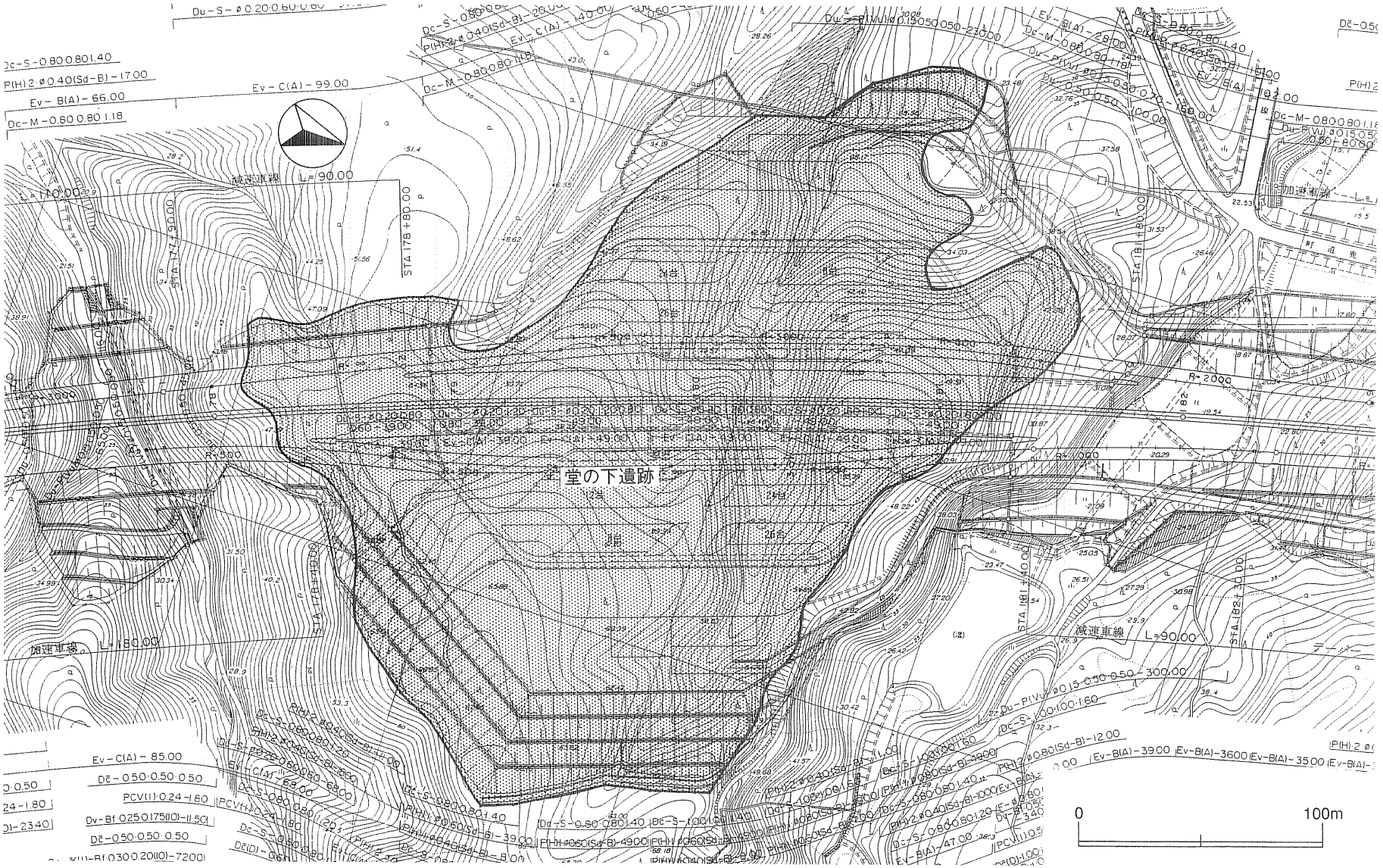
遺物は多量の鉄滓と、縄文時代の土器・石器の出土が予想される。



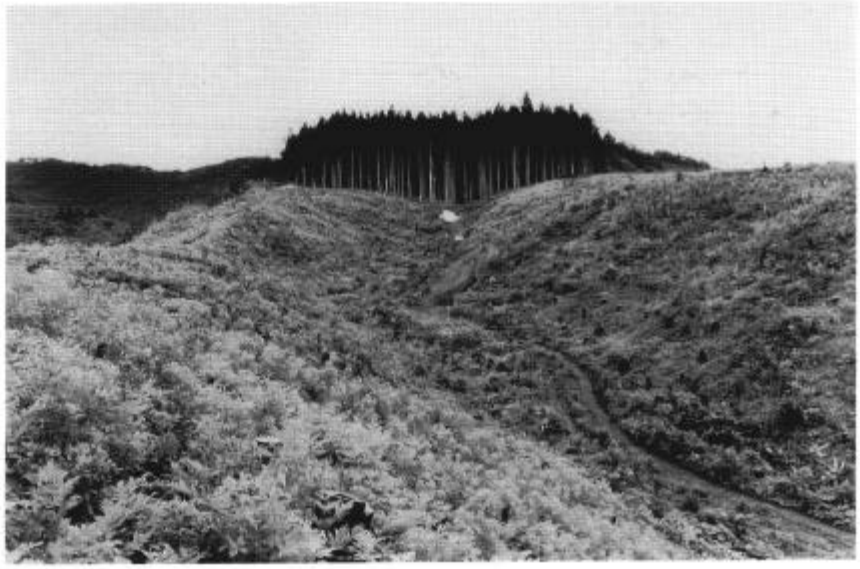
第58図　堂の下遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図



第59図　堂の下遺跡範囲確認調査結果図

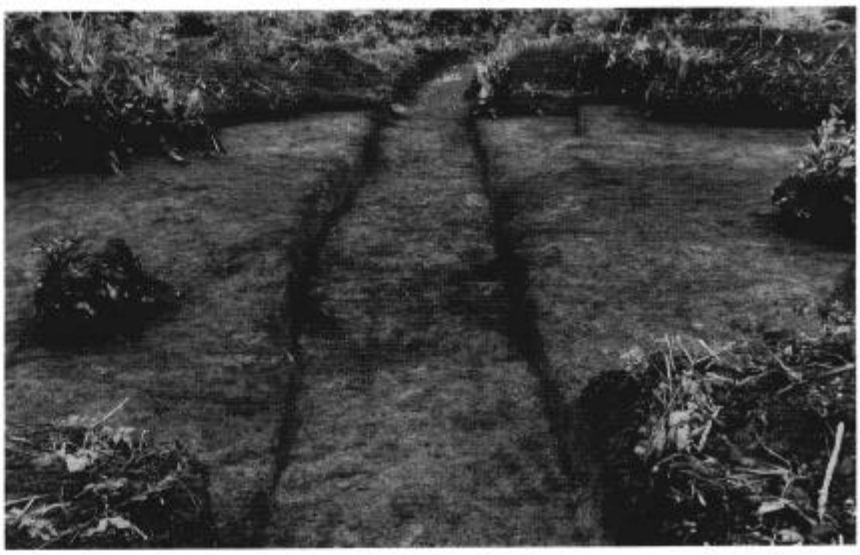


第60図　堂の下遺跡範囲図



堂の下遺跡
現況（西から）

堂の下遺跡
北側尾根（東から）



堂の下遺跡
炭焼成遺構検出状況
（東から）

堂の下遺跡
竪穴状遺構検出状況
（東から）

堂の下遺跡
鉄滓の確認状況
（東から）

堂の下遺跡
製鉄炉（東から）

（8）狐森（きつねもり）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡琴丘町字狐森37外

2　範囲確認調査期間　　平成10年8月4日～8月22日

3　範囲確認調査対象面積　　12,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　9,400㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡のある琴丘町は八郎潟残存湖に面し、出羽丘陵の北西辺に位置する。平野部は八郎潟残存湖に沿って南北方向に広がるが、狭小で、町の面積の殆どを丘陵・山地が占める。丘陵の末端部には舌状台地が発達し、これらの地形を利用して造られた堤が多くみられる。

狐森遺跡はＪＲ鹿渡駅から南南東約1.7㎞のところに位置する。遺跡は南東－北西方向に延びる舌状台地上に立地し、調査対象区域内の標高は13～17ｍほどである。南側にある水田を挟んで約150ｍ離れた台地上には兵ヶ沢遺跡が立地する。

②現況

以前は杉林であったが、現在は伐採済みである。

6　範囲確認調査の方法

調査対象範囲内の工事用中心杭に直交する形で20ｍおきにトレンチ（幅１ｍ）を設け、必要に応じてこれらを結ぶトレンチを増設した。調査区南側の緩斜面については、等高線に直交する形で４本のトレンチを設けた。以上の他にトレンチを拡幅するなどして遺跡の広がりや、遺構の性格の把握に努めた。遺物に関しては、出土位置と層位を記録した。実質調査面積は700㎡で、対象面積の5.8％である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡内の層序は場所によって異なる。南側の緩斜面と５～９トレンチ間では遺物包含層が残存するが、10トレンチ以北では地山面まで及ぶ削平により遺物包含層は失われている。

南側の緩斜面では、Ⅰ層黒褐色土（表土、30㎝）、Ⅱ層黄褐色土（遺物包含層、45㎝）、Ⅲ層黒褐色土（遺物包含層、30㎝）、Ⅳ層暗褐色土（漸移層、10㎝）、Ⅴ層黄褐色土（地山）の層序である。このうちⅡ・Ⅲ層は縄文時代前期の遺物包含層で、特にⅢ層上面からの出土が顕著である。Ⅱ層はⅤ層の地山土に由来し、炭化物や焼土塊が混在する。

調査区中央部の７トレンチ付近では、Ⅰ層黒褐色土（表土、10㎝）、Ⅱ層黒褐色土（遺物包含層、40㎝）、Ⅲ層暗褐色土（漸移層、10㎝）、Ⅳ層黄褐色土（地山）の層序で、Ⅱ層が縄文時代前期の遺物包含層である。Ⅱ層は南側緩斜面のⅢ層に相当するとみられるが遺物の包含量は南側よりも多くない。遺構はⅢ～Ⅳ層にて確認できる。

10トレンチ以北では、Ⅰ層黒褐色土（表土、20～30㎝）の下は地山となる。

調査区北～北東側の水田部分では基盤整備、耕作等の影響によりⅠ層黒褐色土（耕作土）、Ⅱ層黄褐色土（地山）か、あるいはⅠ層黒褐色土（耕作土）、Ⅱ層黄褐色土＋黒褐色土（盛土）、Ⅲ層黄褐色土（地山）の層序となり、遺構・遺物は検出されなかった。

②検出遺構と出土遺物

遺構では土坑６基、柱穴６基、溝跡３条、土器埋設遺構１基を検出した。

遺物は調査区北端～北東部を除くほぼ全域から出土しているが、南側の緩斜面、調査区中央部６～７トレンチ付近の２ケ所からの出土量が多い。特に南側の緩斜面ではトレンチの掘り下げが困難なほど多くの遺物が出土した。遺物では土器が多く、その殆どが縄文時代前期中葉のものである。石器は石鏃、石槍、石匙、石箆、半円状扁平打製石器、石錘、円盤状石製品などが多く出土した。

８　所見

①遺跡の種類

縄文時代前期中葉の捨て場を伴う集落跡である。

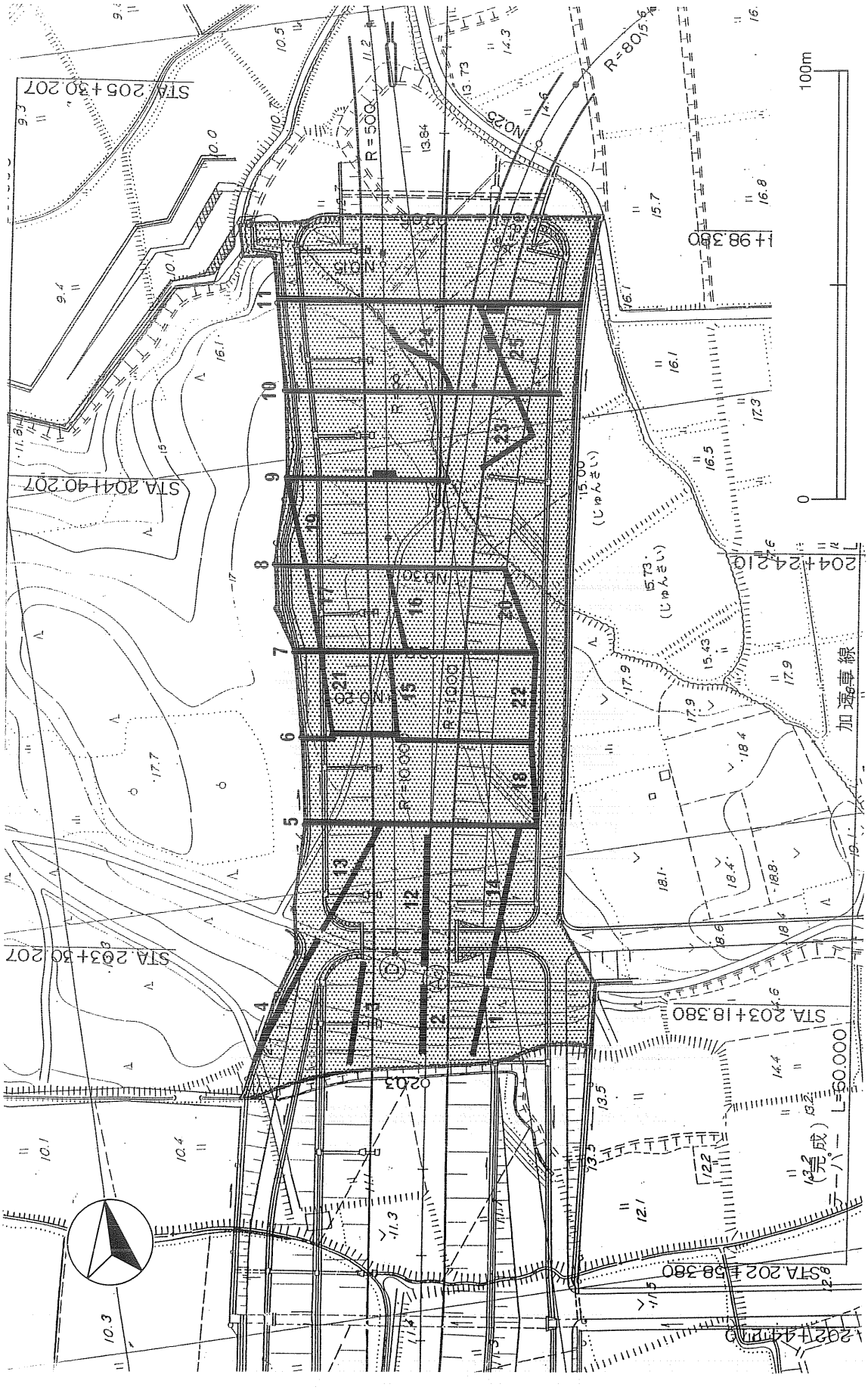
②遺跡の範囲と工事区域

遺跡の範囲は舌状台地の西側先端部から東側の森林部分に至る舌状台地全体と考えられる。このうち工事区域は南東から北西方向に延びる台地を南北に縦断することになる。なお、工事区域の北端部分については削平の深度が大きく遺構・遺物も検出されなかったため遺跡範囲からは除外した。

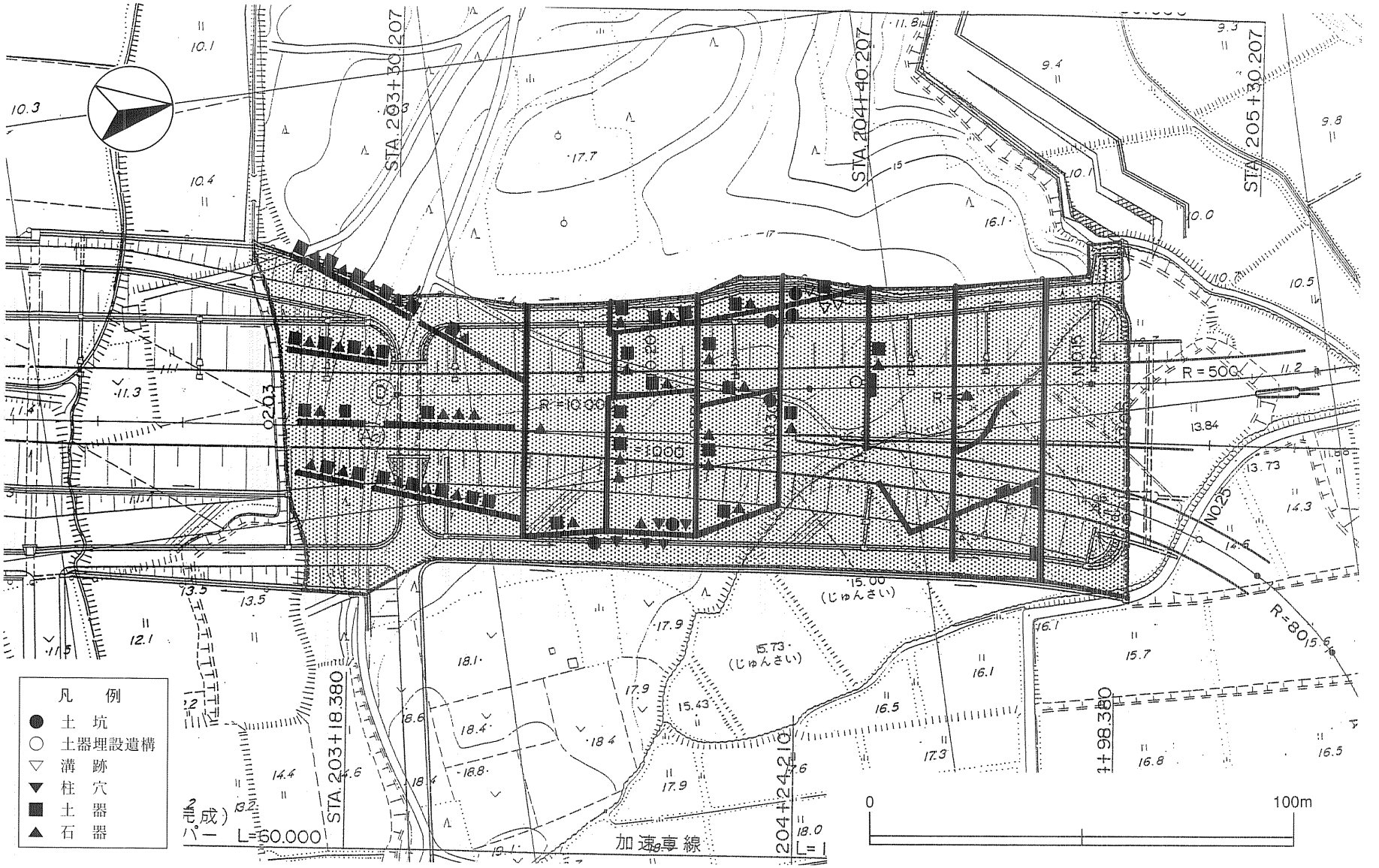
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

調査によって検出が予想される遺構は縄文時代前期中葉の竪穴住居跡、土坑などが考えられる。また、南側の緩斜面では広範囲にわたる捨て場の存在が予想される。

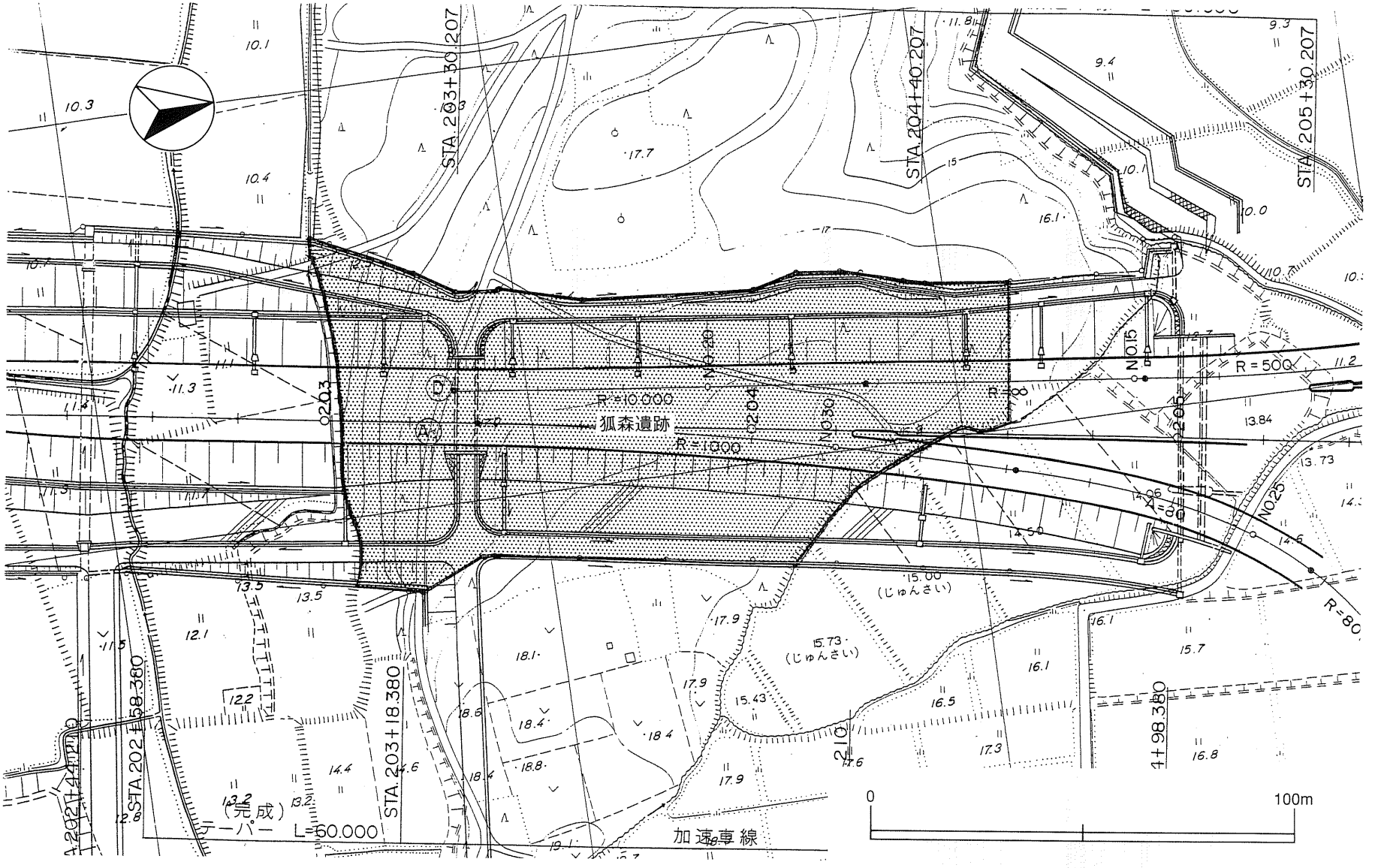
遺物は遺構と同様に縄文時代前期中葉の土器・石器が出土すると考えられ、特に捨て場部分からは土器を中心とした多量の遺物が出土することが予想される。



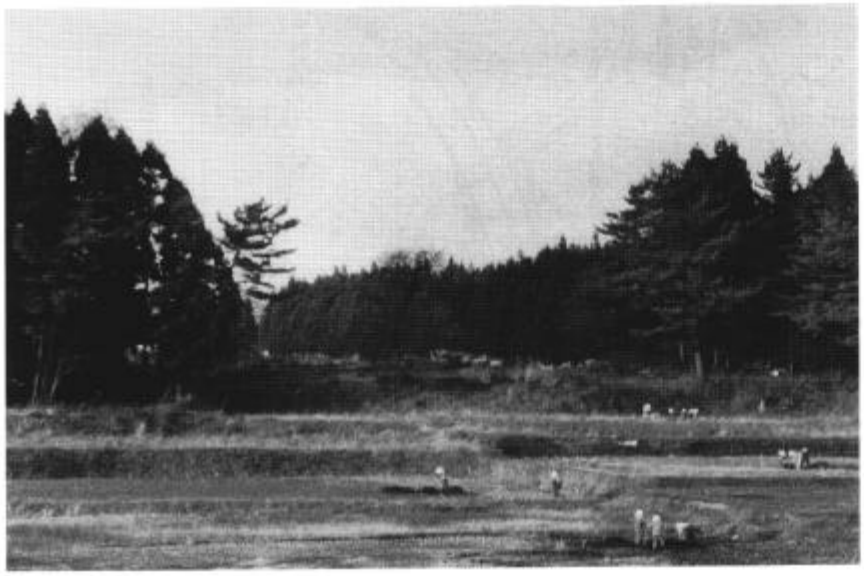
第 61 図　狐森遺跡範囲確認調査対象範囲とトレンチ位置図



第62図　狐森遺跡範囲確認調査結果図

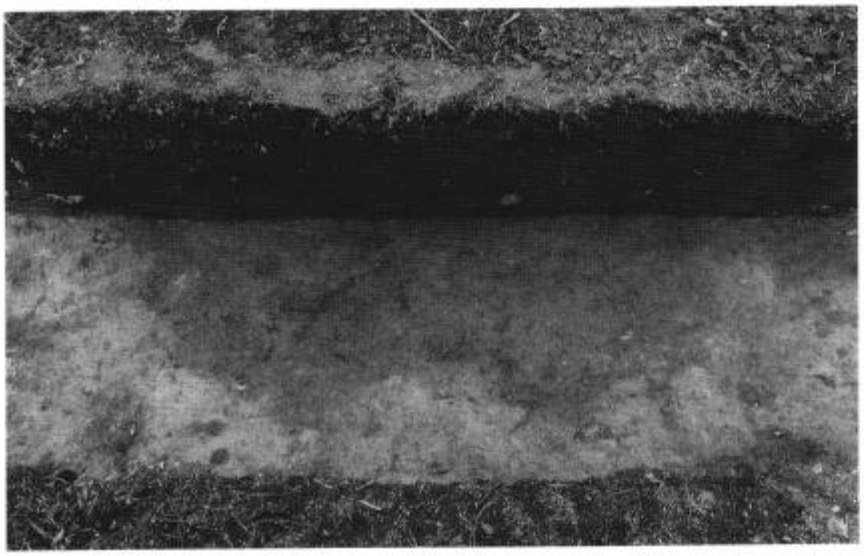


第63図　狐森遺跡範囲図



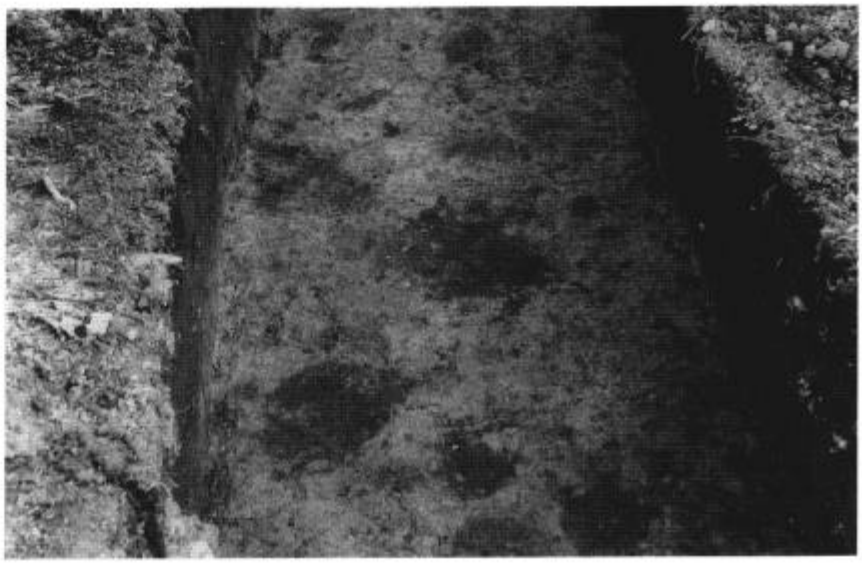
狐森遺跡
遠景
写真中央の段丘上
（南から）

狐森遺跡
調査状況（北西から）



狐森遺跡
土坑検出状況（北から）

狐森遺跡
溝跡検出状況（南から）



狐森遺跡
柱穴検出状況（南から）

狐森遺跡
石製品出土状況
（北から）

3　日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業

(1)岱Ⅰ・岱Ⅱ・岱Ⅲ遺跡

1　遺跡所在地	岱Ⅰ遺跡	秋田県河辺郡河辺町畑谷字岱217－1外
	岱Ⅱ遺跡	秋田県河辺郡河辺町畑谷字岱314外
	岱Ⅲ遺跡	秋田県河辺郡河辺町畑谷字岱286外
2　範囲確認調査期間	平成10年4月27日～5月29日	
3　範囲確認調査対象面積	岱Ⅰ遺跡	17,000㎡
	岱Ⅱ遺跡	12,000㎡
	岱Ⅲ遺跡	3,300㎡
4　工事区域内遺跡面積	岱Ⅰ遺跡	3,200㎡
	岱Ⅱ遺跡	2,700㎡
	岱Ⅲ遺跡	3,300㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

岱Ⅰ・岱Ⅱ・岱Ⅲ遺跡は、ＪＲ奥羽本線和田駅から南西7㎞、丸山集落の南の台地上にある。遺跡の立地する台地は、岩見川左岸に形成された河岸段丘群のうち中位の段丘で、遺跡の標高は34～38mである。岱Ⅰ遺跡と岱Ⅱ遺跡の間には丸山集落、畑谷集落へと降りる道路が二条通っている。岱Ⅰ遺跡と岱Ⅱ遺跡は同じ台地上にあるが、岱Ⅲ遺跡は沢を挟んだ別の台地上に存在する。

②現況

工事区域内遺跡範囲は、ほぼ全域が杉林である。

6　範囲確認調査の方法

道路中心杭と幅杭を基準に地形を考慮して設定した幅1～2mのトレンチ調査により遺物の有無、地山面における遺構の存在を確認した。試掘した総面積は岱Ⅰ遺跡が1,756㎡、岱Ⅱ遺跡が1,184㎡、岱Ⅲ遺跡が371㎡で、それぞれの調査対象面積の10.3%、9.8%、11.2%である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

岱Ⅰ遺跡は、Ⅰ層：表土・黒褐色土(10～20㎝)、Ⅱ層：地山漸移層・暗褐色土(10～30㎝)、Ⅲ層：黄橙・地山である。Ⅰ層、Ⅱ層とも撹乱を受けた個所が多い。

岱Ⅱ遺跡は、Ⅰ層：表土・黒褐色土(10～25㎝)、Ⅱ層：地山漸移層・暗赤褐色土(15～30㎝)、Ⅲ層：黄橙・地山である。西端の斜面部分に近づくにつれて、地山漸移層までの深さは浅くなる。

岱Ⅲ遺跡は、Ⅰ層：表土・黒褐色土(5～20㎝)、Ⅱ層：地山漸移層・暗褐色土(10～20㎝)、Ⅲ層：黄橙・地山となっている。他の二つの遺跡に比べると、地山面までの深さがかなり浅い。

遺構・遺物は3遺跡ともⅡ層から検出された。岱Ⅰ遺跡ではⅡ層とⅢ層の境界付近、岱Ⅱ遺跡ではⅡ層の中ほどから、岱Ⅲ遺跡では遺物がⅠ～Ⅲ層全域にわたり、遺構はⅡ層とⅢ層の境界付近が確認面となっている。

②検出遺構と出土遺物

岱Ⅰ遺跡では、土坑1基、陥し穴2基を検出した。遺物は、縄文時代後期の土器、石器がコンテナ1箱分出土したほか、平安時代の杯と思われる土師器片2点も出土している。

岱Ⅱ遺跡では、西側斜面から土坑2基、その上部の台地上から焼土遺構1基を検出した。遺物は、縄文時代後期の土器、石器がコンテナ1箱分出土した。これらは、斜面および焼土遺構の周辺からの出土である。

岱Ⅲ遺跡では、竪穴住居跡1軒、土坑8基を検出した。遺物は、縄文時代中期～後期の土器、石器がコンテナ2箱分出土した。この中には、ミニチュア土器1点、独鈷石1点、磨製石斧1点、黒曜石剥片1点、石篦0.5箱を含んでいる。また、弥生土器0.5箱、平安時代の土師器(甕か、杯と思われる)が0.5箱出土した。

8　所見

①遺跡の種類

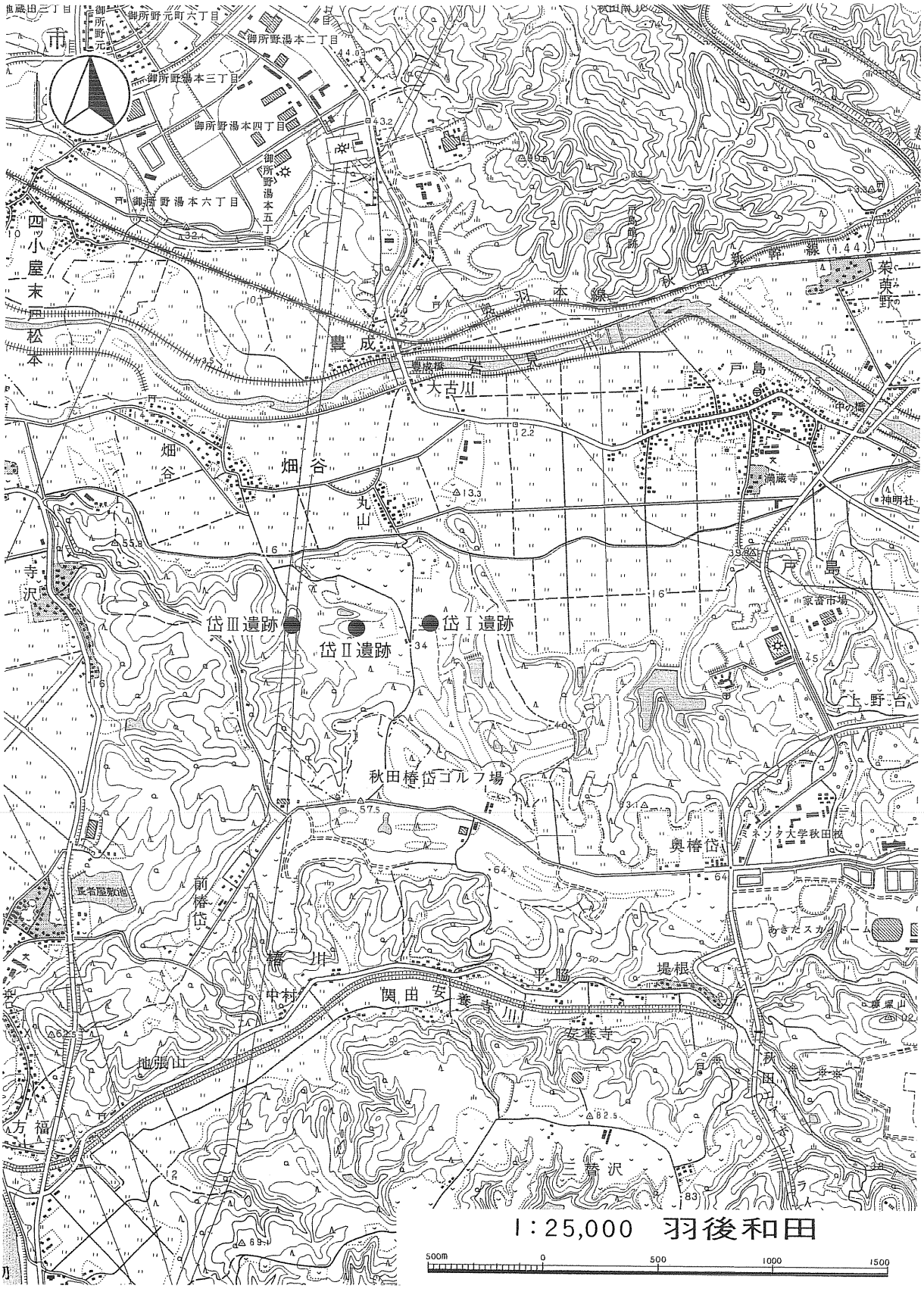
岱Ⅰ、岱Ⅱ遺跡は縄文時代の狩猟場、岱Ⅲ遺跡は縄文時代中期～後期の集落跡、および平安時代の遺物散布地である。

②遺跡の範囲

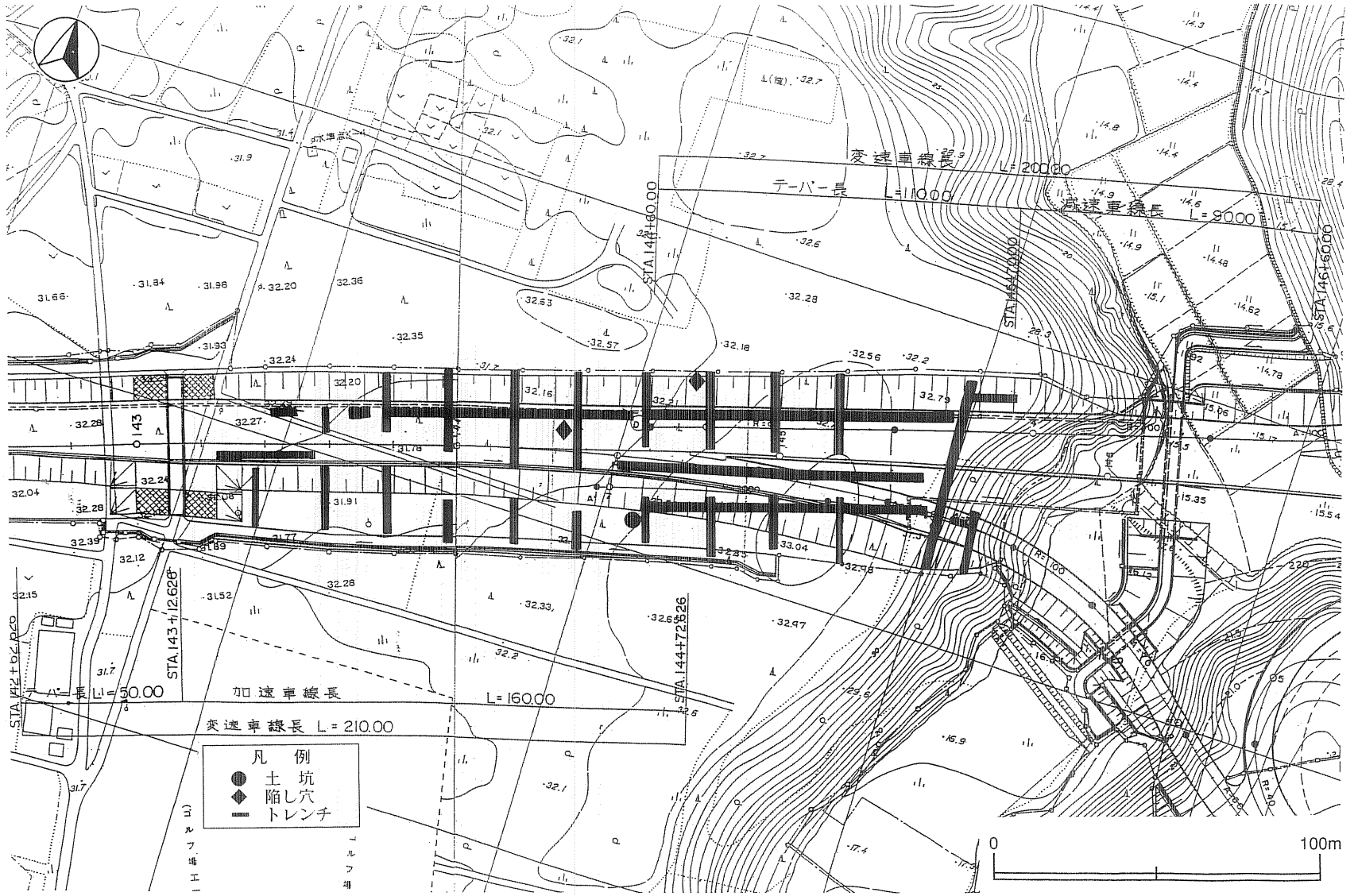
岱Ⅰ遺跡は、3基の遺構を含んだ円形の土地を遺跡範囲とした。岱Ⅱ遺跡は、斜面およびその上の台地を遺跡範囲とした。岱Ⅲ遺跡は、調査対象区域を含めた台地の平坦部全域と斜面を遺跡範囲とした。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

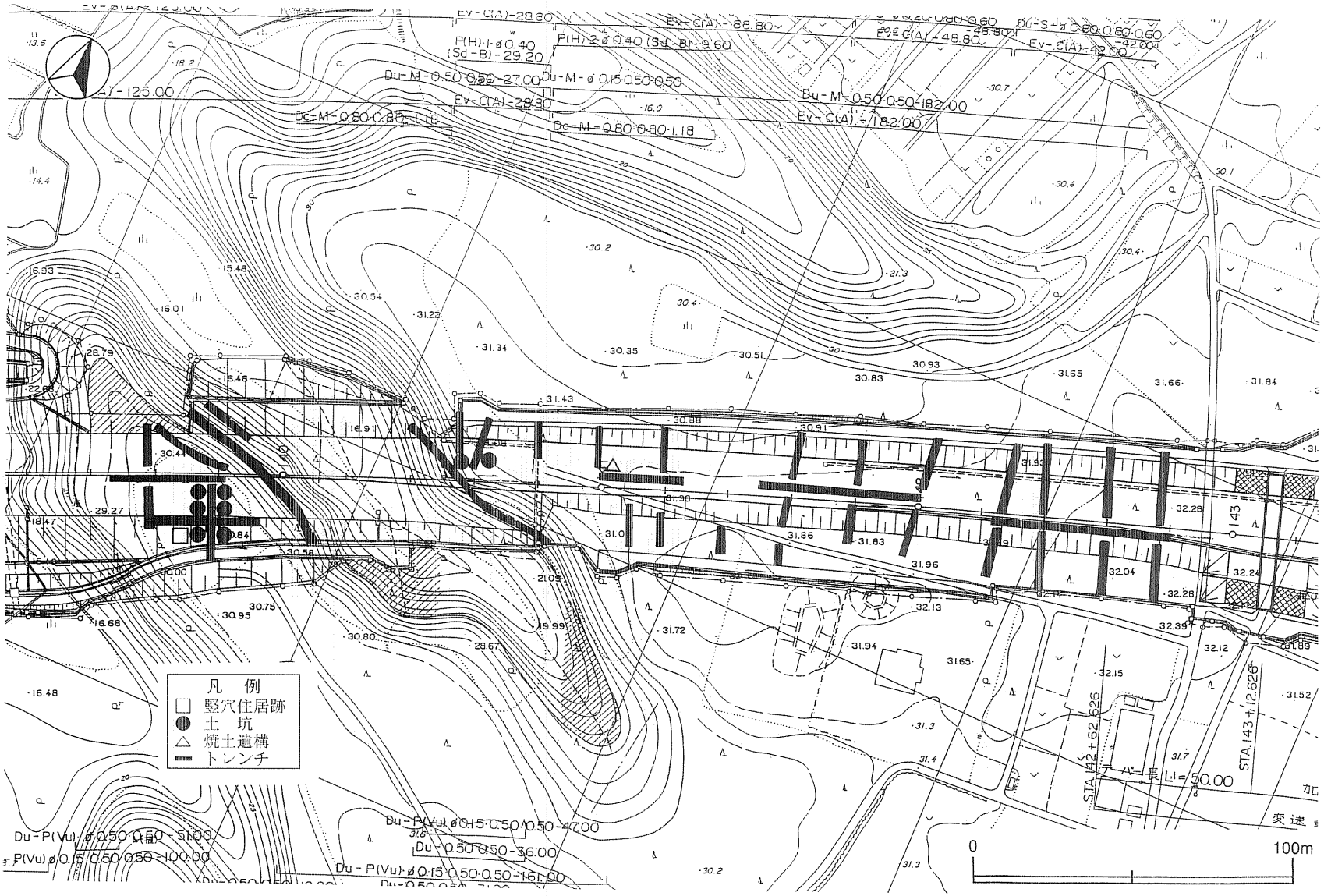
岱Ⅰ遺跡は、遺構・遺物とも僅少であると予想される。岱Ⅱ遺跡は、土坑が数基検出されると予想される。遺物は焼土遺構周辺から、まとまって検出されると予想される。岱Ⅲ遺跡は、竪穴住居跡が5軒前後、土坑が10～15基程度検出されると予想される。



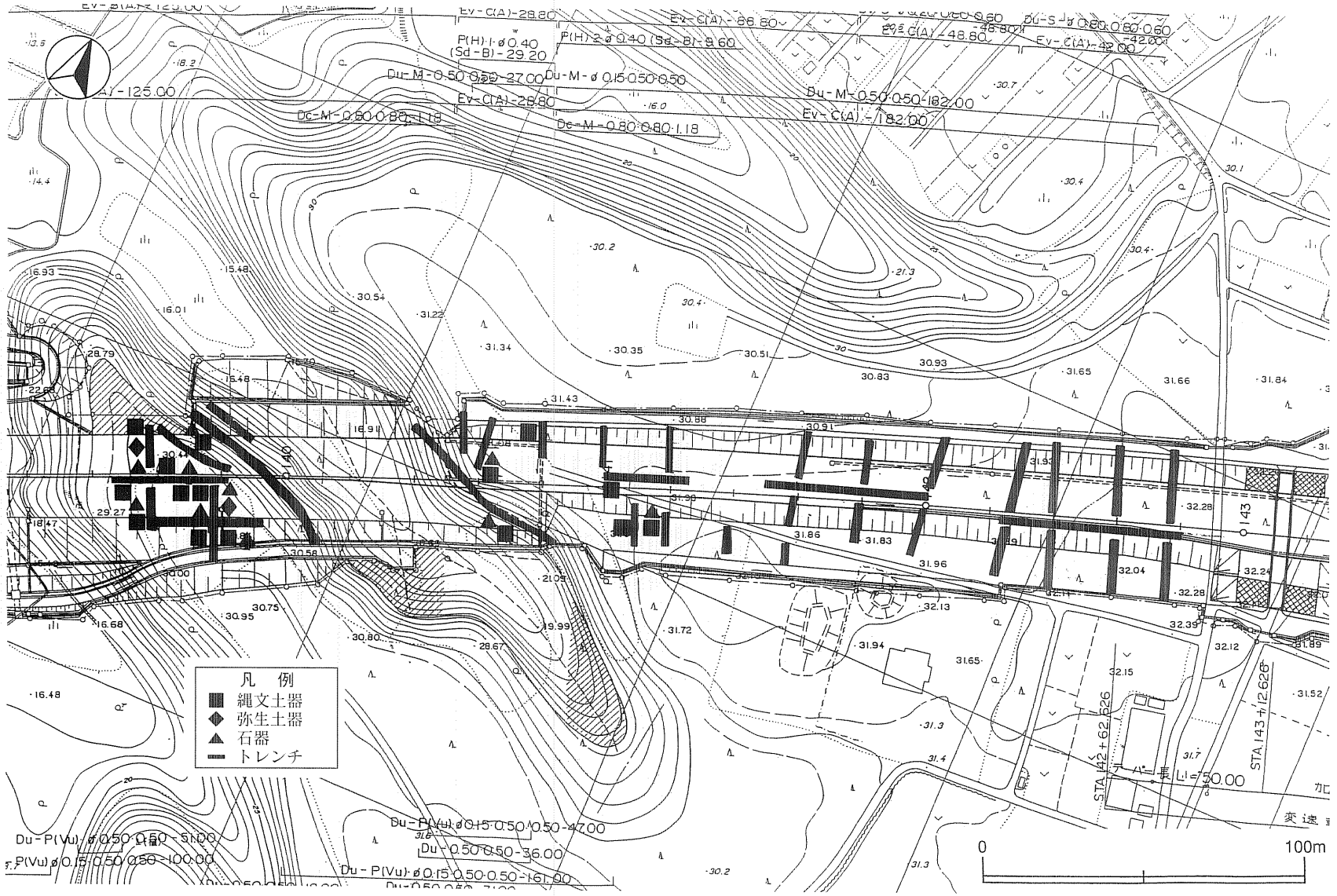
第64図　岱Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡位置図



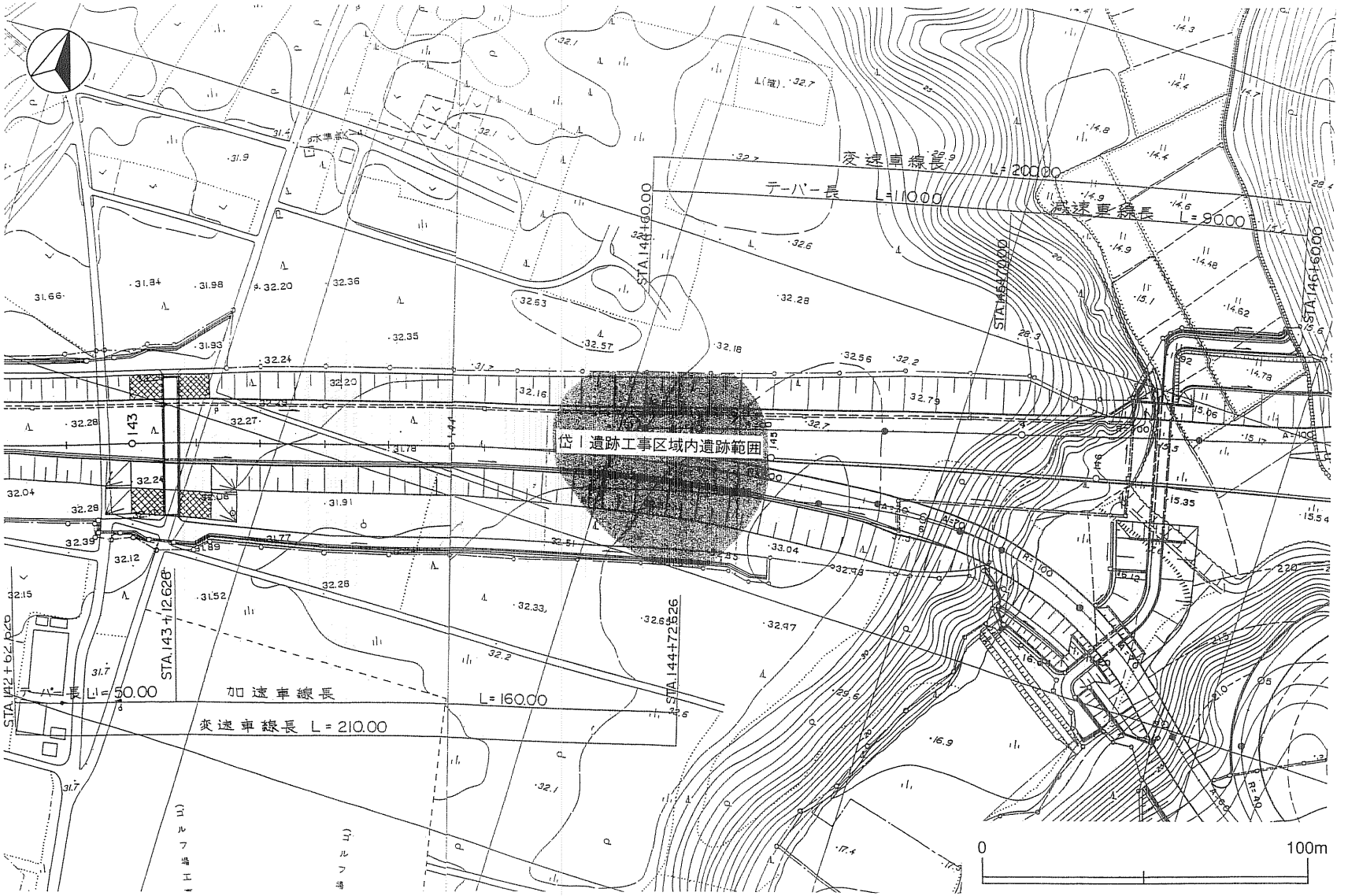
第65図　岱Ⅰ遺跡範囲確認調査結果図



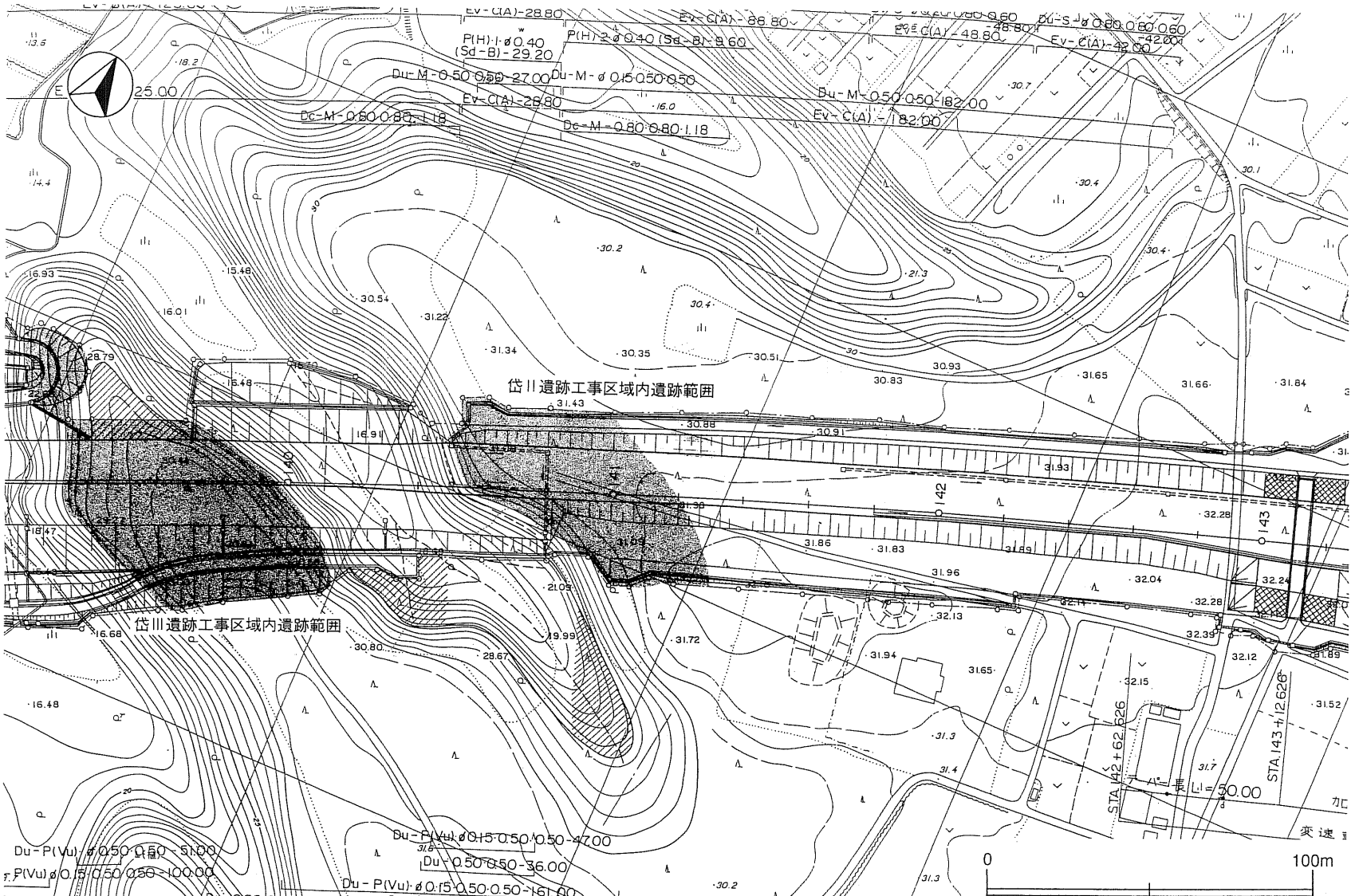
第66図　岱Ⅱ・Ⅲ遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第67図　岱Ⅱ・Ⅲ遺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）



第68図　岱Ⅰ遺跡範囲図

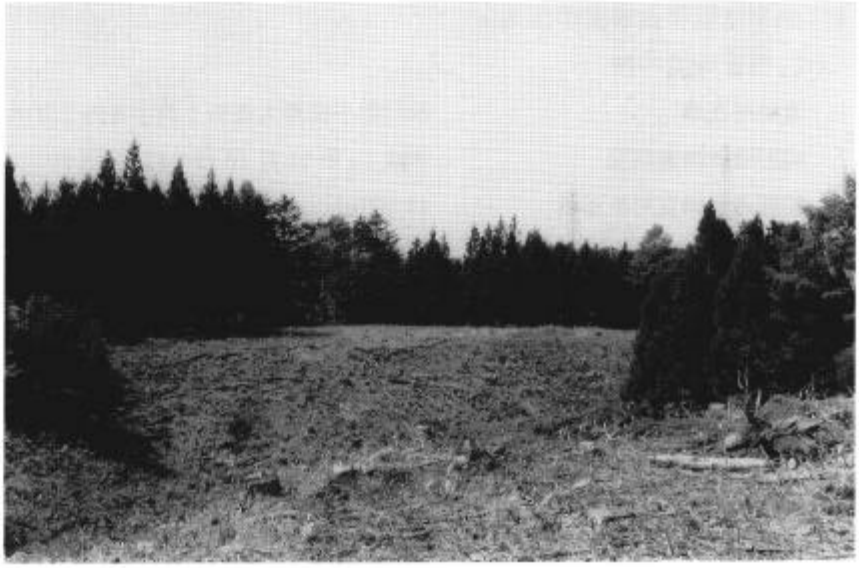


第 69 図　岱Ⅱ・Ⅲ遺跡範囲図

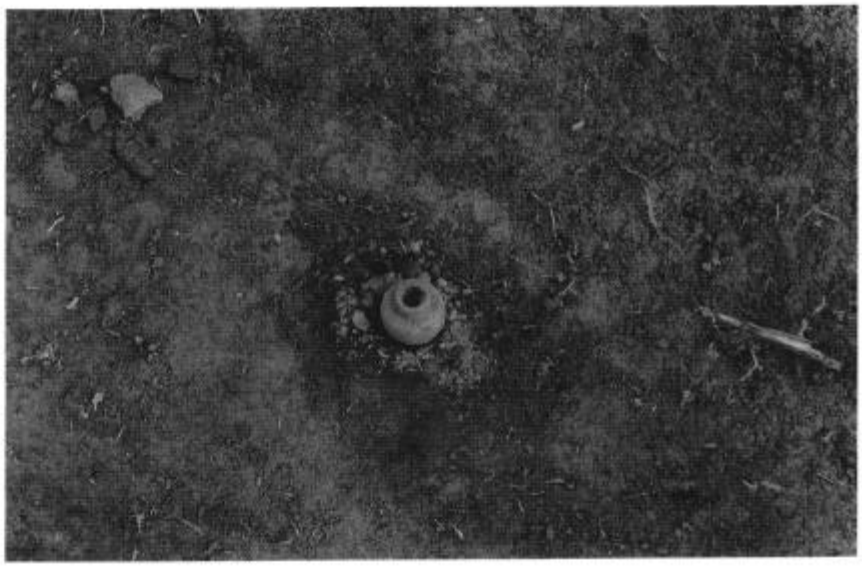
岱Ⅰ遺跡
作業風景（西から）

岱Ⅰ遺跡
作業風景（北から）

岱Ⅱ遺跡
遠景（西から）



岱Ⅲ遺跡
遠景（東から）



岱Ⅲ遺跡
ミニチュア土器
出土状況（北から）

岱Ⅲ遺跡
独鈷石出土状況
（北から）

4　県営ほ場整備事業中房地区

(1)観音寺廃寺跡

1　遺跡所在地　秋田県平鹿郡大森町上溝字寺内270外

2　範囲確認調査期間　平成10年11月16日～12月18日

3　範囲確認調査対象面積　47,500㎡

4　工事区域内遺跡面積　23,500㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

観音寺廃寺跡は大森町役場から南西に約3.8km、雄物川の支流である上溝川の左岸に立地する。対岸には標高120.3mの山があり、古来より「寺沢」と呼ばれている沢が遺跡の正面に向かって上溝川に流れ込んでいる。江戸時代の紀行家菅江真澄の『雪の出羽路』によると、この山からは久安5年の記銘がある経筒とカメ(珠洲系陶器)が掘り出されており、真澄はこの地が『日本三代実録』貞観6年の条にある“出羽国観音寺”にあたると考えている。

遺跡は沢と上溝川との合流点の東側に微高地状に残る旧来の自然堤防上に位置し、標高は52～53mである。

②現況

遺跡の現況は水田、畑である。

6　範囲確認調査の方法

現況水田の区画に沿うようにトレンチを設定し、法切りバケットを装着したバックホーを使用して遺構の有無を確認した。その後人手により遺構確認面を精査し、遺構・遺物の有無、層位を詳細に記録した。範囲確認調査における延べ試掘面積は3,180㎡で調査対象面積の6.7%にあたる。

7　範囲確認調査の結果

①層序

第Ⅰ層　表土(層厚20～30cm)水田耕作土。最下部はグライ化し粘土様を呈する。

第Ⅱ層　黒褐色～暗褐色シルト(層厚0～30cm)軟質な白色礫・炭の大粒を含む。遺構確認面。

第Ⅲ層　青灰色シルト～粘土(層厚0～100cm以上)上面に炭の大粒を含む。

第Ⅳ層　青灰色粘土　地山。

遺構はⅡ層から掘り込まれており、また遺物もこの層序から出土する。Ⅱ層が確認できない部分ではⅢ層上面で遺構が確認されるが、これは前回のほ場整備の際にⅡ層が削平され、遺構の下部のみが残存しているものと推定される。Ⅰ～Ⅲ層は調査区内で層厚に差があり、畑として利用されていた11トレンチでは、畑の盛土を含めるとⅠ層が50cmに及ぶ。

2・6トレンチ交点付近ではⅠ層が20cm、Ⅱ層が20cm、Ⅲ層が50cm、3・8トレンチ交点付近ではⅠ層が20cm、Ⅱ層が20cm、Ⅲ層が70cm堆積する。1・14トレンチ交点付近では、Ⅱ層はかなり薄く、下に砂質粘土・礫が堆積しており、旧河川の影響が考えられる。12・13・14トレンチ北側ではⅡ層は確認されず、Ⅰ層直下Ⅲ層上面に砂礫が堆積していることから、沢地形の埋没が想定される。1・3トレンチ東部ではⅡ層は薄くなる傾向を示している。

②検出遺構と出土遺物

遺構は柱穴・土坑・井戸跡・溝跡を検出した。柱穴は、径10～40㎝の円形あるいは方形プランで、中に柱材が残存しているものもある。３・８トレンチ交点付近では、手斧により面取りされた八角形の柱材(径25～30㎝)が径１ｍ程の掘形内に据えられたままの状態で出土した。また掘形が径70㎝程の円形プランのなかに、４本の柱と板材が入るものがあり、井戸跡と考えられる。

遺物は土器類として古代の須恵器・中世の珠洲系陶器、中世以降と思われる陶器・磁器が出土した。木製品では棒状木製品(箸か)・漆塗り椀・漆塗り盆・下駄・農具の柄・紡錘車等が出土した。また鉄製品や硯の破片等も出土している。

８　所見

①遺跡の種類

古代から中世に関わる掘立柱建物群を主体とする遺跡である。

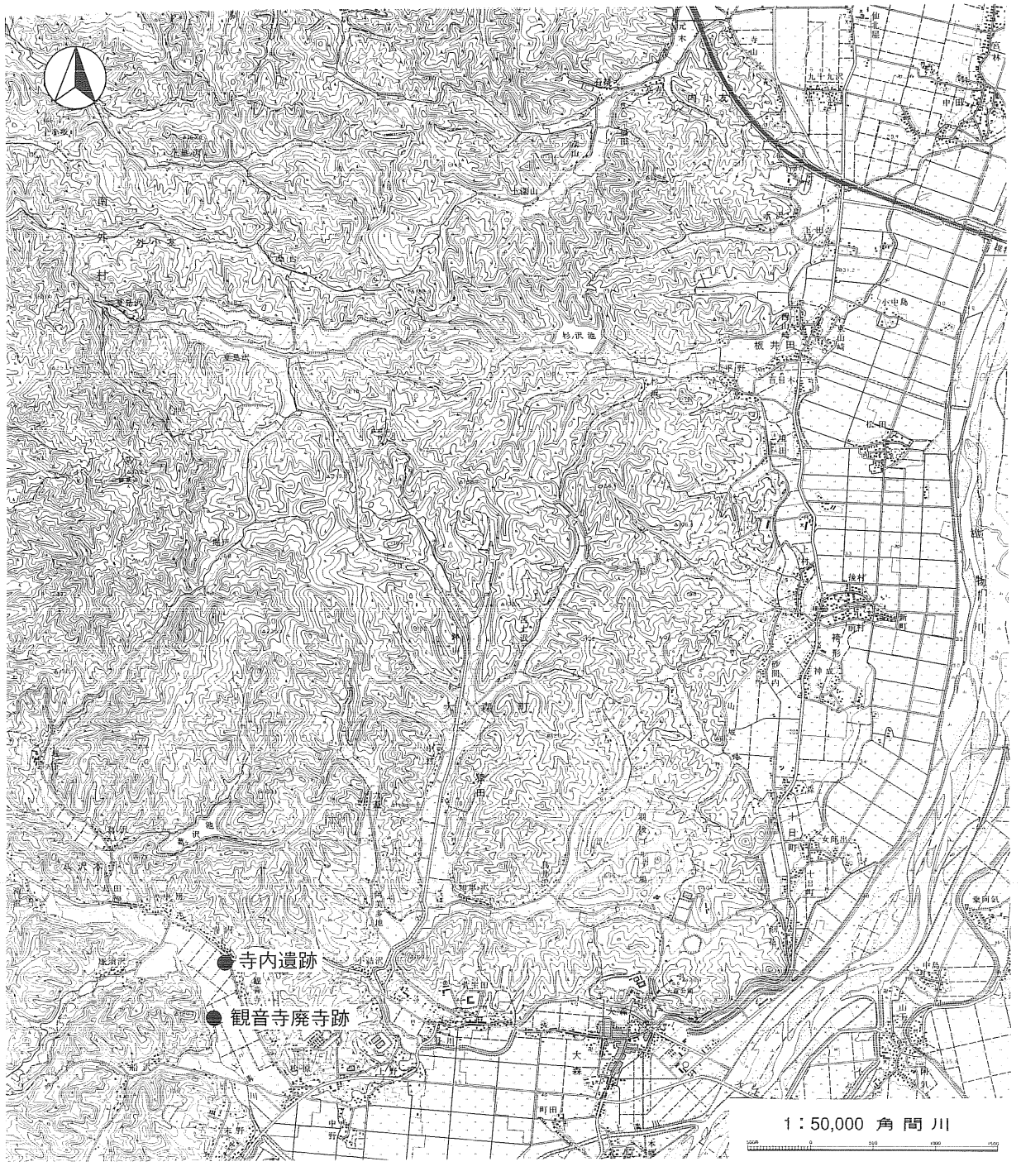
②遺跡の範囲と工事区域

調査区内では微高地状に残る部分(旧河道の影響による自然堤防起源)に遺構が拡がっていると考えられる。

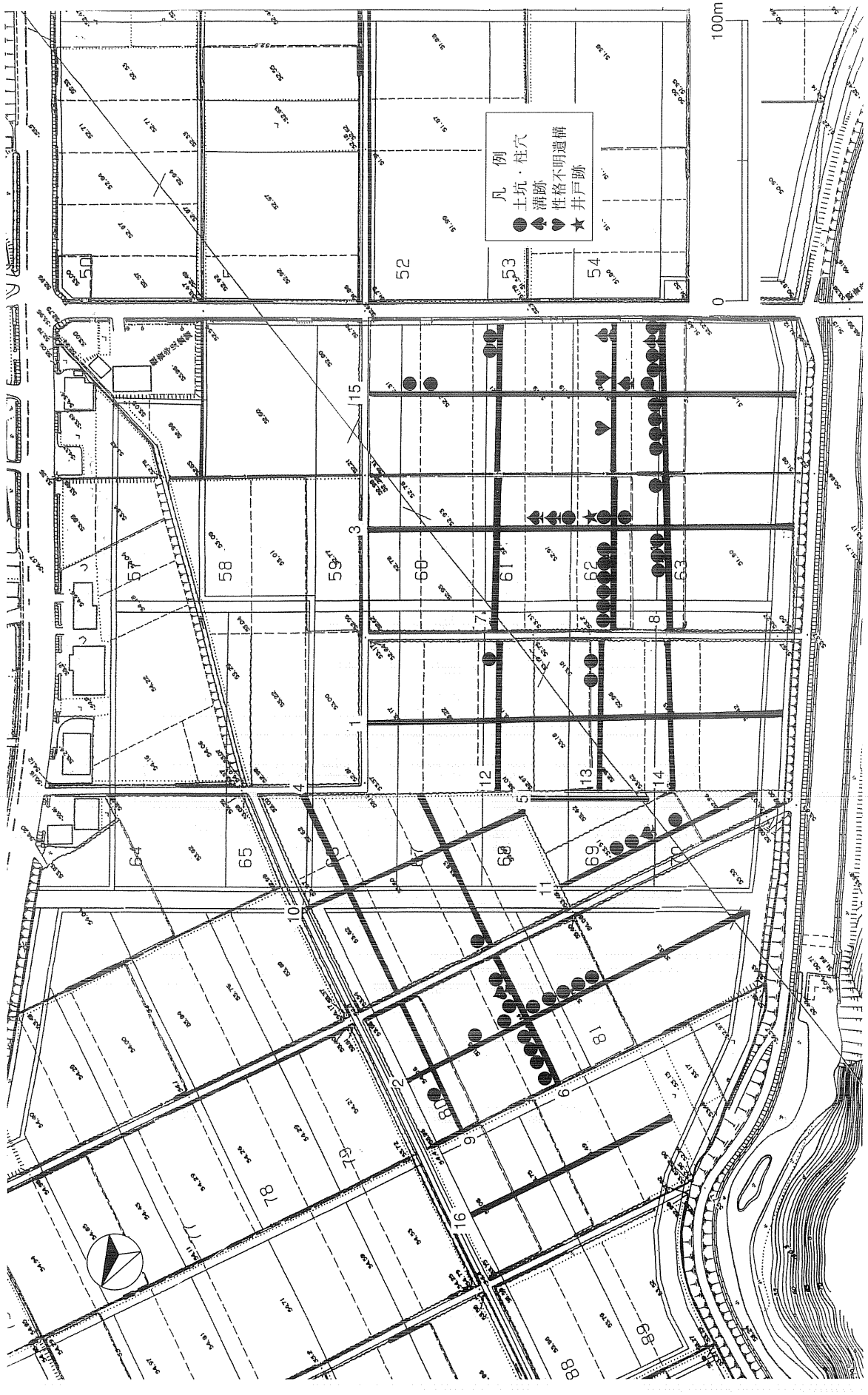
遺構は北部(２・６トレンチ交点付近)と南部(８トレンチ付近)に集中し、中央部(１・５・11・４トレンチ付近)では希薄である(第71図)。これは、12・13・14トレンチ北側に埋没する微小な沢地形に関連するが、遺物はこの中央部からも密に出土している(第72図)。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

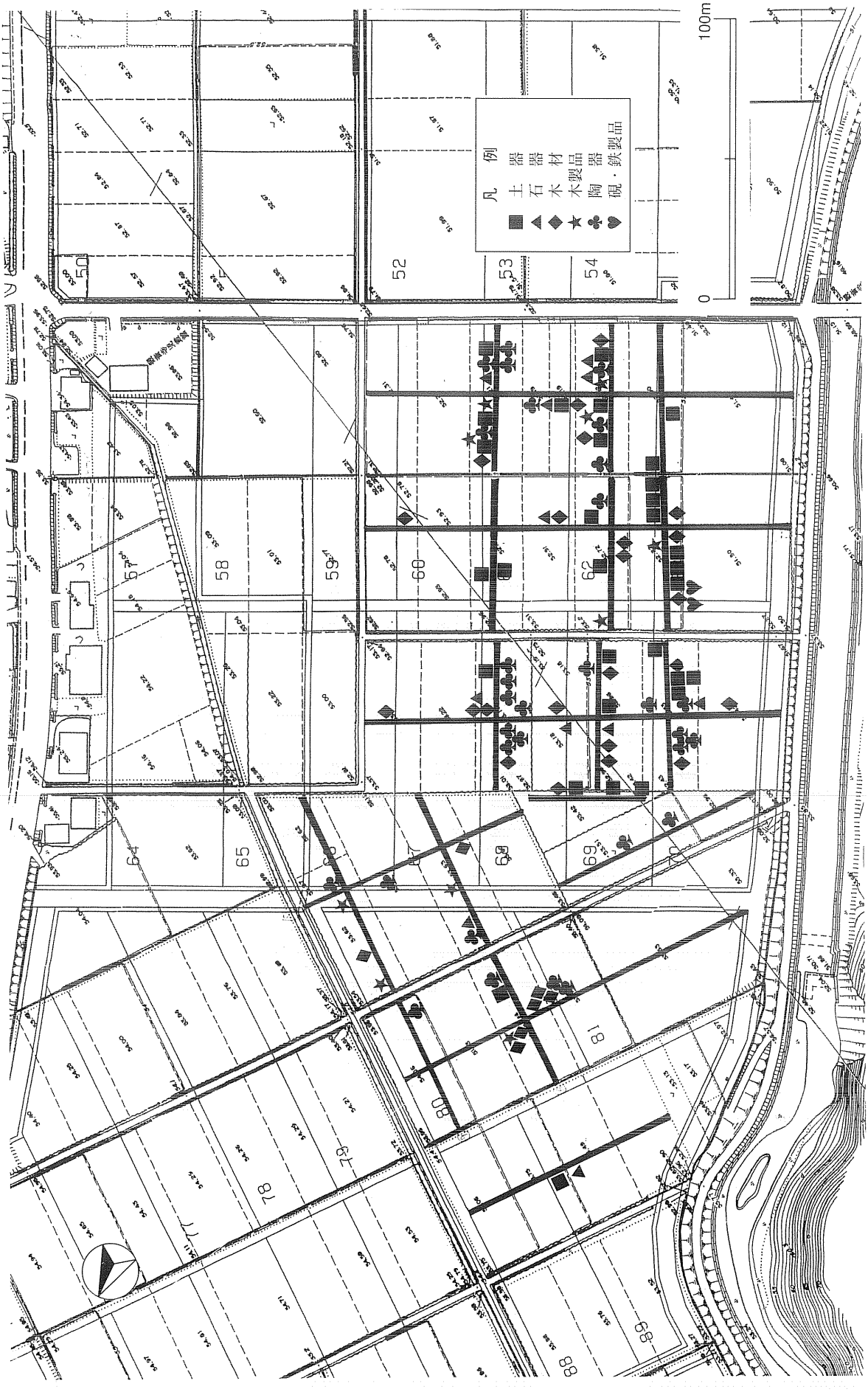
遺構では掘立柱建物群・土坑・井戸跡・溝跡等の検出が予想される。遺物では土器類として須恵器・珠洲系陶器・陶器・磁器や、鉄製品の出土が予想されるほか、木製品や自然遺物が良好な状態で遺跡全域にわたり多数出土するものと考えられる。



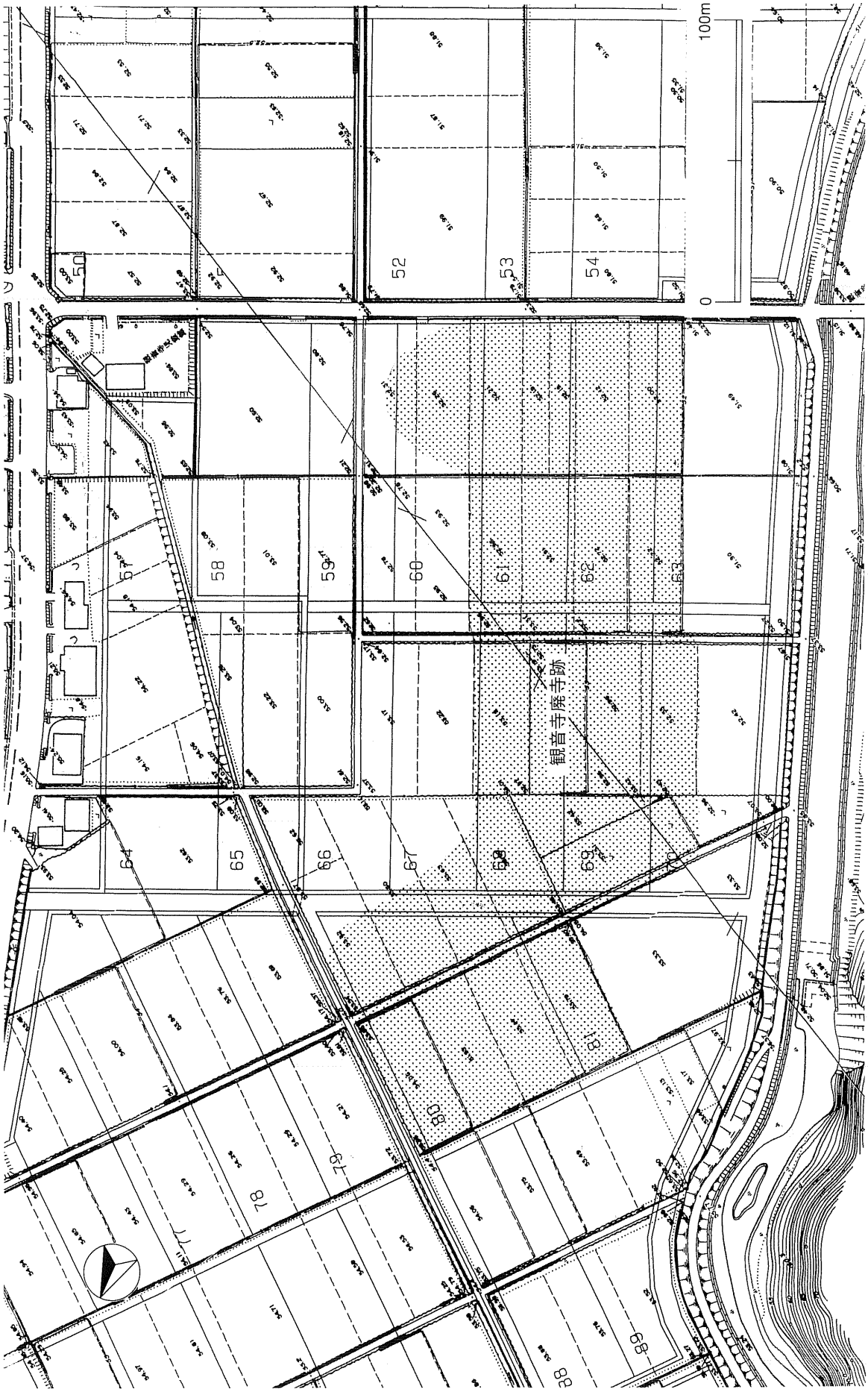
第70図　観音寺廃寺跡・寺内遺跡位置図



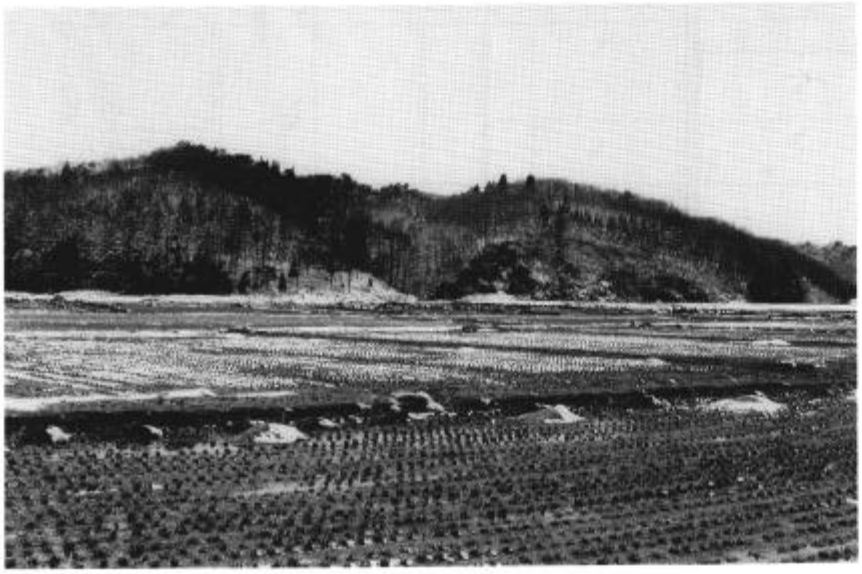
第71図　観音寺廃寺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



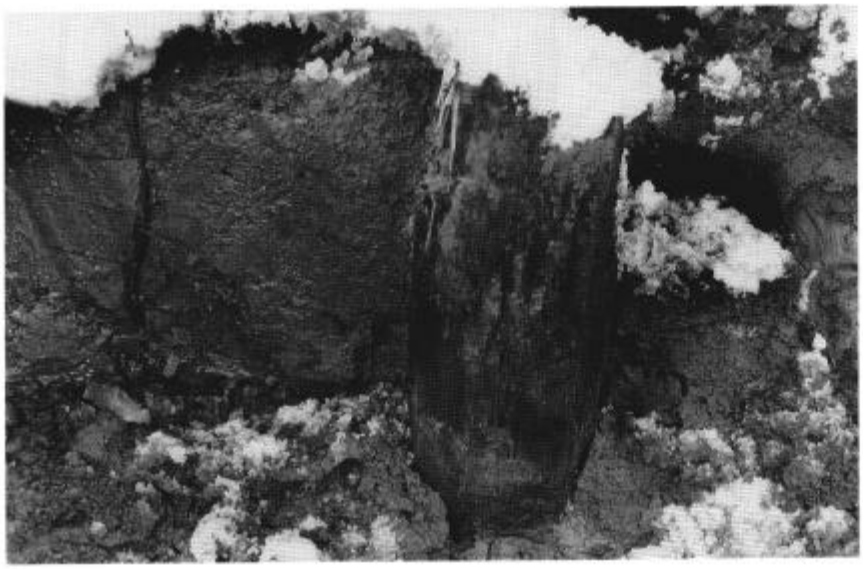
第72図　観音寺廃寺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）



第73図　観音寺廃寺跡範囲図



観音寺廃寺跡
近景（東から）



観音寺廃寺跡
検出された八角の柱材
（北から）

観音寺廃寺跡
下駄出土状況（西から）

（2）寺内（てらうち）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県平鹿郡大森町上溝字寺内249－1、字寺内177外

2　範囲確認調査期間　　平成10年11月16日～12月18日

3　範囲確認調査対象面積　　26,200㎡

4　工事区域内遺跡面積　　24,800㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

寺内遺跡は雄物川の支流上溝川左岸の段丘面から出羽丘陵の裾部を中心に立地する。県道横手・大森・大内線が遺跡を南北に縦断し、県道東側は主に丘陵と埋没谷に、県道西側は段丘と旧河道およびその氾濫原に相当する。標高は54～60mである。

②現況

範囲確認調査対象範囲の現況は水田、畑である。

6　範囲確認調査の方法

現況水田の区画に沿うようにトレンチを設定し、法切りバケットを装着したバックホーによる掘削を行い、遺構の有無を確認した。その後人手により遺構・遺物を精査するとともに、層位を詳細に記録した。範囲確認調査における試掘面積は1,400㎡で、調査対象面積の5.3%にあたる。

7　範囲確認調査の結果

①層序

第Ⅰ層　表土（層厚20～30㎝）水田耕作土。

第Ⅱ層　黒褐色～灰褐色シルト（層厚0～40㎝）炭化物及び未分解有機物を少量含む。

第Ⅲ層　褐色～暗褐色シルト（層厚0～60㎝）細礫・炭化物を少量含む。

第Ⅳ層　青灰色シルト～粘土（層厚0～50㎝）炭化物を少量含む。

第Ⅴ層　青灰色粘土～砂礫　基盤層。地点により旧河床礫部分と氾濫原部分の粘土層とに分かれる。

Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層は、それぞれ隣接する大森町観音寺廃寺跡のⅡ・Ⅲ・Ⅳ層に相当する。Ⅱ～Ⅳ層は調査区内で堆積状況に変異がある。23・24トレンチではⅠ層直下から段丘堆積物と推定できる黄褐色シルト層が検出され、当該地点周辺は南東側から舌状にのびた段丘の裾部であると考えられる。30トレンチ東側は沼沢地であったと想定される。また、21・22・30トレンチ等では南東側からの旧河道跡も確認した。

②検出遺構と出土遺物

遺構は焼土遺構1基、柱穴2基を検出した。焼土遺構は、最大長11mを越える大形の浅い掘り込みの上・下位に分解した炭化物を含むと推定できる黒色土が、中位に焼土化した基盤シルトが堆積するものである。下部に炭化材を充填した防湿施設を設け、伏焼法によった炭焼成遺構の可能性も推定できるが、現状では断定し難く、時期も不明である。柱穴は共に径23～24㎝の隅丸方形を呈する。時期は不明である。

遺物は縄文土器・須恵器・珠洲系陶器・近世陶磁器・フイゴ羽口、石器・剥片のほか、櫛・棒状木製品等が出土している。これらの大半は旧河道～氾濫原地点から散発的に出土しており、現状では明

瞭な遺物包含層は認定し難い。

8　所見

①遺跡の種類

縄文時代から中近世にかけての遺物包含地および時期不明の生産遺跡と推定する。

②遺跡の範囲と工事区域

東から西に向かって舌状にのびる丘陵～段丘面からなる高位部に遺構群が分布し、その周囲の埋没谷～旧河道氾濫原にあたる低位部に、高位部から流れ込んだ遺物が分布するものと推定できる。工事区域内では、県道西側中央部の相対的に高くなった水田部を中心に、一部県道を挟んだ周囲の水田部を合わせた範囲が遺跡範囲に相当する。

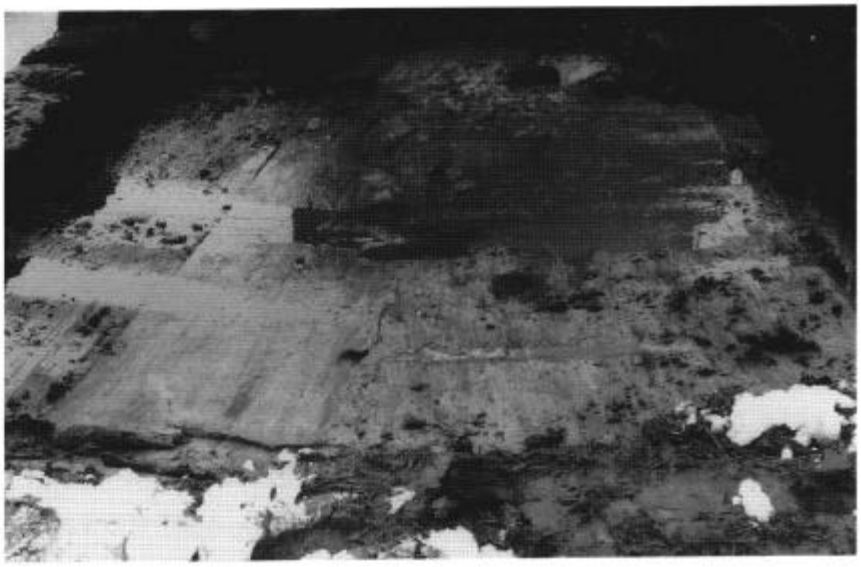
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

炭焼成遺構および工房址等の生産関連施設が存在し、縄文土器・須恵器・中近世陶磁器・石器が出土する可能性が予想できるが、ともに分布密度は低いものと推定する。

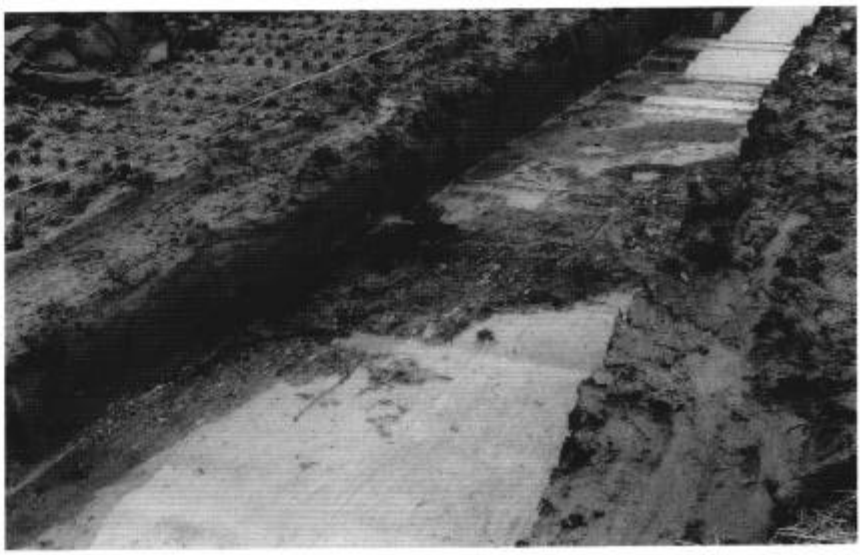
第 74 図　寺内遺跡範囲確認調査結果図

第 75 図　寺内遺跡範囲図

寺内遺跡
近景（西から）



寺内遺跡
焼土遺構検出状況
（西から）



寺内遺跡
旧河道検出状況
（南から）

5　県営ほ場整備事業大砂川地区

（1）ヲフキ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県由利郡象潟町大砂川字カクチタ32外

2　範囲確認調査期間　　平成10年11月13日～12月18日

3　範囲確認調査対象面積　　195,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　27,500㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

ヲフキ遺跡は、象潟町役場の南約5.3㎞、ＪＲ羽越本線上浜駅の南東約0.6㎞に位置する(第76図)。日本海の汀線からの距離はおよそ750mにすぎないが、鳥海山麓の西端にあたるため、調査対象範囲及びその周辺の地形は東から西に傾斜している。調査範囲における標高は東端で約54.5m、西端で約33.5mであり、その平均斜度は約5.8%である。調査範囲ほぼ中央を沢水が東から西に流れ、その清流を利用したニジマスの養漁場がある。また、調査範囲北側には道路に沿って集落が形成されている。

今回の調査対象範囲は東西約450m・南北約550mにおよび、象潟町大砂川字カクチタ・山屋・六郷田・天神免・後田・ヲフキ及び川袋字大田の全域または一部を含んでいる。

なお、調査範囲西端を農免農道大砂川線が南北に走っており、平成元年度にはこの農道整備事業に係る900㎡の発掘調査が行われ、縄文時代前期の土坑墓・土器埋設遺構を検出している。

②現況

大部分が水田であるが、一部休耕地・畑地も含む。水田は概して棚田状を呈しており、隣接する水田相互の比高は約0.2～2.3mである。水田の畦畔は直線状を呈するものが多く、原地形を利用しながらも、ある程度の改変をうけた形跡が認められる。この地形の改変は個々の農家によって行われたものであるため、時間的にはかなりの幅があるが、概ね昭和30～40年代のことである。

また、休耕地のなかには資材置場として利用されている箇所がある。

6　範囲確認調査の方法

今回の範囲確認調査対象範囲は広域にわたるため、調査範囲を東西に横切る養漁場とほぼ南北に走る町道とによって、調査範囲北西部をＡ地区、北東部をＢ地区、南西部をＣ地区、南東部をＤ地区に分けて調査を進めた(第77図)。

調査範囲内の水田・休耕地・畑地は地形上の制約をうけ、１区画が細長い形状を呈するものがほとんどであることから、トレンチを耕地区画の長軸に沿って設定し、適宜それに交差するトレンチを設けた。掘り下げは水田・旧水田に関してはすべて重機で、畑地はおもに人力で行い、遺構確認面または地山層上面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。さらに、遺構の検出地点、遺物の出土地点、遺構検出面までの深さ、遺物包含層までの深さ及びその層厚を記録した。

試掘した調査面積は約7,400㎡で、全対象面積の約3.8%にあたる。

7　範囲確認調査結果

①層序　　－（　　）内の数字は層厚－

Ⅰ層　表土・撹乱層（15～95㎝）

Ⅱ層　黒褐色土＝遺物包含層・地山漸移層（5～40cm）

Ⅲ層　褐色土＝地山層

Ⅰ層は水田や畑地の耕作土及び水田造成時における盛土である。

Ⅱ層については、切土によって削平されている箇所と盛土等によって削平の免れている箇所とが混在している。山麓末端の斜面を階段状に整地したため、総じて、遺物包含層のある耕地区画とない区画とが標高に応じて交互に並ぶ傾向にある。調査区南側（C地区・D地区）においては、Ⅱ層相当層を有する箇所が広範に認められるものの、かつて人々が生活を営んだ形跡は北端部を除いては認められなかった。

遺構検出面はⅢ層上面である。

Ⅰ層・Ⅱ層・Ⅲ層はいずれもややしまりがあり、Ⅲ層は部分的にグライ化している。Ⅲ層下位には礫層があり、場所によってはⅠ層またはⅡ層のすぐ下に礫が見える箇所もある。

①検出遺構と出土遺物（第78・79図）

a　検出遺構

調査対象範囲のうち遺構密度が高いのは養漁場より北側のA地区・B地区であり、南側のC地区・D地区では養漁場に近い北端のごく一部で捨て場・柱穴がみられただけである。さらにその南側では、Ⅱ層に相当する層の広がりはみられるが、遺構の存在は確認できなかった。

A地区からは、農免農道大砂川線に沿った西端部で縄文時代の土坑7基及び縄文時代のものと思われる柱穴を5基検出した。

B地区からは、ほぼ全域で遺構を検出した。そのうち南西部からは縄文時代のものと考えられる土坑及び柱穴を、北西部からは古代に属すると思われる柱穴及び縄文時代に属すると思われる土坑・焼土遺構を、また、東部からは規則正しい配列を呈する平安時代のものと考えられる多数の柱穴をそれぞれ検出した。B地区全体では、土坑23基、柱穴138基、焼土遺構1基を検出した。

C地区の北端部からは、資材置場で時期不明の柱穴1基、沢沿いの水田で縄文時代の小規模な捨て場1カ所を確認した。

D地区北端の水田からは、北側の畦畔及び沢に面する崖付近で、縄文時代の比較的規模の大きい捨て場1カ所を確認している。この捨て場は、養漁場及び水田の造成にともない、南北両端が削平されているものと考えられる。

b　出土遺物

遺物は中コンテナで38箱出土した。

A地区からは、西部を中心に多種類の遺物が出土している。縄文時代の遺物では、縄文時代前期～中期前葉の土器が多く、中期の土器のなかには北陸系とみられるものを含んでおり、また、僅かながら縄文時代晩期の土器も出土している。また、石器の出土も多く、石鏃2点、石匙5点、石槍・磨製石斧各1点及び礫石器を含む各種の石器や剥片が出土している。土師器・須恵器・砥石など古代の遺物、陶磁器など近世の遺物の出土も少なくない。

B地区からは、中央部～西部を中心に、縄文時代中期前葉の大木系に属する土器が多く出土し、他には縄文時代晩期の土器、石鏃・石錐・石匙・石皿・敲石等の石器や剥片など縄文時代の遺物がある程度まとまって出土している。礫石器以外の石器や剥片は大半が頁岩製であるが、瑪瑙質のものも多

い。また、中央部～北部を中心に、土師器・須恵器などの古代の遺物や青磁などの陶磁器も出土している。

Ｃ地区からは、北端部の捨て場から縄文時代中期前葉の北陸系とみられる土器が出土しているほか、北東端部のⅠ層及びⅡ層からは、僅少ながら須恵器・青磁・漆器が出土している。

Ｄ地区からは、北端部の捨て場から縄文時代後期後葉～晩期を主時期とする多量の縄文土器が、また、捨て場近くの水田のⅢ層上面からは縄文時代の磨製石斧が出土している。

8　所見

①遺跡の種類

本遺跡は、縄文時代前期～晩期の集落跡、古代の集落跡、近世の遺物散布地の複合遺跡と考えられる。また、平成元年度の発掘調査では現在の農免農道に係る範囲に縄文時代前期の土坑墓が検出されており、この農道に隣接する一部の箇所は墓域であった可能性がある。

②遺跡の範囲と工事区域

工事区域内における遺跡は、Ａ～Ｄの各地区に点在している(第80図)。

Ａ地区では農免農道大砂川線に接する西側部分であり、Ｂ地区では南東部と南西端部を除くほぼ全域、Ｃ地区では養漁場に南接する北端部、Ｄ地区では養漁場南側の北東端部である。

各地区内の遺跡面積は、Ａ地区内の遺跡範囲が5,800㎡、Ｂ地区内の遺跡範囲が14,800㎡、Ｃ地区内の遺跡範囲が5,500㎡、Ｄ地区内の遺跡範囲が1,400㎡である。したがって、工事区域における遺跡範囲面積の合計は27,500㎡となる。

遺跡は、工事区域外である農免農道大砂川線の西側にも広がっており、その遺構・遺物の分布はむしろ今回の調査対象範囲におけるよりも密であることが予想される。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

Ａ地区内遺跡範囲では、縄文時代前期～中期の土坑及び柱穴がある程度まとまって検出されるものと予想される。平成元年度の農道整備事業に係る発掘調査で、現農道部分が縄文時代前期の墓域であったことが明らかになっていることから、それに隣接する当該区もまた墓域としての性格を有している可能性がある。遺物は、遺構内及び遺物包含層中から該期の遺物の出土が予想される。

Ｂ地区内遺跡範囲では、東側で古代の大規模な建物跡が検出されるものと予想される。西側では、縄文時代中期及び平安時代の土坑・柱穴等の遺構がまとまって検出されるほか、縄文時代の焼土が確認されていることから、該期の竪穴住居跡や炉跡も検出される可能性がある。遺物は、遺構内及び遺物包含層中から縄文時代中期と平安時代をおもな時期とする遺物の出土が予想される。

Ｃ地区内遺跡範囲では、縄文時代中期前葉の捨て場の検出、及び該期の遺物の出土が予想される。

Ｄ地区内遺跡範囲では、縄文時代後期後葉～晩期の捨て場の検出、及び該期の遺物の出土が予想される。

第76図　ヲフキ遺跡位置図

第77図　ヲフキ遺跡現況図

第78図　ヲフキ遺跡範囲確認調査結果図（その1＝北部）

第79図　ヲフキ遺跡範囲確認調査結果図（その２＝南部）

第80図　ヲフキ遺跡範囲図

ヲフキ遺跡
遠景（南西から）

ヲフキ遺跡
B地区作業風景
（北西から）

ヲフキ遺跡
A地区西部
柱穴検出状況
（西から）

ヲフキ遺跡
Ｂ地区北西部焼土遺構
付近縄文土器出土状況
（西から）

ヲフキ遺跡
Ｂ地区北東部柱穴群
検出状況（北から）

ヲフキ遺跡
Ｄ地区北端部磨製石斧
出土状況（南から）

6　県営ほ場整備事業寺沢地区

（1）館堀城跡（たてほりじょう）

1　遺跡所在地　秋田県雄勝郡雄勝町寺沢字館堀10外

2　範囲確認調査期間　平成10年11月12日～11月27日

3　範囲確認調査対象面積　24,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　21,000㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

館堀城跡は雄勝町役場の南約1.5㎞に位置する。調査区西には役内川が北流し、城跡は役内川によって形成された河谷低地で、標高約170mに立地している。付近には、堀の内、館堀、館堀林、館の沢といった地名が残り、俗称として宝屋敷、エンの馬場と呼ばれている所もある。城内には、現在神明社が祀られ、附近に嘉暦2年(1327)、応永7年(1400)の板碑がある。また、北方約500mの山腹に草井崎城があり、「奥羽永慶軍記」「雪の出羽路」に菅六郎内記、勘四郎、勘助の名が見えることから、館堀城もこれらに関する城館と考えられる。

②現況

大部分が水田であるが、一部は畑地として利用されている。堀に当る部分が凹地帯となって残っており、その内側には土塁状の高まりが部分的に残っている。

6　範囲確認調査の方法

調査区内に、東西3本、南北3本の基本となるトレンチを幅1.5mで設定し、さらに調査が必要と思われる箇所にトレンチを設定して調査した。また、来年仮設水路となる北東部に幅3mのトレンチを設定した。掘り下げは重機で行い、遺構・遺物の有無とその層位を確認した。試掘した調査面積は1,928㎡で、対象面積の約8％である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

Ⅰ層：表土・耕作土(20～40㎝)

Ⅱ層：灰黄褐色土(15～50㎝)

Ⅲ層：黒褐色土(5～25㎝)

Ⅳ層：黄褐色土(地山)

Ⅲ・Ⅳ層では礫を多く含む箇所もあり、特にⅢ層は調査区中央部で小礫を多く含む。遺物包含層は、Ⅱ・Ⅲ層、遺構確認面はⅢ・Ⅳ層である。

②検出遺構と出土遺物(第82・83図)

土坑8基、柱穴26基、堀・溝跡3条の遺構が検出された。城跡の主郭である平坦部の規模は東西約130m、南北約90mであり、主郭の中央からは土坑が径約0.5～1.3m、柱穴が径約0.2～0.8mで検出されている。主郭の縁辺部を土塁跡と堀跡が方形に廻っている。土塁跡の高さは1.2～1.3mである。堀跡は土塁跡の外側にあり、南辺と東辺ではほぼ同規模の堀跡が2条並行して検出され、各堀跡の規模は幅約3～5m、深さ約1～2mとなっている。北辺と西辺では畑地、住宅地が残るため、一部のみの検出である。

遺物は陶磁器、土器、木製品、銅・鉄製品、銭貨が出土している。陶器には瀬戸、越前、珠洲系が含まれ、皿、擂鉢、甕・壺類等がみられる。木製品は箸、漆器であり、銭貨は寛永通寶の銭銘が確認できる。また青銅製品としては、経筒の蓋が出土している。

8　所見

①遺跡の種類

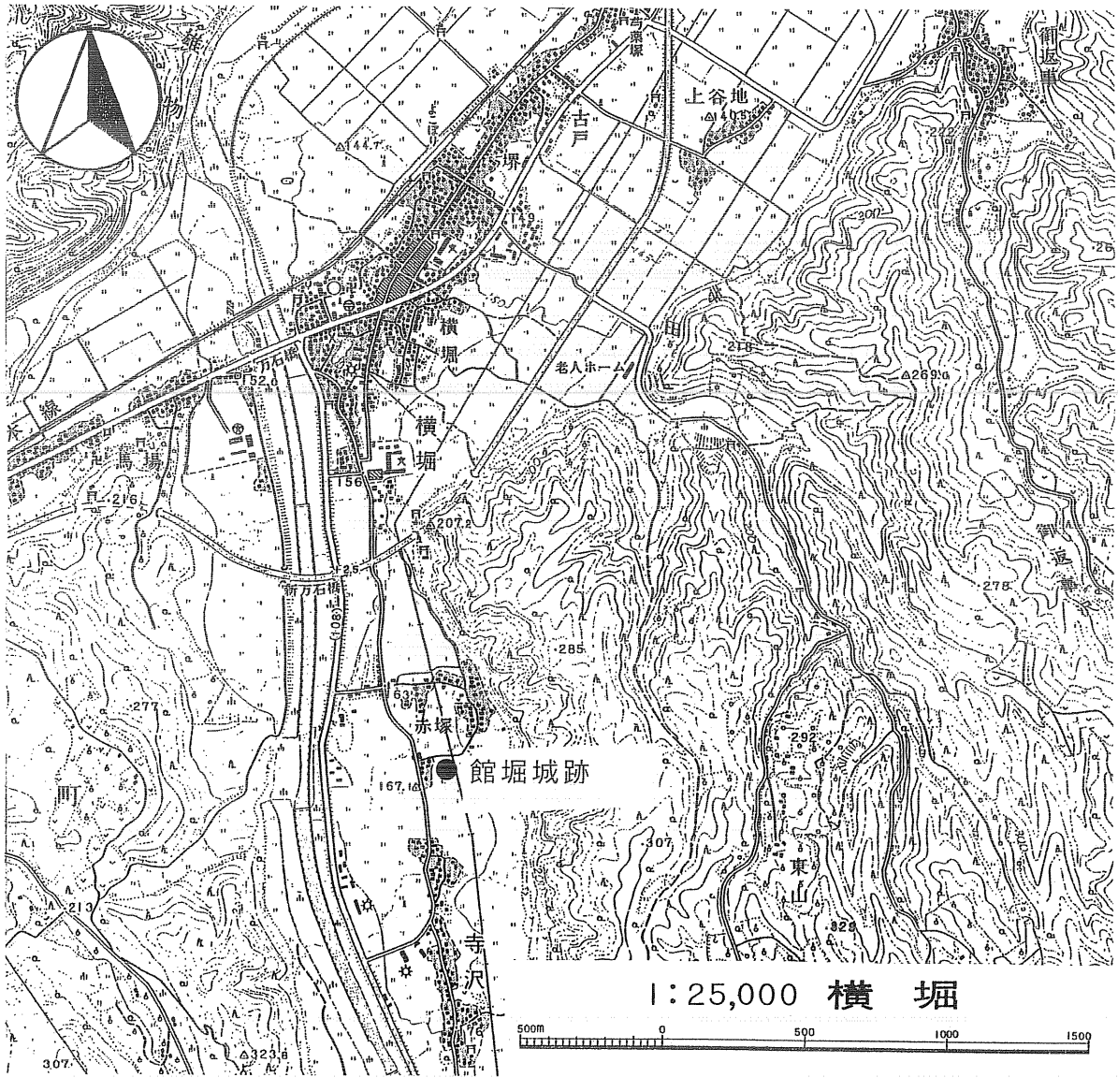
中世の城跡であり、平地居館が想定できる。

②遺跡の範囲と工事区域(第84図)

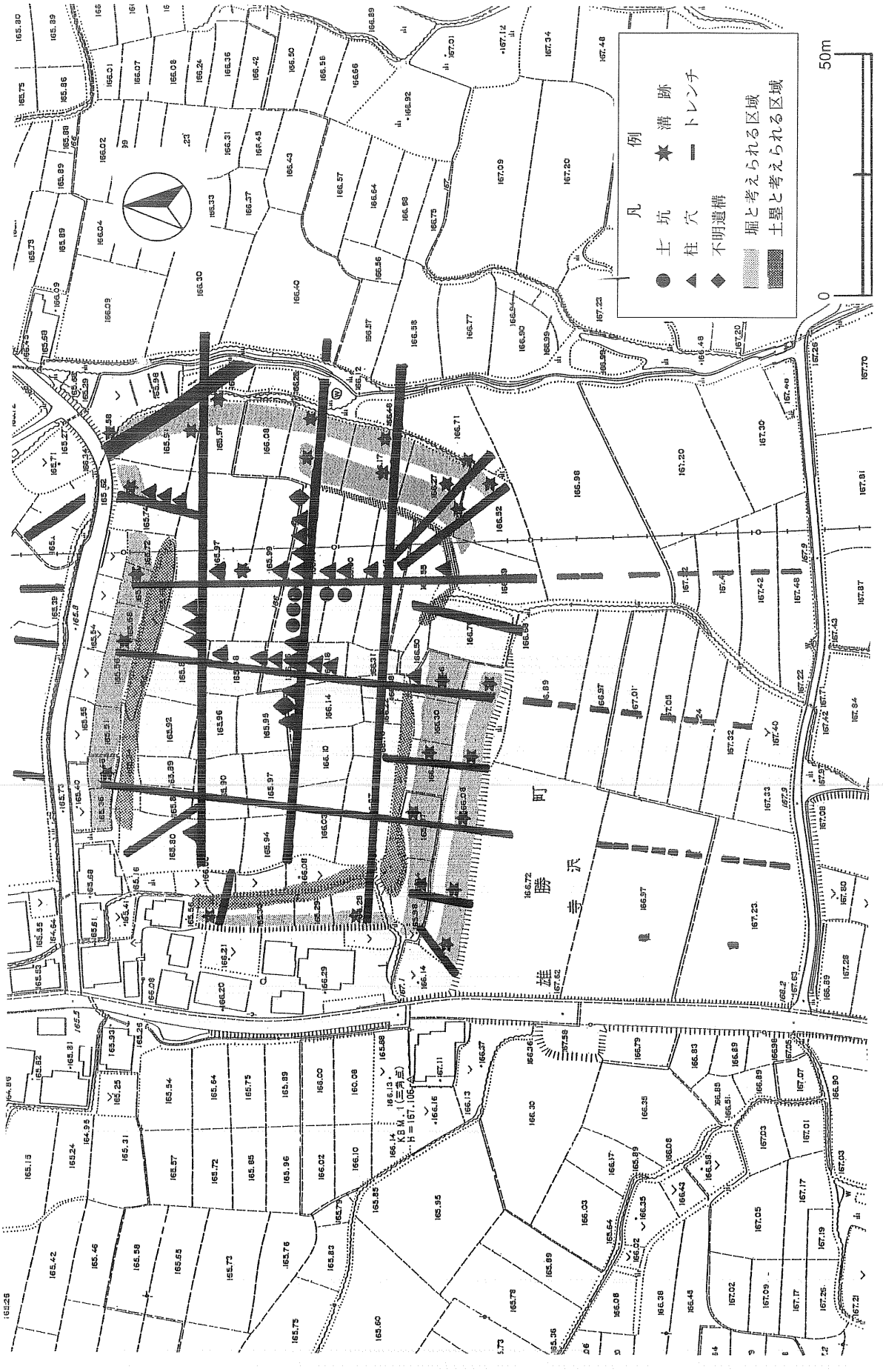
工事区域は寺沢地区の水田全域であり、試掘の結果、発掘調査の必要な範囲は堀とその内側を含む区域で、21,000㎡である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は中世の城跡に伴う堀、土塁、板塀跡、柱穴、井戸跡、竪穴状遺構等が500～600基程度、遺物は中・近世の陶磁器、銅・鉄製品、木製品等が出土すると予想される。



第81図　館堀城跡位置図



第82図　館堀城跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）

第83図　館堀城跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）